

8. 8. 動物

8.8. 動物

8.8.1. 現況調査

(1) 調査内容

調査内容は、表 8.8-1に示すとおりとした。

表 8.8-1 調査内容（動物）

調査内容	
動物	1. 動物相及び注目すべき種 ・動物相 ・注目すべき種 2. 注目すべき生息地

(2) 調査方法

ア 既存資料調査

調査方法は、表 8.8-2に示すとおりとした。

表 8.8-2 調査方法（動物：既存資料調査）

調査内容	調査方法
1. 動物相及び注目すべき種 ・動物相 ・注目すべき種	「平成 12 年 3 月評価書」及び「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）等から、対象事業計画地及び近傍の動物相及び注目すべき種を整理するものとした。
2. 注目すべき生息地	

イ 現地調査

調査方法は、表 8.8-3に示すとおりとした。また、「動物相及び注目すべき種」における各分類群の調査方法は、表 8.8-4に示すとおりとした。

表 8.8-3 調査方法（動物：現地調査）

調査内容	調査方法
1. 動物相及び注目すべき種 ・動物相	調査範囲内を踏査し、目視や採集により生息する動物種を確認するとともに確認種リストを作成するものとした。
1. 動物相及び注目すべき種 ・注目すべき種	環境省レッドデータブック、宮城県レッドリスト、仙台市自然環境基礎調査報告書に示されている保全上重要な動物種の選定基準等※1に基づき、注目すべき種を選定し、生息位置、個体数、生息状況等について記録するものとした。
2. 注目すべき生息地	注目すべき生息地※2が確認された場合には、生息種、生息密度、生息環境等について調査を実施するものとした。

※1：前掲「表 6.1-100 注目すべき種の選定基準」参照

※2：前掲「表 6.1-107 保全上重要な動植物の生息地・生育地選定のための基準」参照

表 8.8-4 調査方法（動物（各分類群）：現地調査）

調査内容	調査方法	
1. 動物相及び注目すべき種 ・動物相 ・注目すべき種	哺乳類	足跡、糞等のフィールドサイン調査、ネズミ類等の小型哺乳類を対象とした捕獲（トラップ）調査、キツネ等の中型哺乳類及びイノシシ等の大型哺乳類を対象とした自動撮影調査、コウモリ類を対象としたバットディテクタ調査により生息種を確認するものとした。
	鳥類	生息種、個体数を記録するラインセンサス及び定点センサス調査により生息種を確認するものとした。また、猛禽類を対象とした定点調査を実施するものとした。さらにフクロウ類を対象とした夜間調査も実施するものとした。
	爬虫類 ・両生類	卵、幼生、生体の目視、鳴き声等により任意観察調査を実施し、生息種を確認するものとした。また、主にカエル類を対象に夜間調査を実施した。
	昆虫類	目視や捕虫網を用いた任意観察採取調査（水域を含む）のほか、ベイトトラップ調査により生息種を確認するものとした。また、ホタル類等を対象とした夜間の任意調査及び走光性昆虫を対象としたライトトラップ調査も実施するものとした。
	水生動物	魚類及び底生動物を対象として調査範囲内の河川、ため池等において、たも網・カゴ網等を用いた捕獲調査及び任意調査により生息種を確認するものとした。また、河川においては底生動物の定量採集を実施するものとした。

(3) 調査地域及び調査地点

ア 既存資料調査

調査地域は、表 8.8-5に示すとおりとした。

表 8.8-5 調査地域（動物：既存資料調査）

調査内容	調査地域
1. 動物相及び注目すべき種 ・動物相 ・注目すべき種	調査地域は、「6. 地域の概況」における調査範囲（図 6-1 参照）と同様とした。
2. 注目すべき生息地	

イ 現地調査

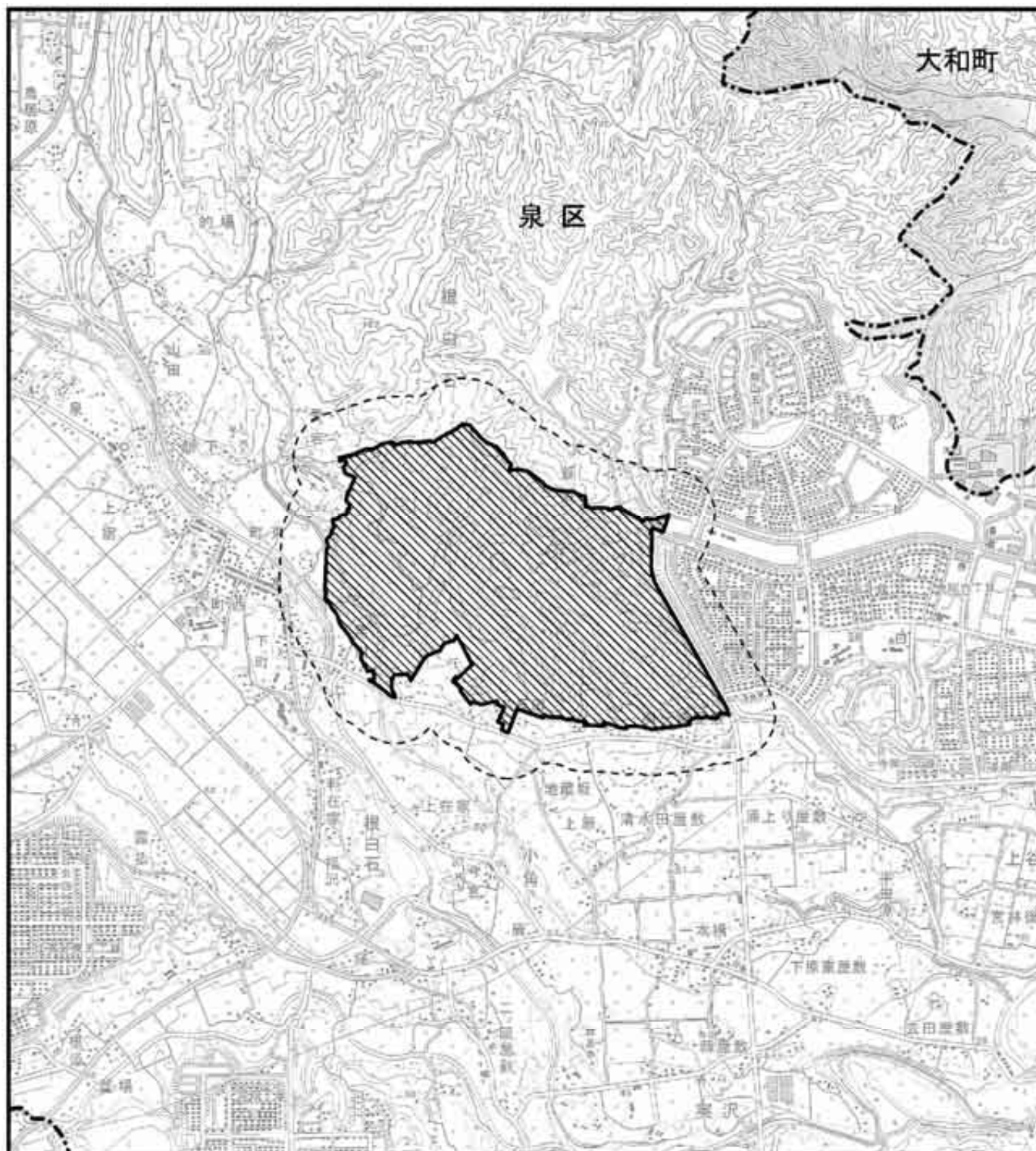
調査地域及び調査地点は、表 8.8-6に示すとおりとした。また、「動物相及び注目すべき種」における各分類群の調査地点及び地点概要は、表 8.8-7に示すとおりとした。

表 8.8-6 調査地域及び調査地点（動物：現地調査）




調査内容	調査地域及び調査地点
1. 動物相及び注目すべき種 ・動物相 ・注目すべき種	調査地域は、図 8.8-1に示す対象事業計画地及びその周辺約 200m の範囲とした。 トラップ等の調査地点は植生や土地利用等を考慮し、調査範囲内のさまざまな環境条件を網羅するように設定するものとした。行動圏の広いオオタカ等の猛禽類については、その行動圏を把握できる範囲とした。また、水生動物については、必要に応じて対象事業計画地を集水域とする水系の下流部についても調査を実施するものとした。
2. 注目すべき生息地	調査地域は、図 8.8-1に示す対象事業計画地及びその周辺約 200m の範囲とした。 行動圏の広いオオタカ等の猛禽類については、その行動圏を把握できる範囲とした。また、水生動物については、必要に応じて対象事業計画地を集水域とする水系の下流部についても調査を実施するものとした。

表 8.8-7 調査地点及び地点概要（動物（各分類群）：現地調査）

調査内容	調査方法	調査地点	対象事業 計画地の 内・外	場所、特徴など
1. 動物相及び注目すべき種 ・ 動物相 ・ 注目すべき種				
哺乳類	フィールドサイン 調査	図 8.8-2に 示すルート		
	捕獲（トラップ） 調査	図 8.8-2に 示す T1～T6		
	自動撮影調査	図 8.8-2に 示す S1～S6		
	バットディテクタ 調査	図 8.8-2に 示すルート		
鳥類	ラインセンサス 調査	図 8.8-3に 示す R1		
		図 8.8-3に 示す R2		
		図 8.8-3に 示す R3		
	(任意調査)	図 8.8-3に 示すルート		
	定点センサス調査	図 8.8-3に 示す P1～P6		
	夜間調査	図 8.8-3に 示すルート		
	猛禽類定点調査	図 8.8-4に 示す St. 1		
		図 8.8-4に 示す St. 2		
		図 8.8-4に 示す St. 3		
		図 8.8-4に 示す St. 4		
		図 8.8-4に 示す St. 5		
		図 8.8-4に 示す St. 6		
		図 8.8-4に 示す St. 7		
		図 8.8-4に 示す St. 8		
	爬虫類 ・ 両生類	図 8.8-5に 示すルート		
昆虫類	任意観察採取調査	図 8.8-6に 示すルート		
	ベイトトラップ 調査	図 8.8-6に 示す B1～B6		
	ライトトラップ 調査	図 8.8-6に 示す L1～L6		
水生動物	捕獲調査	図 8.8-7に 示す No. 1		
		図 8.8-7に 示す No. 2		
		図 8.8-7に 示す No. 3		
		図 8.8-7に 示す No. 4		
		図 8.8-7に 示す No. 5		
	任意調査	図 8.8-7に 示す No. 6～ No. 16		



凡 例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区境界線
-  : 動物調査地域図
(対象事業計画地の敷地境界より約200mの範囲)



S=1:25,000

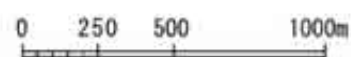
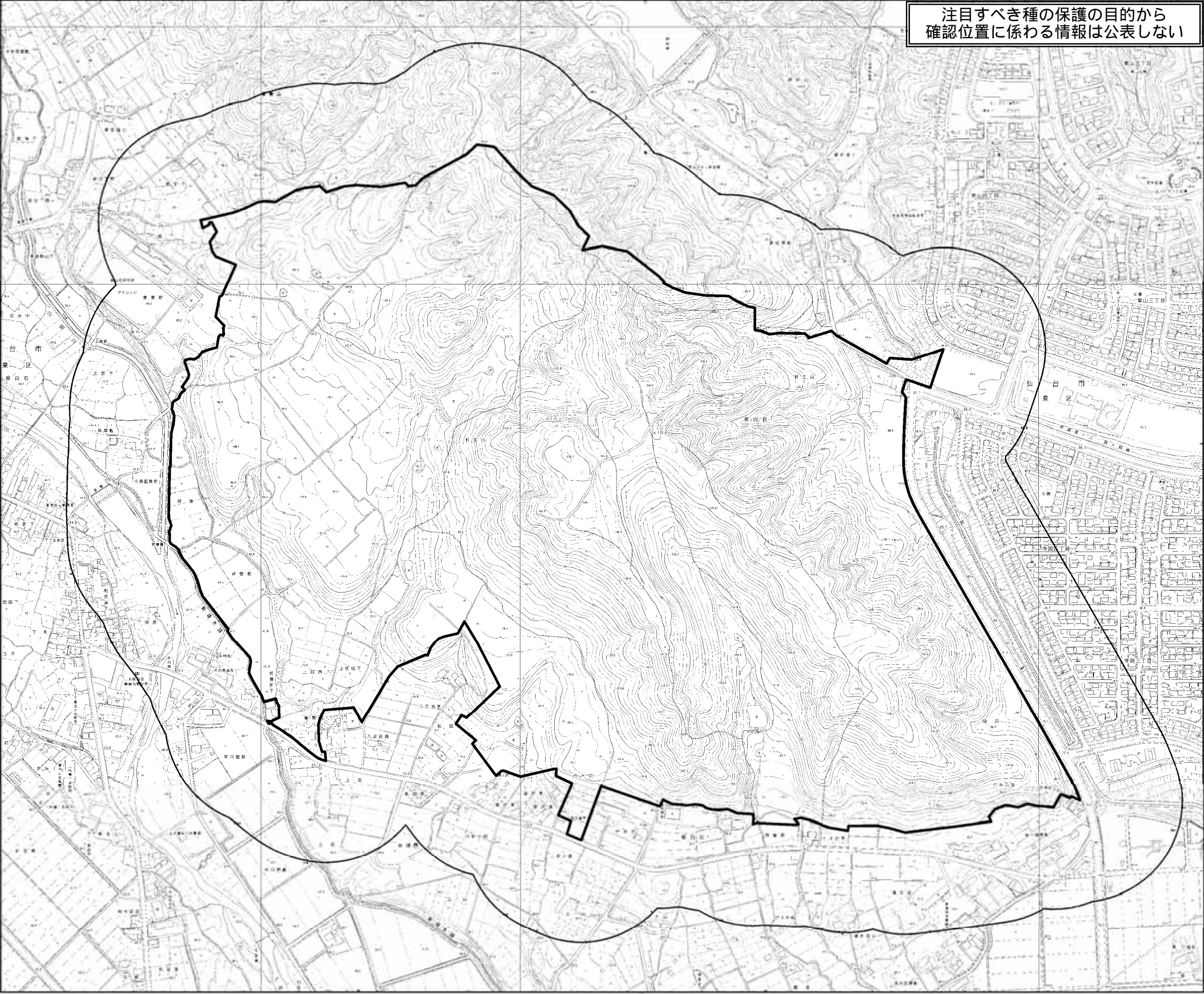


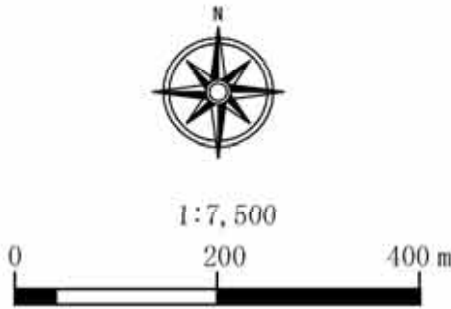
図 8.8-1
動物調査地域図
(現地調査)

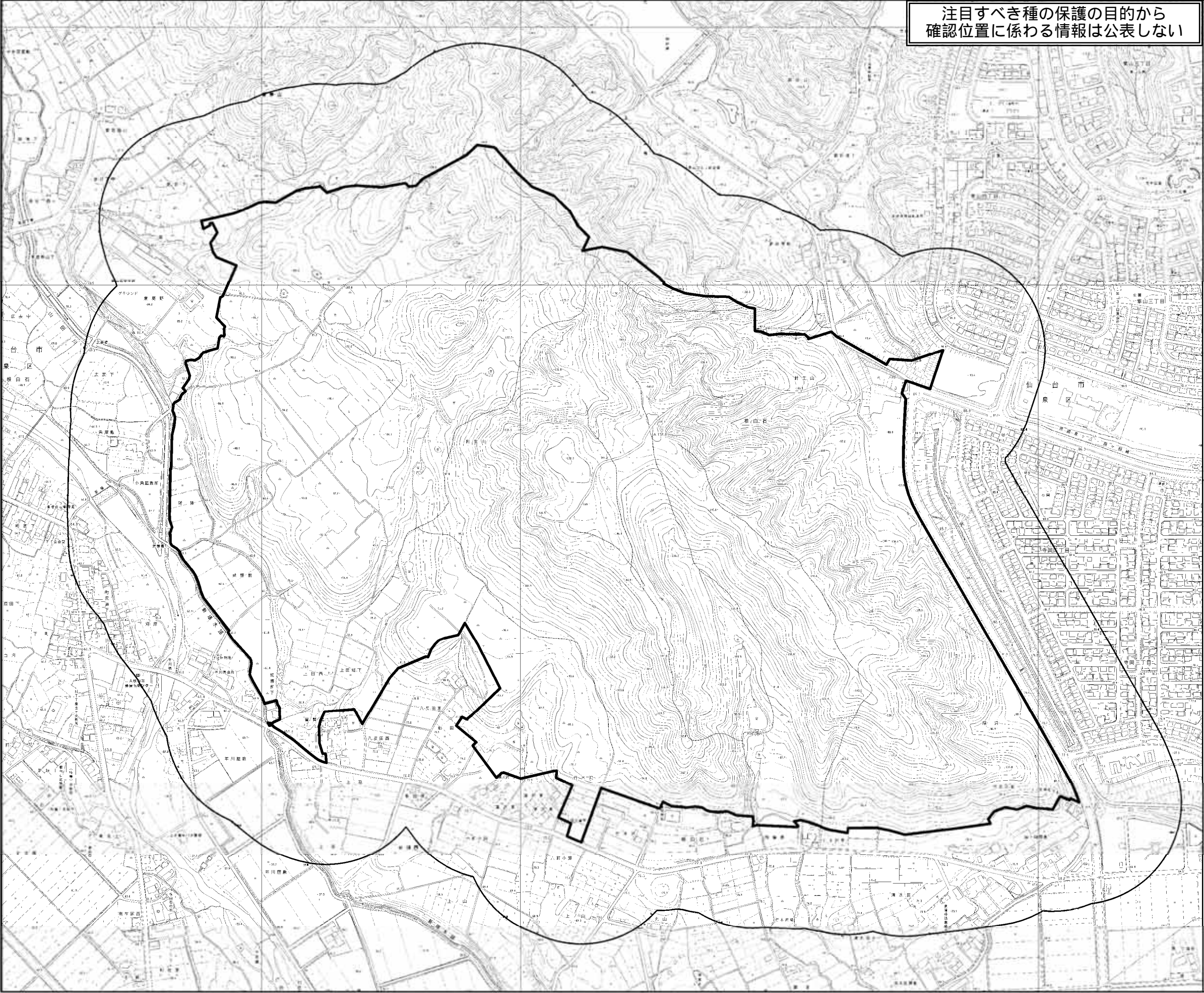


注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

凡 例	
	早春季踏査ルート
	春季踏査ルート
	夏季踏査ルート
	秋季踏査ルート
	冬季踏査ルート
	捕獲(トラップ)調査(T)
	自動撮影調査(S)
	対象事業計画地
	調査範囲

図 8.8-2 動物相及び注目すべき種の
調査地点（哺乳類）





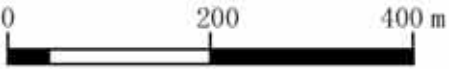
注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

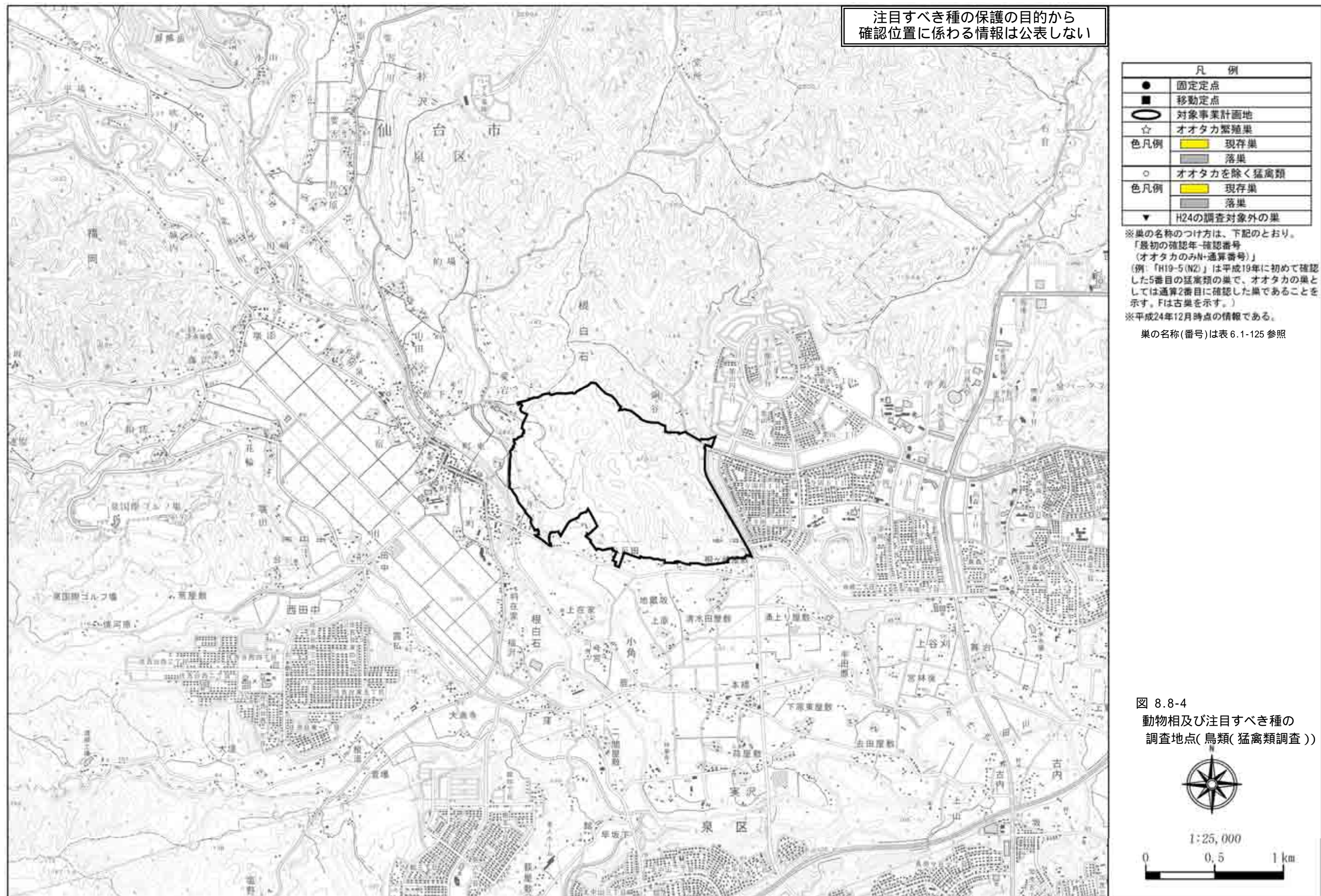
凡 例	
	ラインセンサス調査(R)
	定点センサス調査(P)
	春季踏査ルート
	夏季踏査ルート
	秋季踏査ルート
	冬季踏査ルート
	対象事業計画地
	調査範囲

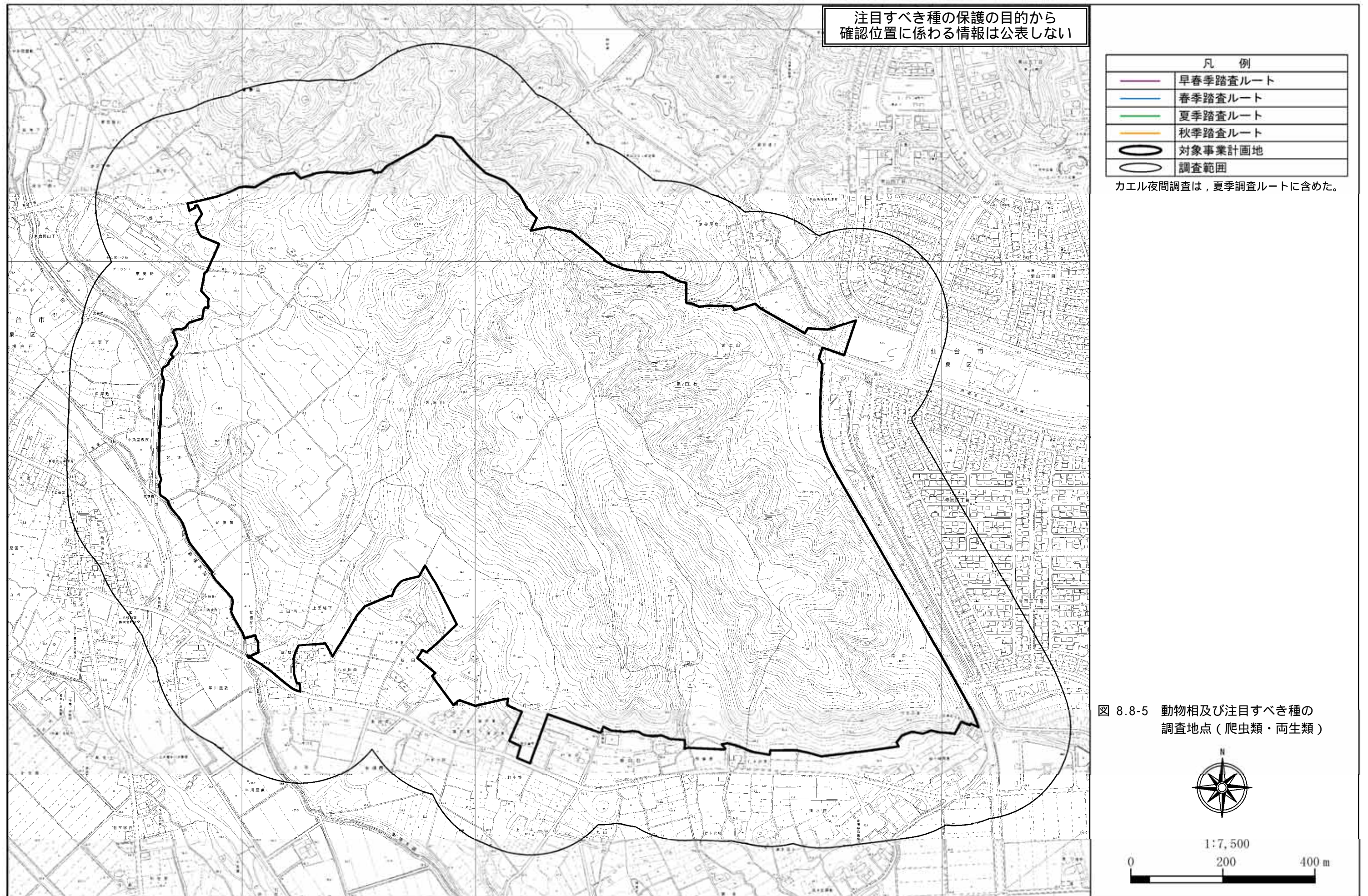
図 8.8-3 動物相及び注目すべき種の
調査地点（鳥類）

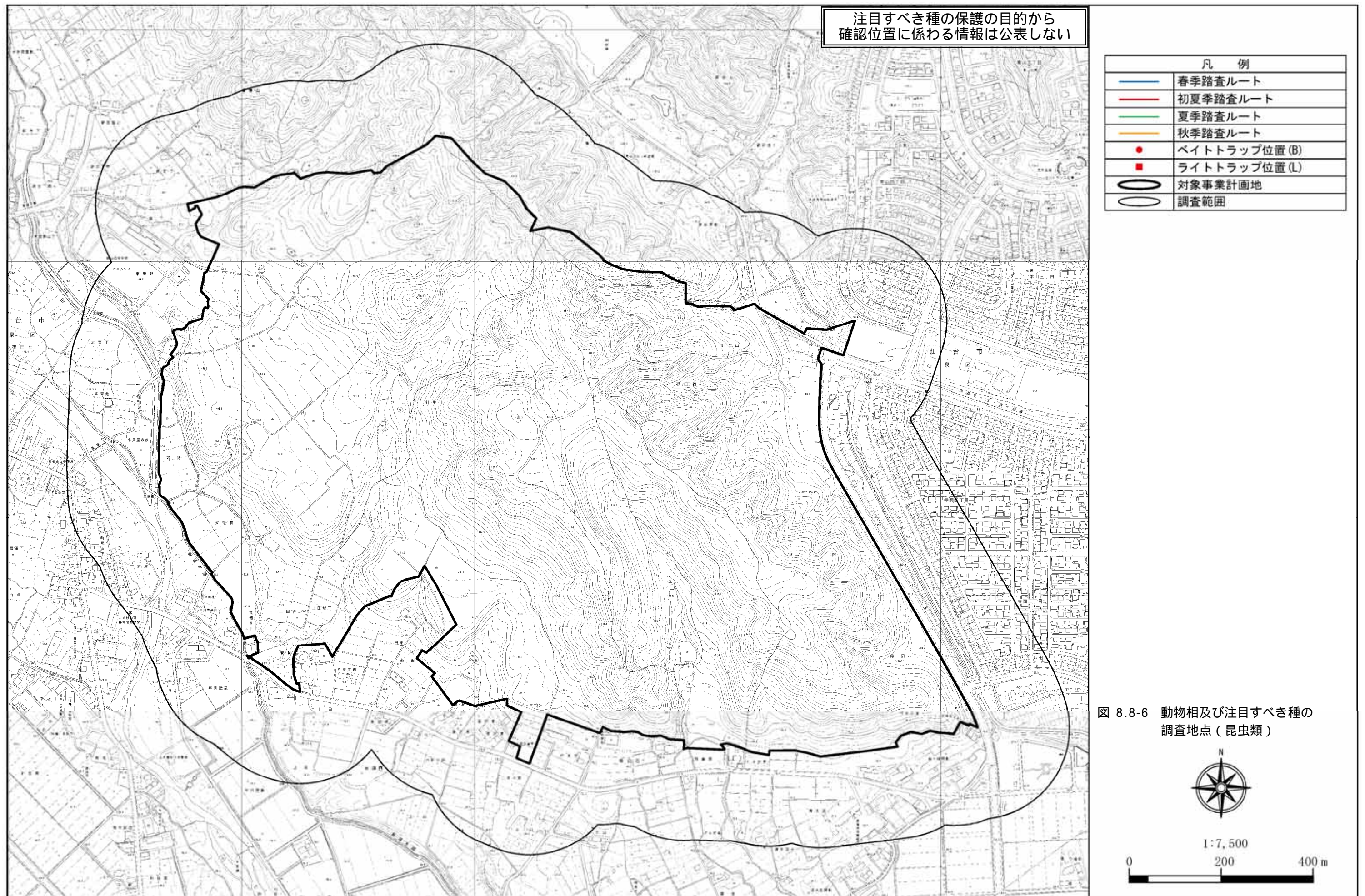


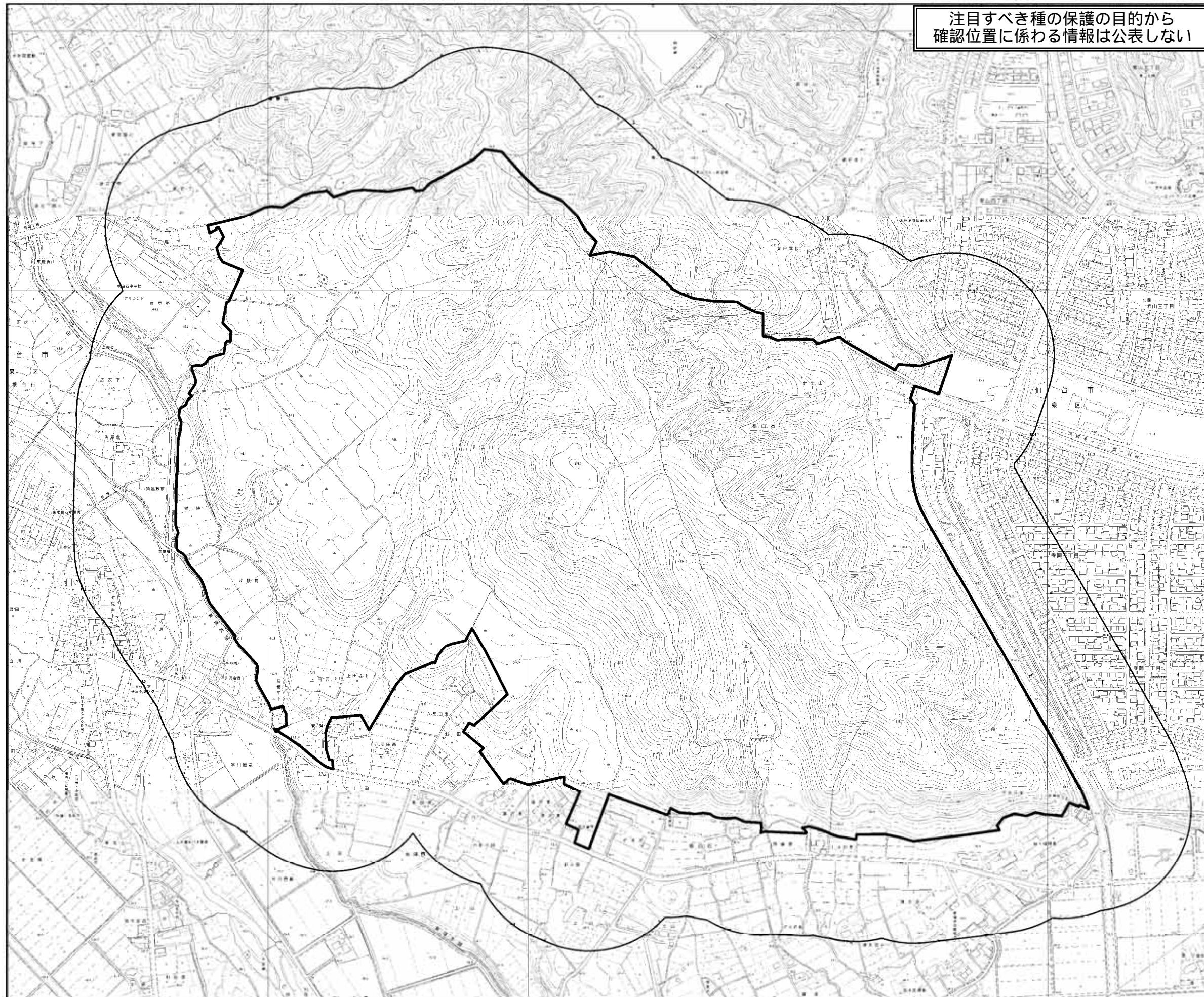
1:7,500











注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

凡 例	
	捕獲調査
	任意調査
	対象事業計画地
	調査範囲

図 8.8-7 動物相及び注目すべき種の
調査地点（水生動物）



1:7,500



(4) 調査時期及び調査期間

ア 既存資料調査

調査期間は、限定しないものとした。

イ 現地調査

調査時期及び調査期間は、表 8.8-8(1)～(2)に示すとおりとした。

表 8.8-8(1) 調査時期及び調査期間（動物：現地調査）(1/2)

調査内容	分類	調査方法	調査時期	調査期間
1. 動物相及び 注目すべき種 ・動物相 ・注目すべき種	哺乳類	フィールドサイン調査	春季	平成 26 年 5 月 29 日 (木) ～平成 26 年 5 月 31 日 (土)
			夏季	平成 26 年 7 月 28 日 (月) ～平成 26 年 7 月 30 日 (水)
			秋季	平成 26 年 9 月 29 日 (月) ～平成 26 年 10 月 1 日 (水)
			冬季	平成 26 年 2 月 3 日 (月) ～平成 26 年 2 月 5 日 (水)
		捕獲調査	春季	平成 26 年 5 月 29 日 (木) ～平成 26 年 5 月 31 日 (土)
			秋季	平成 26 年 9 月 22 日 (月) ～平成 26 年 9 月 24 日 (水)
		自動撮影調査	春季	平成 26 年 5 月 29 日 (木) ～平成 26 年 5 月 31 日 (土)
			夏季	平成 26 年 7 月 28 日 (月) ～平成 26 年 7 月 30 日 (水)
			秋季	平成 26 年 9 月 22 日 (月) ～平成 26 年 9 月 24 日 (水)
			冬季	平成 26 年 2 月 3 日 (月) ～平成 26 年 2 月 5 日 (水)
		バットディテクタ調査	春季	平成 26 年 5 月 30 日 (金) ～平成 26 年 5 月 31 日 (土)
			夏季	平成 26 年 7 月 28 日 (月) ～平成 26 年 7 月 29 日 (火)
			秋季	平成 26 年 9 月 22 日 (月) ～平成 26 年 9 月 23 日 (火)
	鳥類	ラインセンサス調査 定点センサス調査	春季	平成 26 年 5 月 21 日 (水) ～平成 26 年 5 月 23 日 (金)
			夏季	平成 26 年 7 月 22 日 (火) ～平成 26 年 7 月 24 日 (木)
			秋季	平成 26 年 10 月 6 日 (月) ～平成 26 年 10 月 8 日 (水)
			冬季	平成 26 年 2 月 3 日 (月) ～平成 26 年 2 月 5 日 (水)
		夜間調査	春季	平成 26 年 5 月 30 日 (金) ～平成 26 年 5 月 31 日 (土)
			初夏季	平成 26 年 7 月 2 日 (水)
			夏季	平成 26 年 7 月 28 日 (月) ～平成 26 年 7 月 29 日 (火)
		猛禽類定点調査	一 繁 殖 期 目	平成 25 年 2 月 13 日 (水) ～平成 25 年 2 月 15 日 (金)
				平成 25 年 3 月 14 日 (木) ～平成 25 年 3 月 16 日 (土)
				平成 25 年 4 月 25 日 (木) ～平成 25 年 4 月 27 日 (土)
				平成 25 年 5 月 16 日 (木) ～平成 25 年 5 月 18 日 (土)
				平成 25 年 6 月 13 日 (木) ～平成 25 年 6 月 15 日 (土)
				平成 25 年 7 月 11 日 (木) ～平成 25 年 7 月 13 日 (土)
				平成 25 年 8 月 8 日 (木) ～平成 25 年 8 月 10 日 (土)
			※ 非 繁 殖 期	平成 25 年 9 月 9 日 (月)
				平成 25 年 10 月 21 日 (月)
			一 二 繁 殖 期 目	平成 25 年 11 月 25 日 (月)
				平成 25 年 12 月 24 日 (火)
				平成 26 年 1 月 20 日 (月)
				平成 26 年 2 月 12 日 (水) ～平成 26 年 2 月 14 日 (金)
				平成 26 年 3 月 10 日 (月) ～平成 26 年 3 月 12 日 (水)
				平成 26 年 4 月 8 日 (火) ～平成 26 年 4 月 10 日 (木)
				平成 26 年 5 月 7 日 (水) ～平成 26 年 5 月 9 日 (金)
				平成 26 年 6 月 4 日 (水) ～平成 26 年 6 月 6 日 (金)
				平成 26 年 7 月 2 日 (水) ～平成 26 年 7 月 4 日 (金)
				平成 26 年 8 月 4 日 (月) ～平成 26 年 8 月 6 日 (水)
	爬虫類 ・両生類	任意観察調査	早春季	平成 26 年 4 月 30 日 (水)
			春季	平成 26 年 5 月 29 日 (木) ～平成 26 年 5 月 31 日 (土)
			夏季	平成 26 年 7 月 28 日 (月) ～平成 26 年 7 月 30 日 (水)
			秋季	平成 27 年 7 月 28 日 (火) (カエル類夜間調査)
			秋季	平成 26 年 9 月 29 日 (月) ～平成 26 年 10 月 1 日 (水)

※猛禽類定点調査の非繁殖期は、猛禽類が非繁殖期にも対象事業計画地周辺を利用しているのか、もしくは対象事業計画地周辺に越冬のためだけに飛来し営巣には関係ない個体がいるのかを調査するため、表 8.8-7に示す 8 定点のうち 4 定点 (St. 1, St. 2, St. 4, St. 5) で調査を実施した。

表 8.8-8(2) 調査時期及び調査期間（動物：現地調査）(2/2)

調査内容	分類	調査方法	調査時期	調査期間
1. 動物相及び 注目すべき種 ・動物相 ・注目すべき種	昆虫類	任意観察採取調査	春季	平成 26 年 5 月 21 日（水）～平成 26 年 5 月 23 日（金）
			初夏季	平成 26 年 7 月 5 日（土）（ホタル類補足調査）
			夏季	平成 26 年 7 月 30 日（水）～平成 26 年 8 月 2 日（土）
			秋季	平成 26 年 10 月 10 日（金）～平成 26 年 10 月 11 日（土）
		ベイトトラップ調査 ライトトラップ調査	春季	平成 26 年 5 月 29 日（木）～平成 26 年 5 月 31 日（土）
			夏季	平成 26 年 7 月 31 日（木）～平成 26 年 8 月 2 日（土）
			秋季	平成 26 年 9 月 22 日（月）～平成 26 年 9 月 24 日（水）
水生動物	捕獲調査 任意調査	春季	平成 26 年 5 月 26 日（月）～平成 26 年 5 月 28 日（水）	
		夏季	平成 26 年 8 月 4 日（月）～平成 26 年 8 月 6 日（水）	
		秋季	平成 26 年 11 月 4 日（火）～平成 26 年 11 月 7 日（金）	
2. 注目すべき 生息地	繁殖期や季節による変化を考慮し、適切かつ効率の良い調査時期、頻度を選定するものとした。			

(5) 調査結果

ア 既存資料調査

動物相及び注目すべき種

対象事業計画地及びその周辺の動物相及び注目すべき種の状況は、「6 地域の概況 6.1 自然的状況 6.1.4 生物環境」に示すとおりである。

注目すべき生息地

対象事業計画地及びその周辺の注目すべき生息地の状況は、「6 地域の概況 6.1 自然的状況 6.1.4 生物環境」に示すとおりである。

イ 現地調査

動物相及び注目すべき種

a) 哺乳類

(i) 確認種

調査範囲の丘陵地にはコナラを主体とした落葉広葉樹林やスギ植林に代表される針葉樹林が広がっている。一方、平野部には水田や休耕田、ヤナギ低木林のほか、住宅地が広がっている。また、調査範囲内には七北田川や山田川のような河川の他、ため池が点在するなど水辺環境も複数存在している。このような環境でフィールドサイン調査及び捕獲調査、自動撮影調査、夜間のバットディテクタ調査を実施した。その結果、表 8.8-9に示すとおり 6 目 11 科 16 種（春季調査では 6 目 10 科 13 種、夏季調査では 6 目 10 科 12 種、秋季調査では 6 目 10 科 12 種、冬季調査では 5 目 8 科 11 種）の哺乳類が確認された。

主に [] で確認された種は、ニホンリス、ムササビ、ツキノワグマ、カモシカの 4 種であった。ニホンリスは形態的特徴から樹上生活を好み、移動の約 80% も林冠層を利用するといわれている。ムササビは主に樹洞で繁殖・休息し、樹木の芽・花・果実を主に採食する。また、滑空という手段によって移動しているため、樹林環境への依存度が高い。ツキノワグマは植物質に偏って採食しており、栄養価の高いコナラやミズナラ等の堅果を好んで採食するため、落葉広葉樹林が主な生息地となる。カモシカも主な生息環境は落葉広葉樹林である。このように樹林に依存する哺乳類が確認されたことは、調査範囲の樹林環境が健全に維持されていることを示唆していると考えられる。

一方、[] の河川沿いではアズマモグラ、ヒナコウモリ科 1、ヒナコウモリ科 2 などを確認した。アズマモグラは地中性であり、柔らかくて湿った土壌を好むため、[] で主に確認されたものと考えられる。ヒナコウモリ科 1 やヒナコウモリ科 2 は、[] で確認であった。バットディテクタの周波数やコウモリ類の分布状況から、ヒナコウモリ科 1 (周波数のピーク: 20kHz) はヤマコウモリまたはヒナコウモリ、ヒナコウモリ科 2 はヤマコウモリ及びヒナコウモリを除く、ヒナコウモリ科のいずれかの種であると考えられる。ヒナコウモリ科 1 及びヒナコウモリ科 2 のいずれも [] で確認され、このような開けた環境を採餌空間として利用し [] に集まる飛翔昆虫を採餌していたものと考えられる。

[] では、ノウサギのほか、タヌキ、キツネ、テン、イタチ、イノシシ等の雑食性哺乳類を確認した。ノウサギの生活には採餌場としての草地環境、隠れ場としての樹林環境といった複数の異なる環境を必要としているため、[] で確認されたと考えられる。タヌキやキツネ等の雑食性哺乳類については、多様な環境に分布する多様な餌資源を利用するため、[] で確認されたと考えられる。また、雑食性動物であるハクビシンを [] で確認した。確認例数が少ないため、詳細な確認状況は不明であるが、雑食性であることを踏まえると [] を利用していると予想される。

表 8.8-9 確認種（哺乳類：現地調査）

No.	目名	科名	種名	学名	確認時期				確認形態		
					春季	夏季	秋季	冬季	フィールド・サイン調査	自動撮影調査	捕獲（トラップ）調査
1	モグウ（食虫）	モグウ	ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>	○						○
2			アズマモグウ	<i>Mogera imaizumii</i>	○	○	○	○	塚, 死体		
3	コウモリ（翼手）	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科 1 ^{*1}	<i>Vespertilionidae</i> sp.1	○	○	○		バットディテクタ		
4			ヒナコウモリ科 2 ^{*2}	<i>Vespertilionidae</i> sp.2	○	○	○		バットディテクタ		
5	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	○	○	○	○	目撃, 糞	○	
6	ネズミ（齧歯）	リス	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	○	○	○	○	目撃, 食痕		
7			ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>				○	糞, 食痕		
8		ネズミ	アネズミ	<i>Apodemus speciosus speciosus</i>	○		○		食痕	○	○
9	ネコ（食肉）	クマ	ウシワケマ	<i>Selenarctos thibetanus</i>	○	○	○	○	目撃, 糞, 足跡, 爪痕	○	
10			イヌ	<i>Nyctereutes procyonoides viverrinus</i>	○	○	○	○	糞, 足跡	○	
11			キツネ	<i>Vulpes vulpes japonica</i>	○		○	○	糞	○	
12		イタチ	テン	<i>Martes melampus melampus</i>		○	○	○	糞		
13			イタチ	<i>Mustela itatsi itatsi</i>	○	○		○	糞		
14		シヤコウネコ	ハクビシ	<i>Paguma larvata</i>		○			目撃	○	
15	ウシ（偶蹄）	イノシシ	イノシシ	<i>Sus scrofa leucomystax</i>	○	○	○	○	糞, 足跡, 掘り返し, ぬた場	○	
16		ウシ	カモシカ	<i>Capricornis crispus</i>	○	○	○	○	目撃, 糞, 足跡		
-	6 目	11 科	16 種	-	13 種	12 種	12 種	11 種	15 種	7 種	2 種

※：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 26 年度生物リスト（河川環境データベース 国土交通省 2015 年）」に準拠した。

*1: ヒナコウモリ科 1 は、確認した周波数のピーク（20～25kHz）やバットディテクタの入感音、確認環境や分布情報等よりヤマコウモリまたはヒナコウモリの可能性が高い。同科のヒナコウモリ科 2 とは別種である可能性が高いため、種数の合計には計上する。

*2: ヒナコウモリ科 2 は、確認した周波数のピークが「40～50kHz」であった。ヤマコウモリやヒナコウモリを除く、多くのヒナコウモリ科の周波数は「40～50kHz」を含むため、種を推定することは困難である。但し、同科のヒナコウモリ科 1 とは別種である可能性が高いため、種数の合計には計上する。

【自動撮影調査】(S1～S6 は表 8.8-7に示す自動撮影調査地点を示す)

自動撮影調査で確認された哺乳類は、表 8.8-10に示すとおりである。ノウサギ、アカネズミ、ツキノワグマ、タヌキ、キツネ、ハクビシン、イノシシの7種を確認した。

■■■■■■■■■■ S1 においてノウサギ、ツキノワグマ、タヌキ、イノシシの4種が確認され、確認種数が最も多かった。次いで、■■■■■■■■■■ S3 でタヌキ、キツネ、イノシシの3種が確認された。コナラ林(ササ密生)に設定した S2 でタヌキとハクビシンの2種、■■■■■■■■■■ S5 でノウサギとイノシシの2種、■■■■■■■■■■ S4 でアカネズミの1種、■■■■■■■■■■ S6 でタヌキの1種がそれぞれ確認された。

表 8.8-10 確認種(哺乳類：現地調査：自動撮影調査)

地点番号	周辺植生	確認時期				計
		春季	夏季	秋季	冬季	
S1	■■■■■■■■■■	確認なし	タヌキ:1	ツキノワグマ:1 タヌキ:1 イノシシ:1	ノウサギ:1 タヌキ:1	4種
S2	■■■■■■■■■■	確認なし	タヌキ:1 ハクビシン:3	確認なし	タヌキ:1	2種
S3	■■■■■■■■■■	タヌキ:1 キツネ:1	確認なし	タヌキ:1	タヌキ:1 キツネ:1 イノシシ:1	3種
S4	■■■■■■■■■■	確認なし	確認なし	アカネズミ:1	確認なし	1種
S5	■■■■■■■■■■	ノウサギ:1	確認なし	確認なし	イノシシ:1	2種
S6	■■■■■■■■■■	確認なし	タヌキ:1	タヌキ:1	確認なし	1種
計		3種	2種	4種	4種	7種

※：表中の数値は確認数を示す。

【捕獲(トラップ)調査】(T1～T6 は表 8.8-7に示す捕獲(トラップ)調査地点を示す)

捕獲(トラップ)調査で確認された哺乳類は、表 8.8-11に示すとおりである。ヒミズ、アカネズミの2種が確認された。

■■■■■■■■■■ T1 において、ヒミズとアカネズミの2種が確認され、捕獲合計個体数も8個体(アカネズミ6個体、ヒミズ2個体)と最も多い結果となった。■■■■■■■■■■ T2及び■■■■■■■■■■ T3において、アカネズミがそれぞれ1個体ずつ確認されたが、■■■■■■■■■■ T4、■■■■■■■■■■ T5、■■■■■■■■■■ T6 では捕獲されなかった。

表 8.8-11 確認種(哺乳類：現地調査：捕獲(トラップ)調査)

地点番号	周辺植生	捕獲種	確認時期	
			春季	秋季
T1	■■■■■■■■■■	ヒミズ	2	
		アカネズミ	4	2
T2	■■■■■■■■■■	アカネズミ	1	
T3	■■■■■■■■■■	アカネズミ		1
T4	■■■■■■■■■■	捕獲なし		
T5	■■■■■■■■■■	捕獲なし		
T6	■■■■■■■■■■	捕獲なし		
計			7個体	3個体

(ii) 注目すべき種

現地調査で確認された哺乳類のうち表 8.8-13に示す選定基準に該当する注目すべき種は、表 8.8-12に示すとおり 6 目 9 科 11 種が確認された。注目すべき種の確認位置は図 8.8-8に示すとおりである。

また、注目すべき種のうち予測対象種※の特性及び確認状況は表 8.8-15(1)～(5)に示すとおりである。

※：表 8.8-13の注目すべき種の選定基準のうち、仙台市における保全上重要な種の区分は「学術上重要種」、「減少種」、「環境指標種」、「ふれあい保全種」に区分されているが、「学術上重要種」と「減少種」の中でも以前に比べて減少傾向にあり現在ほとんど見ることが出来ず特に稀といわれている A ランクの種を予測対象種とした。B・C ランクの「減少種」及び「環境指標種・ふれあい保全種」には、調査範囲を含む仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、予測対象種からは除外した。

表 8.8-12 注目すべき種（哺乳類：現地調査）

No .	目名	科名	種名	確認時期								注目すべき種選定基準								Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ				
				春季				夏季		秋季		冬季		①	②									③	④		
				内		外		内		外		内			外		1 2 3 4 5										
				内	外	内	外	内	外	内	外	内	外		1	2	3	4	5								
1	モク ^ラ (食虫)	モク ^ラ	アズ ^マ モク ^ラ	○	○	○	○	○	○	○	○		*	C	C	C	*		○								
2	コウモリ(翼手)	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科 1 ^{*1}	○	○		○		○			1, 4 ^{*2}	C ^{*3}	B/C ^{*4}	B/C ^{*5}		C ^{*6}			VU ^{*7}	VU ^{*8}						
3	ウサギ [°]	ウサギ [°]	ノウサギ [°]	○		○	○	○		○	○		*	C	B	B	C		○								
4	ネズミ(齧歯)	リス	ニホンリス	○	○	○	○	○		○	○		*	C	B		C		○								
5			ムササビ [°]							○	1, 4	*	C	B				○									
6	ネコ(食肉)	クマ	ツキノワグマ	○	○	○		○		○		4	C	C										国際			
7		イヌ	タヌキ	○		○	○	○		○			*	C		C		○	○								
8		イタチ	テン			○		○		○			C	C				○									
9			イタチ	○		○				○			C	C	B	C	C	○	○								
10	ウシ(偶蹄)	イノシシ	イノシシ	○	○	○	○	○	○	○	○	2, 4															
11		ウシ	カモシカ	○		○		○		○	○	4	*					○				要	特天				
－	6 目	9 科	11 種	9 種	5 種	9 種	6 種	8 種	3 種	9 種	6 種	5 種	10 種	9 種	6 種	4 種	5 種	4 種	6 種	1 種	2 種	1 種	1 種				
				9 種		10 種		9 種		10 種																	

※1：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 26 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015 年)」に準拠した。

※2：注目すべき種の選定基準の区分は、表 8.8-13を参照

*1：ヒナコウモリ科 1 は、確認した周波数のピーク(20～25kHz)やバットディテクタの入感音、確認環境や分布情報等よりヤマコウモリまたはヒナコウモリの可能性が高い。

*2：ヤマコウモリ、ヒナコウモリのいずれも「1」、「4」に該当する。

*3：ヤマコウモリ、ヒナコウモリのいずれも「C」に該当する。

*4：ヤマコウモリは「B」に、ヒナコウモリは「C」に該当する。

*5：ヤマコウモリは「B」に、ヒナコウモリは「C」に該当する。

*6：ヒナコウモリは「C」に該当するが、ヤマコウモリは該当しない。

*7：ヤマコウモリは「VU」に該当するが、ヒナコウモリは該当しない。

*8：ヤマコウモリ、ヒナコウモリのいずれも「VU」に該当する。

表 8.8-13 注目すべき種の選定基準

選定基準			番号	説明
仙台市における保全上重要な種の区分	(Ⅰ) 『平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書』(仙台市, 2011 年)	学術上重要種 (①)	1	仙台市において、もともと稀産あるいは希少である種。あるいは分布が限定されている種。
			2	仙台市周辺地域が分布の北限, 南限となっている種。あるいは隔離分布となっている種。
			3	仙台市が模式産地 (タイプロカリティー) となっている種
			4	その他, 学術上重要な種
		注目種 減少種 (②)	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており, 飼育・栽培下を含め, 仙台市では既に絶滅したと考えられる種。
			EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており, 飼育・栽培下では存続しているが, 野生ではすでに絶滅したと考えられる種。
			A	現在ほとんど見ることができない。
			B	減少が著しい。
			C	減少している。
			*	普通に見られる。
			/	生息・生育しない可能性が非常に大きい。
		環境指標種 (③)	○	本市の各環境分類において良好な環境を指標する種。(ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標)
		ふれあい保全種 (④)	○	市民に親しまれている (よく知られている) 種のうち, 保全上重要な種。(身近にある種の保全に対して啓蒙をはかるための種。)
レッドデータ等	(Ⅱ) 『レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物-』(環境省, 2014 年) の掲載種	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR	絶滅危惧ⅠA 類	
		EN	絶滅危惧ⅠB 類	
		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群	
	(Ⅲ) 『宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト 2013 版－』(宮城県, 2013 年) の掲載種	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR+EN	絶滅危惧類	
		VU	絶滅危惧Ⅱ類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		要	要注目種	
	(Ⅳ) 『文化財保護法』(昭和 25 年法律第 214 号)	特天	『文化財保護法』(昭和 25 年法律第 214 号)における特別天然記念物	
		天	『文化財保護法』(昭和 25 年法律第 214 号)における天然記念物	
	(Ⅴ) 『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (種の保存法)』(平成 4 年法律第 75 号)	国内	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (種の保存法)』(平成 4 年法律第 75 号)における国内希少野生動植物	
		国際	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (種の保存法)』(平成 4 年法律第 75 号)における国際希少野生動植物	

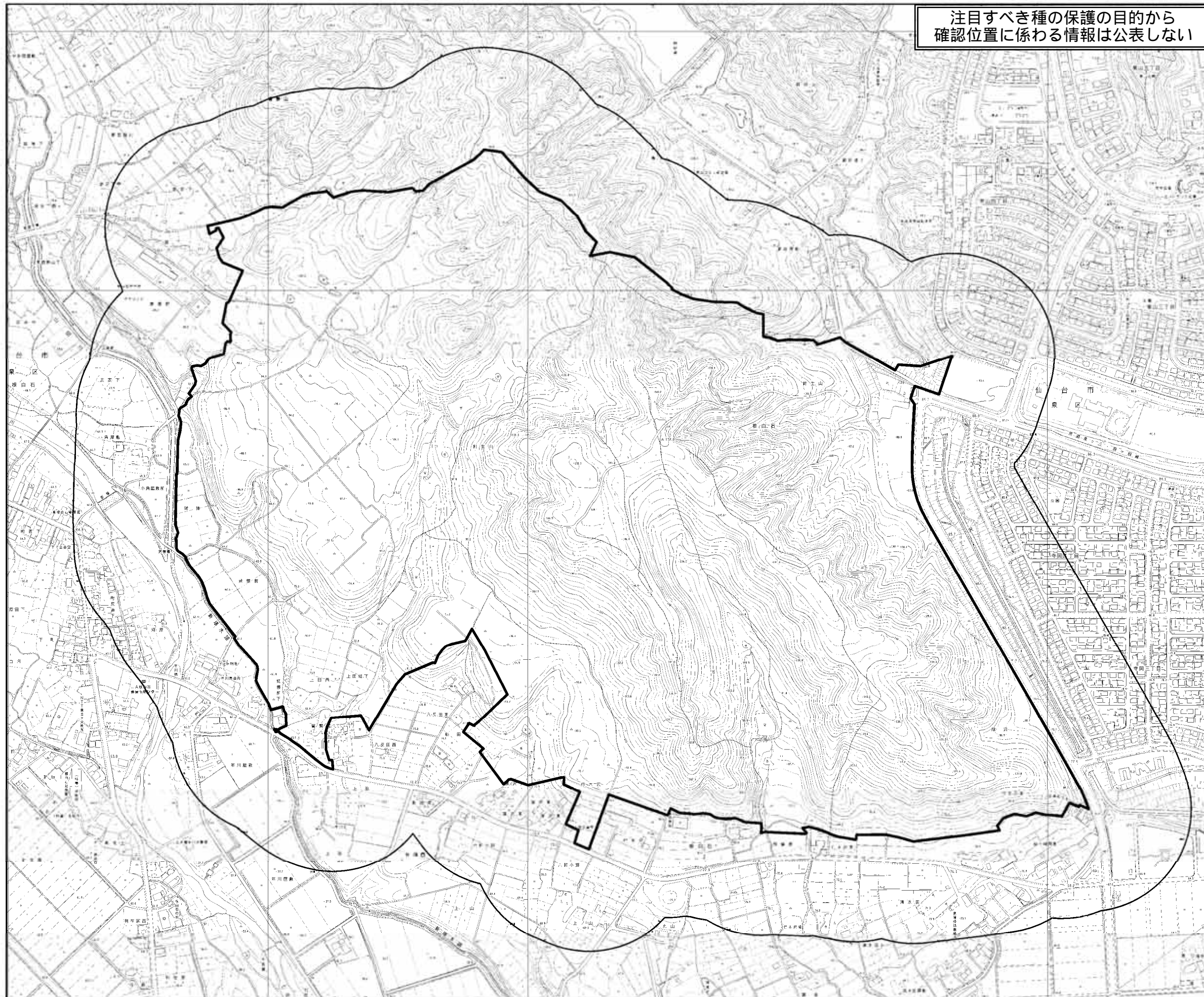
表 8.8-14 減少種の地域区分

番号	地域区分	
1	山地地域	
2	西部丘陵地・田園地域	
3	市街地地域	
4	東部田園地域	
5	海浜地域 (後背の樹林帯も含む)	

※：対象事業計画地は、「2 西部丘陵地・田園地域」に該当する。

出典：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書」(仙台市, 2011 年)

「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画 2011-2020」(仙台市, 2011 年)



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

凡 例	
▲	アズマモグラ
■	ヒナコウモリ科1
■	ヒナコウモリ科2
▼	ノウサギ
▼	ニホンリス
◆	ツキノワグマ
◆	タヌキ
★	テン
♥	イノシシ
♥	カモシカ
▼	ムササビ
★	イタチ
○	対象事業計画地
○	調査範囲

図 8.8-8 注目すべき種（哺乳類）の
確認位置（全季）

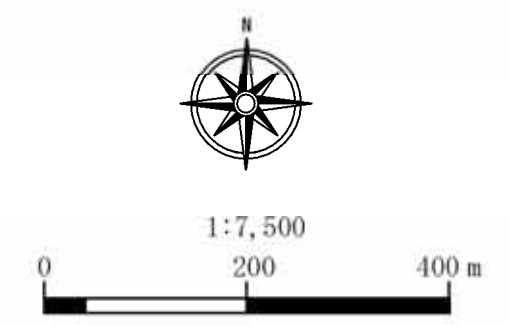


表 8.8-15(1) 予測対象種の特性及び確認状況（ヒナコウモリ科 1）

種名		ヒナコウモリ科 1*1						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1, 4*2	C*3	B/C*4	B/C*5		C*6		
	環境省 RDB		VU*7			宮城県 RL		VU*8
文化財保護法					種の保存法			
種 の 特 性 （ ）	全国分布		【ヤマコウモリ】北海道，本州，四国，九州，対馬。 【ヒナコウモリ】北海道，本州，四国，九州。					
	仙台市内の分布		【ヤマコウモリ】記録はあるが，分布・生息状況はよく分かっていない。 【ヒナコウモリ】記録はあるが，分布・生息状況はよく分かっていない。					
	形態		【ヤマコウモリ】前腕長 5.7～6.6cm，体重 35～60g で，褐色系の体毛。 【ヒナコウモリ】前腕長 4.7～5.4cm，体重 14～30g で，黒褐色系の体毛に 刺毛の先端の白っぽい毛が多数混ざり，霜ふり状に見える。					
	生息場所		【ヤマコウモリ】昼間のねぐらは樹洞である。 【ヒナコウモリ】大木の多い地域では 1 年中集団で樹洞を昼間のねぐらに している。					
	繁殖		【ヤマコウモリ】交尾は秋で，排卵・受精は翌春の冬眠覚醒後に行われ， 多くは 2 子を初夏に出産する。 【ヒナコウモリ】出産・哺育集団で初夏に 1～3 子，多くは 2 子を出産する。					
	食性		【ヤマコウモリ】1 晩に捕る昆虫類は 1 頭で体重の約半分(20g)以上になる。 ハエやガ，甲虫などを探索，捕食する。 【ヒナコウモリ】チョウ目やハエ目，コウチュウ目を主に食べる。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	3		—		24		—	
	[redacted] でバットデ イテクタにより確認した。							

※：「日本動物大百科 第 1 巻 哺乳類 I」（平凡社，1996 年）

「コウモリ識別ハンドブック改訂版」（文一総合出版，2011 年）

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

*1：ヒナコウモリ科 1 は，確認した周波数のピーク(20～25kHz)やバットディテクターの入感音，確認環境や分布情報等よりヤマコウモリまたはヒナコウモリの可能性が高い。

*2：ヤマコウモリ，ヒナコウモリのいずれも「1」，「4」に該当する。

*3：ヤマコウモリ，ヒナコウモリのいずれも「C」に該当する。

*4：ヤマコウモリは「B」に，ヒナコウモリは「C」に該当する。

*5：ヤマコウモリは「B」に，ヒナコウモリは「C」に該当する。

*6：ヒナコウモリは「C」に該当するが，ヤマコウモリは該当しない。

*7：ヤマコウモリは「VU」に該当するが，ヒナコウモリは該当しない。

*8：ヤマコウモリ，ヒナコウモリのいずれも「VU」に該当する。

表 8.8-15(2) 予測対象種の特性及び確認状況（ムササビ）

種名		ムササビ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1, 4	*	C	B				○
	環境省 RDB					宮城県 RL		
文化財保護法					種の保存法			
種 の 特 性 （ ）	全国分布		北海道と沖縄を除く全都府県。					
	仙台市内の分布		旭ヶ丘団地，経ヶ峯，広瀬川(米ヶ袋)，青葉山，二口溪谷，蕃山，太白山など。					
	形態		頭胴長 27～48cm，尾長 28～41cm，体重 700～1300g で，飛膜が発達し，毛は褐色である(東北地方は毛色が淡い)。					
	生息場所		原生林から社寺林まで，平地から 2300m 付近まで生息する。					
	繁殖		交尾期は冬と初夏の 2 回。妊娠期間平均 74 日で 1～2 子を出産する。					
	食性		様々な冬芽，葉，花，雄花，種子，果実を食べる。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	0		—		2		—	
	[redacted]で糞や食痕により確認した。							

※：「日本動物大百科 第 1 巻 哺乳類 I」（平凡社，1996 年）

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

表 8.8-15(3) 予測対象種の特性及び確認状況（ツキノワグマ）

種名			ツキノワグマ					
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	4	C	C					
	環境省 RDB					宮城県 RL		
	文化財保護法					種の保存法		国際
種 の 特 性 （ ）	全国分布		本州（北限は下北半島）、四国、九州はほぼ絶滅。					
	仙台市内の分布		蕃山、権現森、朴沢、黒鼻山、笹倉山、青下、二口溪谷、太白山など。					
	形態		頭胴長 110～130cm、体高 50～60cm、体重 40～130kg で、体色は基本的に黒色で、まれに赤茶けた体毛の個体もいる。					
	生息場所		森林が続く限り、海岸線から標高 3000m の高山帯まで生息している。					
	繁殖		交尾期は 5～7 月で、受精後の胚は着床遅延が診られ、冬眠中の 2 月に出産する。隔年で雌雄 2 頭出産するとされるが、秋の栄養蓄積状況によって産子数は 0～3 子まで変動する。					
	食性		植物食傾向の強い雑食である。各種の新芽や液果、堅果、果実類を利用する。動物質として昆虫類を利用するほか、カモシカ、シカ、家畜類などを食べる。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	14		—		1		—	
	[redacted]で目撃や糞、足跡、爪痕、自動撮影により確認した。							

※：「日本動物大百科 第 1 巻 哺乳類 I」（平凡社，1996 年）

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

表 8.8-15(4) 予測対象種の特性及び確認状況（イノシシ）

種名		イノシシ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	2, 4							
	環境省 RDB					宮城県 RL		
	文化財保護法					種の保存法		
種 の 特 性 （ ）	全国分布		西日本を中心に、北海道と日本海側の豪雪地帯を除くほぼ日本全域。					
	仙台市内の分布		太白山、下愛子、蕃山、馬越石トンネルなど。					
	形態		頭胴長 120～150cm, 肩高 60～75cm, 体重はふつう 100kg ほどである。 四肢は短めで短い牙がある。毛色はふつう黒褐色。					
	生息場所		下生えが多く、隠れ場所を提供し、餌植物が豊富な里山が好適な生息地。					
	繁殖		交尾期は 12 月下旬～3 月下旬, 出産期は 4 月下旬～7 月下旬で産子数は 2 ～8 子と多産である。					
	食性		雑食性であるがほとんどは植物食で新葉、樹皮、地下茎や根、地上に落ち た果実などを食べる。特にドングリを好んで食べる。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	42		—		9		—	
	[redacted]で糞や足跡、掘り返し、ぬた場、自動撮影により確認した。							

※：「日本動物大百科 第1巻 哺乳類Ⅰ」（平凡社、1996年）

「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、2011年）

表 8.8-15(5) 予測対象種の特性及び確認状況（カモシカ）

種名		カモシカ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	4	*					○	
	環境省 RDB					宮城県 RL		要
文化財保護法		特天			種の保存法			
種 の 特 性 （ ）	全国分布		本州，四国，九州。					
	仙台市内の分布		船形山，大倉，青下，関山峠，十里平，白髪山，楠峰，青の背，二口溪谷，蕃山，太白山，横川山，定義，インクライン，戸立沢，奥新川，サイカチ沼，萱ヶ崎，馬越石トンネル，黒沢不動尊，大梅寺裏山など。					
	形態		頭胴長 70～85cm，肩高 70～75cm，体重 30～45kg で個体差もあるが，一般的に濃褐色。東北地方では白色にちかい個体もみられる。					
	生息場所		高山帯にもいるが，むしろ亜高山帯以下の森林，特にブナやミズナラを中心とした落葉広葉樹林が主要な生息場所である。					
	繁殖		交尾期は秋季，出産期は 5～6 月，出産は年 1 回で産子数は 1 子。					
	食性		主に落葉広葉樹や草本の葉，冬季は冬芽や常緑樹の葉を食べる。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	12		—		4		—	
	[redacted]で目撃や糞，足跡により確認した。							

※：「日本動物大百科 第1巻 哺乳類Ⅰ」（平凡社、1996年）

「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、2011年）

b) 鳥類

(i) 確認種

(1) 一般鳥類調査（猛禽類定点調査を除く調査）

調査範囲の丘陵地にはコナラを主体とした落葉広葉樹林、スギ植林に代表される針葉樹林が広がっている。平野部には水田や休耕田、ヤナギ低木林のほか、住宅地が広がっている。また、調査範囲内には七北田川や山田川が流れているほか、ため池が点在している。このような環境でラインセンサス調査、定点センサス調査、夜間調査を実施した。その結果表 8.8-16(1)～(2)に示すとおり 12 目 34 科 79 種（春季調査では 12 目 31 科 47 種、初夏調査では 1 目 1 科 1 種（夜間調査のみ実施）、夏季調査では 10 目 27 科 43 種、秋季調査では 8 目 22 科 38 種、冬季調査では 8 目 20 科 43 種）の鳥類が確認された。

環境別にみると、丘陵地の樹林環境では■■■■■■■■■■においてアオバト、クロツグミ、キビタキなど明るい林を生息環境とする種が確認され、■■■■■■■■■■においてサンコウチョウ、イスカ、クロジなど暗い林を生息環境とする種や針葉樹の種子を餌とする種が確認された。■■■■■■■■■■では、ヤマドリやアカゲラ、ヒガラ、メジロ、カケスなどの様々な樹林環境に生息する種が確認された他、■■■■■■■■■■においてはヤブサメやコルリ、ガビチョウなども確認された。また、フクロウが夜間調査時には鳴き声により、踏査時には羽根により確認された。

平野部の■■■■■■■■■■ではキジ、ダイサギ、ノスリ、モズ、ウグイス、ツグミ、ホオジロなど草地や耕作地を生息環境とする種、キジバト、ツバメ、ヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、カラヒワなど住宅地や草地などを生息環境とする種が確認された。

■■■■■■■■■■ではコハクチョウ、カルガモ、オナガガモ、カワウ、アオサギ、カワセミなどの水鳥が確認されたほか、ミサゴ、カワガラス、キセキレイなど水辺を生息環境とする種が確認された。また、■■■■■■■■■■では、モズやホオジロなどの開けた環境に生息する種も確認された。

表 8.8-16(1) 確認種(鳥類:現地調査)(1/2)

No. ・	目名	科名	種名	学名	確認時期				
					春季	初夏季 ^{*1}	夏季	秋季	冬季
1	キシ	キシ	ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>				○	
2			キシ	<i>Phasianus colchicus</i>	○		○		○
3	カモ	カモ	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>					○
4			オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>					○
5			マカモ	<i>Anas platyrhynchos</i>					○
6			カルカモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○		○		○
7			オナカモ	<i>Anas acuta</i>					○
8	ハト	ハト	キシハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○		○	○	○
9			アオハト	<i>Treron sieboldii</i>	○			○	
10	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○				○
11	ヘリカン	サギ	コイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>			○		
12			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>			○	○	○
13			タイサギ	<i>Ardea alba</i>	○		○	○	
14			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>			○		
15	カクコウ	カクコウ	ホトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	○		○		
16	アマツハメ	アマツハメ	アマツハメ	<i>Apus pacificus</i>	○		○		
17	タカ	ミサコ	ミサコ	<i>Pandion haliaetus</i>	○				
18		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	○				
19			トビ	<i>Milvus migrans</i>	○		○	○	○
20			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>					○
21			サシバ	<i>Butastur indicus</i>	○		○		
22			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○		○	○	○
23	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	○	○		○	
24	フッボウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○		○		
25			ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>				○	
26	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○		○	○	○
27			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	○		○	○	○
28			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	○		○	○	○
29	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○		○		
30		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○		○		
31		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○		○	○	○
32		カラス	カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	○			○	○
33			オナカ	<i>Cyanopica cyanus</i>			○		
34			ミヤマカラス	<i>Corvus frugilegus</i>					○
35			ハシボソカラス	<i>Corvus corone</i>	○		○	○	○
36			ハシブトカラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○		○	○	○
37			シジュウカラ	<i>Poecile montanus</i>				○	
38			ヤマカラス	<i>Poecile varius</i>	○		○	○	○
39			ヒカラス	<i>Periparus ater</i>			○	○	○
40			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○		○	○	○
41		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○		○		
42		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○		○	○	○

※: 種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012年)に準拠した。

*1: 初夏季は夜間調査のみを実施した。

表 8.8-16(2) 確認種(鳥類:現地調査)(2/2)

No ・	目名	科名	種名	学名	確認時期				
					春季	初夏季 ^{*1}	夏季	秋季	冬季
43	スズメ	ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○		○	○	
44			ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	○		○		
45		エナカ	エナカ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○		○	○	○
46		ムシクイ	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	○				
47			センタムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○				
48		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○		○	○	○
49		ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	○				
50		コシユウカラ	コシユウカラ	<i>Sitta europaea</i>				○	
51		ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○				○
52		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cinereus</i>			○	○	
53		カワカラス	カワカラス	<i>Cinclus pallasii</i>			○		
54		ヒタキ	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>			○		
55			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>					○
56			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>				○	
57			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>					○
58			コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	○				
59			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>				○	
60			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	○			○	
61			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○		○	○	
62			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○				
63		スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○		○	○	○
64		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>			○	○	
65			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○		○	○	○
66			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○		○	○	○
67			ヒメソライ	<i>Anthus hodgsoni</i>				○	
68		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>					○
69			カララヒリ	<i>Chloris sinica</i>	○		○	○	○
70			マヒリ	<i>Carduelis spinus</i>					○
71			ヘコマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>					○
72			イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>					○
73			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>					○
74			イカル	<i>Eophona personata</i>			○		
75			ホシメ	<i>Emberiza cioides</i>	○		○	○	○
76		ホシメ	カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>					○
77			アオシメ	<i>Emberiza spodocephala</i>	○				○
78			クロシメ	<i>Emberiza variabilis</i>					○
79			チドリ	<i>Garrulax canorus</i>	○		○	○	○
-	12 目	34 科	79 種	-	47 種	1 種	43 種	38 種	43 種

※: 種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会 2012 年)に準拠した。

*1: 初夏季は夜間調査のみを実施した。

【ラインセンサス調査】(R1～R3 は表 8.8-7に示すラインセンサス調査ルートを示す)

ラインセンサスによる調査の結果、表 8.8-17(1)～(2)に示すとおり、12 目 32 科 58 種の鳥類を確認した。

R1 では春季から冬季にかけて 40 種の鳥類が確認された。[REDACTED]
R1 においては周辺環境を反映し、人為環境に依存するスズメやツバメ、[REDACTED]
[REDACTED]に生息するオオヨシキリやカワラヒワ、モズが、他ルートと比較して多数確認された。また、R1 の一部は[REDACTED]のルートであり、他ルートでは確認されていないカワセミやヤマセミ、カワウ、アオサギ、カワガラス、セグロセキレイなどの水域性鳥類が確認されていることが特徴的であった。この他、R1 は開けた環境がみられることから、秋季に渡りの移動途中と考えられるヒヨドリやカケスの群れの飛翔が多数確認された。

R2 では春季から冬季にかけて 38 種の鳥類が確認された。[REDACTED] R2 においては、ヤマガラやシジュウカラなどのカラ類、アカゲラやアオゲラなどのキツツキ類、メジロやエナガ、キビタキといった樹林環境を主な生息環境とする種が確認された。また、R2 の一部に[REDACTED]がみられるため、サンコウチョウのように暗い林を好む種や針葉樹の種子を餌とするイスカ等が確認された。

R3 では春季から冬季にかけて 33 種の鳥類が確認された。[REDACTED]
[REDACTED] R3 では、樹林性鳥類と草地性鳥類の両方が確認された。[REDACTED]ではヤマドリ、コガラやヤマガラなどのカラ類、コゲラやアカゲラなどのキツツキ類の他、ヤブサメ、キビタキ、オオルリ等が確認された。一方、[REDACTED]ではツバメやスズメ、カシラダカなどが確認された。

表 8.8-17(1) 確認種（鳥類：現地調査：ラインセンサス調査）(1/2)

No .	目名	科名	種名	R1				R2				R3							
				春季		夏季		秋季		冬季		春季		夏季		秋季		冬季	
				個体数	割合	個体数	割合	個体数	割合	個体数	割合	個体数	割合	個体数	割合	個体数	割合	個体数	割合
1	キン	キン	ヤマトリ																
2			キン	6	(4.0)	1	(0.9)												
3	カモ	カモ	カモモ	7	(4.7)	1	(0.9)												
4	ハト	ハト	キンバト			2	(1.8)												
5			アオバト																
6	カオトリ	ウ	アオバト	1	(0.7)														
7	ベリカ	サギ	アカサギ			1	(0.9)												
8			タノキ																
9	カウ	カウ	ホトキス	2	(1.3)														
10	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	3	(2.0)														
11	タカ	タカ	トビ	2	(1.3)														
12			サシバ																
13			ノスリ			2	(0.4)							1	(1.2)				
14	フクロ	フクロ	フクロ																
15	ツボ	カバ	カバ	1	(0.7)														
16			ヤマト																
17	キツキ	キツキ	コガラ			1	(0.9)							3	(2.8)	1	(1.1)	3	(3.5)
18			アカラ											1	(4.8)				
19			アカラ											1	(4.8)	2	(1.9)	1	(1.1)
20	スズメ	サシヨウ	サシヨウ																
21		カササギ	カササギ																
22		モズ	モズ	7	(4.7)	5	(4.4)	6	(1.2)	1	(0.9)			1	(1.1)			2	(5.0)
23		カラス	カラス					49	(9.6)					6	(6.9)	1	(1.2)		
24			ハシロ	4	(2.7)	5	(4.4)												
25			ハシロ	1	(0.7)	2	(1.8)	2	(0.4)	2	(1.8)			1	(0.9)	3	(3.4)	1	(2.5)
26		シジ	コガラ					1	(0.2)										
27			アカラ	1	(0.7)	1	(0.9)	3	(0.6)					13	(12.3)	6	(6.9)	5	(5.8)
28			ヒカ																
29			シジ	3	(2.0)	2	(1.8)	2	(0.4)	1	(0.9)			13	(12.3)	1	(1.1)	4	(4.7)
30		ツバメ	ツバメ	6	(4.0)	22	(19.3)							2	(1.9)			2	(5.0)
31		ヒヨトリ	ヒヨトリ	17	(11.4)	17	(14.9)	421	(82.9)	4	(3.5)			14	(13.2)	48	(55.2)	19	(22.1)

※1：種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会 2012年）に準拠した。
 ※2：優占は、各回の調査についてラインセンサスで記録された個体数から各鳥種の相対的な優占度を示す。

表 8.8-17(2) 確認種（鳥類：現地調査：ラインセンサス調査）(2/2)

No .	目名	科名	種名	R1				R2				R3															
				春季		夏季		秋季		冬季		春季		夏季		秋季		冬季									
				個体数	割合(%)	個体数	割合(%)	個体数	割合(%)	個体数	割合(%)	個体数	割合(%)	個体数	割合(%)	個体数	割合(%)	個体数	割合(%)								
32	スズメ	ウグイス	ウグイス	8	(5.4)	9	(7.9)					3	(14.3)	4	(3.8)	1	(1.1)			2	(5.0)	2	(5.4)	1	(1.1)		
33		ヤブサメ	ヤブサメ									1	(4.8)	1	(0.9)					2	(5.0)						
34		エナガ	エナガ											17	(16.0)	3	(3.4)	9	(10.5)					7	(7.4)	14	(18.7)
35		ムシクイ	センダングサ									1	(4.8)														
36		メジロ	メジロ			1	(0.9)	2	(0.4)					17	(16.0)	9	(10.3)	2	(2.3)					17	(18.1)		
37		ヨシキリ	オオヨシキリ	1	(0.7)																						
38		ミソサザイ	ミソサザイ										1	(4.8)					2	(2.3)							
39		ムクドリ	ムクドリ						1	(0.2)					4	(3.8)											
40		カラカラス	カラカラス					1	(0.9)																		
41		ヒタキ	アカハラ															3	(3.4)						1	(1.1)	
42		ツグミ								1	(0.9)																
43		コサビ	コサビ														1	(1.1)									
44		キビタキ	キビタキ									3	(14.3)	2	(1.9)	1	(1.1)			1	(2.5)	3	(8.1)	1	(1.1)		
45		オオトリ	オオトリ																	1	(2.5)						
46	スズメ	スズメ	スズメ	65	(43.6)	24	(21.1)	5	(1.0)	42	(36.8)	1	(4.8)							4	(10.0)	5	(13.5)				
47	セキレイ	ハクセキレイ	ハクセキレイ	1	(0.7)			1	(0.2)											2	(5.0)						
48		セグロセキレイ	セグロセキレイ				3	(2.6)	3	(0.6)																	
49	アトリ	アトリ	アトリ															1	(1.2)								
50	カラヅチ	カラヅチ	カラヅチ	10	(6.7)					33	(28.9)							2	(2.3)	1	(2.5)			2	(2.1)		
51	マヒワ	マヒワ	マヒワ																15	(17.4)							
52	イスカ	イスカ	イスカ							5	(4.4)							10	(11.6)							4	(5.3)
53	イカル	イカル	イカル											1	(0.9)												
54	ホオジロ	ホオジロ	ホオジロ	2	(1.3)	8	(7.0)	4	(0.8)	5	(4.4)	1	(4.8)	2	(1.9)			1	(1.2)			3	(8.1)		2	(2.7)	
55	カンザク	カンザク	カンザク							10	(8.8)														8	(10.7)	
56	アオジ	アオジ	アオジ							1	(0.9)	1	(4.8)												1	(1.3)	
57	クロジ	クロジ	クロジ															5	(5.8)								
58	チメドリ	チメドリ	チメドリ	1	(0.7)	3	(2.6)	1	(0.2)					2	(1.9)	1	(1.1)	1	(1.2)	1	(2.5)	1	(2.7)				
—	12 目	32 科	58 種	21 種		20 種		19 種		16 種		16 種		19 種		16 種		18 種		16 種		14 種		16 種		13 種	
				149 個体		114 個体		508 個体		114 個体		21 個体		106 個体		87 個体		86 個体		40 個体		37 個体		94 個体		75 個体	

※1：種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012 年)に準拠した。

※2：優占は, 各回の調査についてラインセンサスで記録された個体数から各鳥種の相対的な優占度を示す。

【定点センサス調査】(P1～P6 は表 8.8-7に示す定点センサス調査地点を示す)

定点センサスによる調査の結果、表 8.8-18に示すとおり、8 目 26 科 43 種の鳥類を確認した。

P1 では春季から冬季にかけて 21 種の鳥類が確認された。P1 は [] に設定した地点である。他の地点では確認されていない樹林性のヤマドリやクロツグミ、オオルリが確認されたほか、エナガやムクドリが多数確認された。

P2 では春季から冬季にかけて 18 種の鳥類が確認された。P2 は [] に設定した地点である。18 種のうちアトリを除く 17 種は、他の地点のいずれかで確認された。主な確認種は、カケスやヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ等の樹林環境を生息環境とする種であった。

P3 では春季から冬季にかけて 28 種の鳥類が確認された。P3 は [] もみられる。このような多様な環境が反映し、確認種数が最も多くなったと考えられる。他の地点では確認されていない草地や開けた環境に生息するキジやアマツバメ、ツバメ、スズメが確認され、樹林を主な生息環境とするエゾムシクイやミソサザイ、カケスなどの種も確認された。

P4 では春季から冬季にかけて 17 種の鳥類が確認された。P4 は [] に設定した地点である。17 種のうちアオサギ及びマヒワを除く 15 種は、他の地点のいずれかで確認されており、樹林環境に設定された P1 や P2 と確認種の種構成は類似していた。主な確認種は、カケスやヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロなどの樹林環境を生息環境とする種であった。

P5 では春季から冬季にかけて 16 種の鳥類が確認された。P5 は [] に設定した地点である。16 種のうちシロハラ及びセグロセキレイを除く 14 種は、他の地点のいずれかで確認されており、樹林環境に設定された P1 や P2、P4 と確認種の構成は類似していた。主な確認種は、カケスやヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ等の樹林環境を生息環境とする種であった。

P6 では春季から冬季にかけて 14 種の鳥類が確認された。P6 は [] に設定した地点である。14 種のいずれも他の地点のいずれかで確認されており、樹林環境に設定された P1 や P2、P4、P5 と確認種の種構成は類似していた。主な確認種は、ヤマガラやサンショウクイ、エナガ、メジロなど、いずれも樹林環境を生息環境とする種であった。

No.	目名	科名	種名	P1				P2				P3				P4				P5				P6																																
				春季		夏季		秋季		冬季		春季		夏季		秋季		冬季		春季		夏季		秋季		冬季		春季		夏季		秋季		冬季																						
				個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)	個体数	(優占)																					
1	キシ	キシ	ヤマト					1	(3.8)																																															
2			キシ												1	(4.5)																																								
3	ハト	ハト	キシハト							1	(20.0)						1	(4.5)																																						
4			アオハト										1	(5.6)															1	(6.3)																										
5	ベリカン	サキ	アオサキ																1	(6.3)																																				
6	カッコウ	カッコウ	ホトキス	1	(8.3)	2	(7.7)									1	(6.7)																																							
7	アマツハメ	アマツハメ	アマツハメ											1	(4.5)																																									
8	タカ	タカ	サシハ																										1	(9.1)																										
9			ノスリ														1	(4.3)																																						
10	キツツキ	キツツキ	コケラ					1	(3.8)			1	(20.0)			1	(8.3)				1	(4.3)	1	(4.3)	1	(25.0)			1	(6.3)	1	(7.7)			1	(11.1)																				
11			アカケラ					1	(3.8)															1	(6.3)																															
12			アオケラ									1	(20.0)					1	(4.5)													1	(6.3)			1	(11.1)																			
13	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ														1	(6.7)													4	(36.4)																								
14		カササギヒタキ	サンコウチョウ									1	(8.3)				1	(6.7)				1	(6.3)			1	(14.3)	2	(10.0)																											
15		モズ	モズ				1	(3.8)									1	(6.7)	1	(4.3)																																				
16		カラス	カラス					1	(3.8)																						2	(6.5)																								
17			ハシホソカラス													1	(4.5)	1	(6.7)																																					
18			ハシブトカラス							1	(20.0)					1	(5.6)	1	(6.7)				1	(6.3)	1	(6.3)					1	(9.1)																								
19		シジュウカラ	ヤマカラ											1	(8.3)	2	(11.1)				1	(4.5)				3	(18.8)	1	(6.3)	1	(7.7)			3	(15.0)			2	(14.3)			1	(9.1)	1	(3.2)	3	(33.3)									
20			ヒカラ																																																					
21			シジュウカラ	1	(8.3)					2	(7.7)							2	(11.1)				2	(9.1)				3	(18.8)					1	(14.3)	4	(20.0)	5	(12.5)	2	(14.3)	2	(12.5)			2	(22.2)									
22		ツハメ	ツハメ																	3	(20.0)																																			
23		ヒヨトリ	ヒヨトリ				2	(16.7)	6	(23.1)	2	(7.7)	2	(40.0)			4	(33.3)	2	(11.1)	3	(20.0)	4	(18.2)	4	(26.7)	9	(39.1)	1	(4.3)			4	(25.0)	4	(25.0)	3	(23.1)	1	(14.3)	5	(25.0)	20	(50.0)	1	(7.1)	10	(62.5)	1	(9.1)	23	(74.2)	1	(11.1)		
24		ウケイス	ウケイス				1	(8.3)	2	(7.7)							1	(20.0)						1	(4.5)	1	(6.7)	1	(4.3)						1	(6.3)	1	(6.3)			1	(14.3)														
25			ヤブサメ															1	(20.0)																1	(25.0)					1	(14.3)														
26		エナカ	エナカ								14	(53.8)																																												
27		ムシクイ	エゾムシクイ																																																					
28		メシロ	メシロ						1	(3.8)	4	(15.4)								4	(33.3)	6	(33.3)				6	(27.3)			2	(8.7)					2	(12.5)	1	(6.3)					3	(15.0)	3	(7.5)					1	(9.1)	5	(16.1)
29		ミソサザイ	ミソサザイ																																																					
30		ムクトリ	ムクトリ																																																					
31		ヒタキ	クロツグミ																																																					
32			シロハラ																																																					
33			キビタキ																																																					
34	オオルリ																			</																																				

※：種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会，2012年）に準拠した。

(D) 猛禽類定点調査

猛禽類定点調査で確認された猛禽類は表 8.8-19に示すとおりであり、2 目 3 科 10 種の猛禽類が確認された。平成 25 年繁殖期（1 繁殖期目：平成 25 年 2 月～8 月）、平成 26 年繁殖期（2 繁殖期目：平成 26 年 2 月～8 月）ともに同じ種数の猛禽類が確認された。最も多く確認された種はノスリの 468 回であり、次いでオオタカの 187 回、サシバの 142 回であった。

猛禽類定点調査及び林内踏査（繁殖状況確認）により確認された猛禽類の繁殖状況及び採餌状況は、表 8.8-20(1)～(4)に示すとおりである。また、林内踏査（繁殖状況確認）により 2 繁殖期（平成 25 年～平成 26 年）の調査で新たに確認された巣は表 8.8-21に示すとおり、H25-1、H26-1、H26-2、H26-3 の 4 巣であった。

対象事業計画地周辺における 2 繁殖期（平成 25 年～平成 26 年）の猛禽類の繁殖巣は、以下のとおり計 7 巣確認した。図 8.8-9及び図 8.8-10に示すとおり、いずれの繁殖巣も対象事業計画地内には確認されなかった。

【平成 25 年繁殖期に確認された繁殖巣とその利用種（平成 25 年 2 月～8 月）】（図 8.8-9参照）

- ・ [] : オオタカ 対象事業計画地より []
- ・ [] : ノスリ 対象事業計画地より []
- ・ [] : ノスリ 対象事業計画地より []

【平成 26 年繁殖期に確認された繁殖巣とその利用種（平成 26 年 2 月～8 月）】（図 8.8-10参照）

- ・ [] : オオタカ 対象事業計画地より []
- ・ [] : ノスリ 対象事業計画地より []
- ・ [] : ノスリ 対象事業計画地より []
- ・ [] : ノスリ 対象事業計画地より []
- ・ [] : トビ 対象事業計画地より []

表 8.8-19 猛禽類確認回数（鳥類（猛禽類）：現地調査）

No.	目名	科名	種名	学名	確認回数																		計		
					平成 25 年										平成 26 年										
					1 繁殖期目								非繁殖期				2 繁殖期目								
					2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月		8月	
1	タカ	ミサコ	ミサコ	<i>Pandion haliaetus</i>	0	4	1	3	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	4	1	26	
2		ハチクマ	<i>Pernis apivorus</i>	0	0	0	7	5	5	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	4	45		
3		ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	5	19	3	1	0	1	1	2	1	0	1	0	10	8	9	4	1	0	0	66		
4		オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	20	31	9	17	18	9	5	3	3	0	1	1	28	15	13	11	2	0	1	187		
5		サンバ	<i>Butastur indicus</i>	0	0	18	15	18	15	31	1	0	0	0	0	0	0	0	7	5	25	7	142		
6		ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	9	24	32	55	33	17	28	3	3	2	7	3	44	23	65	42	29	30	19	468		
7		クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4		
8	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	0	4	1	2	0	2	0	0	0	0	0	2	0	3	3	0	1	3	1	22	
9			コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	8		
10			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	1	2	0	1	2	2	1	0	0	1	1	1	4	0	0	1	2	0	1	20	
-	2 目	3 科	10 種	-	41回	85回	64回	101回	80回	51回	86回	9回	7回	3回	10回	7回	91回	49回	91回	69回	45回	65回	34回	988回	

※1：猛禽類定点調査の非繁殖期は、表 8.8-7に示す 8 定点のうち、4 定点（St.1、St.2、St.4、St.5）で調査を実施した。

※2：トビは対象外とした。

※3：表中の数値は確認回数を示す。

表 8.8-20(1) 猛禽類確認表（鳥類（猛禽類）：現地調査）（1/4）

確認種	確認回数※	確認状況	繁殖の有無
ミサゴ	16 回 0 回 10 回	<p>【繁殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> 繁殖指標行動が確認されなかったことから、対象事業計画地周辺でミサゴが繁殖している可能性は低いと考えられる。 <p>【採餌】</p> <ul style="list-style-type: none"> 狩り、飛翔採餌やとまり採餌、食餌などの採餌行動は 8 回確認された。 対象事業計画地西側を流れる [REDACTED] [REDACTED] で主に採餌行動を行っていたが、対象事業計画地内での採餌行動は確認されなかった。 	対象事業計画地内及びその周辺での繁殖の可能性は低い
ハチクマ	33 回 0 回 12 回	<p>【繁殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年繁殖期に 3 回、平成 26 年繁殖期に 1 回、繁殖指標行動であるディスプレイを確認したが、餌運びや交尾等は確認されなかった。 高頻度でハチクマが観察された [REDACTED] において、営巣地探索のための踏査を実施したが、巣を確認するには至らなかった。 以上から、対象事業計画地周辺でハチクマが繁殖している可能性は低いと考えられる。 <p>【採餌】</p> <ul style="list-style-type: none"> 採餌行動として、平成 25 年繁殖期に 1 回、[REDACTED] [REDACTED] で飛翔採餌を確認したのみであり、それは [REDACTED] での確認であった。 	対象事業計画地内及びその周辺での繁殖の可能性は低い
ハイタカ	30 回 4 回 32 回	<p>【繁殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> 繁殖指標行動は確認されなかった。 餌運び等の確認が期待された抱卵期から巣内・巣外育雛期にあたる 5～7 月調査時で繁殖指標行動が確認されなかったこと、また、同時期の確認回数が減少していることから、対象事業計画地周辺でハイタカが繁殖している可能性は低いと考えられる。 <p>【採餌】</p> <ul style="list-style-type: none"> 狩りや飛翔採餌などの採餌行動は 14 回確認された。 主に [REDACTED] [REDACTED] で採餌行動を行っており、対象事業計画地内での採餌行動は確認されなかった。 	対象事業計画地内及びその周辺での繁殖の可能性は低い

※1: 確認回数—上段：平成 25 年繁殖期（平成 25 年 2 月～8 月）、中段：平成 25 年～平成 26 年間の非繁殖期（平成 25 年 9 月～平成 26 年 1 月）、下段：平成 26 年繁殖期（平成 26 年 2 月～8 月）

※2: 確認状況（飛翔状況等）は、図 8.8-12(1)～(3) 参照。

表 8.8-20(2) 猛禽類確認表（鳥類（猛禽類）：現地調査）(2/4)

確認種	確認回数※	確認状況	繁殖の有無
オオタカ	109 回 8 回 70 回	<p>【繁殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年繁殖期に 16 回，平成 26 年繁殖期に 7 回，繁殖指標行動であるディスプレイ飛翔や誇示どまり，営巣地防衛，餌運び等を確認した。 平成 25 年繁殖期は，[redacted] 平成 26 年繁殖期は，2 月～4 月の定点調査結果から，[redacted]と考えられたが，6 月の林内踏査（繁殖状況確認）時に [redacted]を確認した。[redacted]が，[redacted]の林内踏査（営巣地探索）を実施したところ，平成 26 年繁殖期に [redacted]を確認した。 以上から，平成 26 年繁殖期は，[redacted]と考えられる。 <p>【採餌】</p> <ul style="list-style-type: none"> 狩り，飛翔採餌やとまり採餌，停空飛翔，食餌などの採餌行動は 20 回確認された。 [redacted]で採餌行動を行っていた。 [redacted]で採餌行動は確認された。 <p>【非繁殖期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 確認されたオオタカは多くが成鳥であった。成鳥の確認箇所は，[redacted]に集中していた。この確認されたオオタカが，[redacted]は否定できない状況にあった。 幼鳥は 9 月調査時に 1 回確認されたのみであり，[redacted]と考えられる。 	<p>平成 25 年繁殖期</p> <ul style="list-style-type: none"> [redacted] <p>平成 26 年繁殖期</p> <ul style="list-style-type: none"> [redacted]

※1：確認回数—上段：平成 25 年繁殖期（平成 25 年 2 月～8 月），中段：平成 25 年～平成 26 年間の非繁殖期（平成 25 年 9 月～平成 26 年 1 月），下段：平成 26 年繁殖期（平成 26 年 2 月～8 月）

※2：確認状況（飛翔状況等）は，図 8.8-12(4) 参照。

表 8.8-20(3) 猛禽類確認表(鳥類(猛禽類):現地調査)(3/4)

確認種	確認回数※	確認状況	繁殖の有無
サシバ	97 回 1 回 44 回	<p>【繁殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年繁殖期に 9 回，平成 26 年繁殖期に 4 回，繁殖指標行動であるディスプレイ及び餌運びを確認した。 林内に入るように餌運びをした[]を対象に営巣地探索のための踏査を実施したが，巣を確認するには至らなかった。 営巣地探索で巣が確認されなかったこと，繁殖が確認されているオオタカやノスリと比べて繁殖指標行動の確認回数が少ないことから，対象事業計画地周辺でサシバが繁殖している可能性は低いと考えられる。 <p>【採餌】</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛翔採餌やとまり採餌，食餌などの採餌行動は 12 回確認された。 主に[]で採餌行動を行っていた。 []での採餌行動は確認されたものの，大部分は[]であった。 	対象事業計画地内及びその周辺での繁殖の可能性は低い
ノスリ	198 回 18 回 252 回	<p>【繁殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年繁殖期に 40 回，平成 26 年繁殖期に 39 回，繁殖指標行動である餌運び，交尾，鳴き交わし，営巣地防衛，ディスプレイ飛翔等を確認した。 平成 25 年繁殖期は，[]。 平成 25 年繁殖期において，[]で交尾や鳴き交わし等の繁殖指標行動が確認されており，周辺での繁殖が示唆されたため，営巣地探索を実施したが，巣を確認するには至らなかった。 平成 26 年繁殖期は，[]。 平成 26 年繁殖期に確認した[]，6 月調査時に[]を確認したが，7 月調査時には巣内及び営巣木周辺で[]。VTR による巣内観察を実施したものの，[]に失敗したものと考えられる。 平成 25 年繁殖期にノスリが使用した[]は，平成 26 年繁殖期に実施した 6 月営巣確認調査で落巣を確認した。 <p>【採餌】</p> <ul style="list-style-type: none"> 狩り，飛翔採餌やとまり採餌，停空飛翔，食餌などの採餌行動は 105 回確認された。 []において，高頻度で採餌行動を確認した。採餌行動の多くは，[]などで確認された。 	<p>平成 25 年繁殖期</p> <ul style="list-style-type: none"> [] [] <p>平成 26 年繁殖期</p> <ul style="list-style-type: none"> [] [] [] []

※1: 確認回数—上段: 平成 25 年繁殖期 (平成 25 年 2 月～8 月), 中段: 平成 25 年～平成 26 年間の非繁殖期 (平成 25 年 9 月～平成 26 年 1 月), 下段: 平成 26 年繁殖期 (平成 26 年 2 月～8 月)

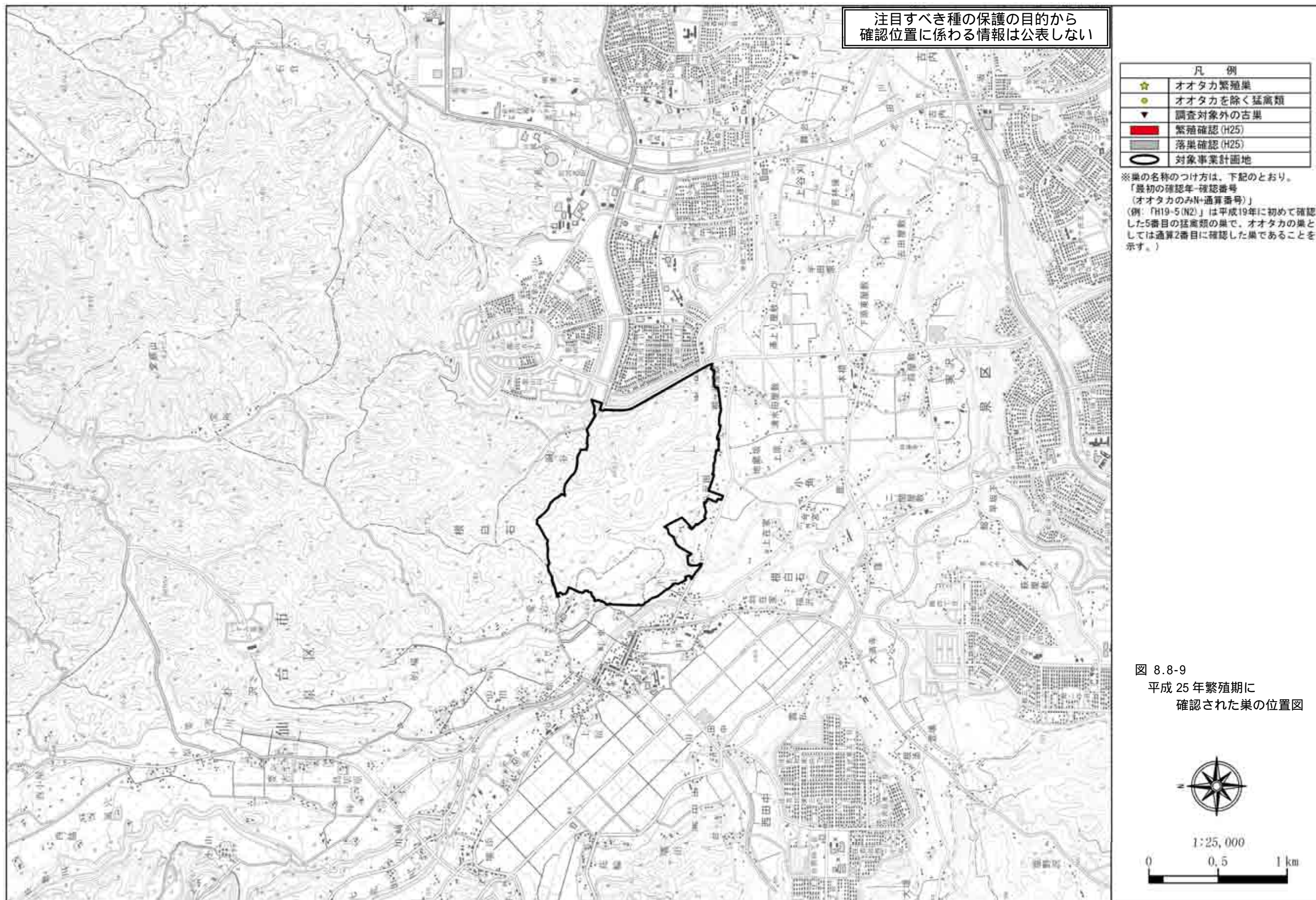
※2：確認状況（飛翔状況等）は、図 8.8-12(5)～(6)参照

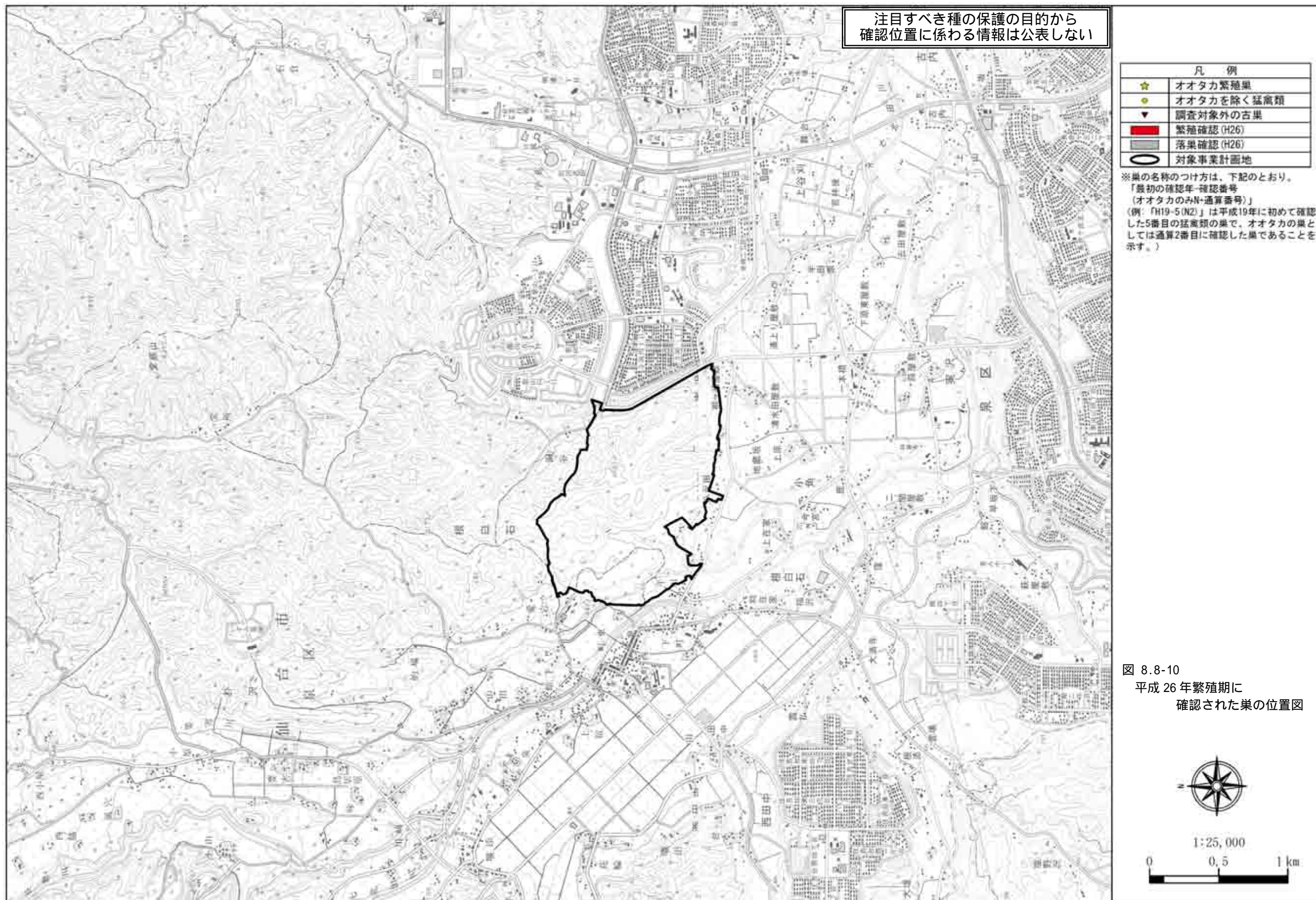
表 8.8-20(4) 猛禽類確認表(鳥類(猛禽類):現地調査)(4/4)

確認種	確認回数※	確認状況	繁殖の有無
クマタカ	2回 0回 2回	<p>【繁殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖指標行動が確認されなかったことに加え、平成 25 年及び平成 26 年の繁殖期のいずれにおいても、抱卵期から巢内・巣外育雛期にあたる 4～8 月調査で飛翔の確認がなかったことから、対象事業計画地周辺でクマタカは繁殖していないと考えられる。 <p>【採餌】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狩りや飛翔採餌等の採餌行動は確認されなかった。 ・飛翔確認回数が 4 回と少ないことから、対象事業計画地周辺は主要な生息地となっていない可能性が高く、採餌行動も確認されなかったと考えられる。 	対象事業計画地内及びその周辺での繁殖の可能性なし
チョウゲンボウ	9回 2回 11回	<p>【繁殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖指標行動が確認されなかったこと、散発的な確認で高頻度確認地域もないことから、対象事業計画地周辺でチョウゲンボウが繁殖している可能性は低いと考えられる。 <p>【採餌】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狩り、飛翔採餌やとまり採餌、停空飛翔等の採餌行動は 6 回確認された。 ・主に対象事業計画地南側の水田地帯で採餌行動を行っており、対象事業計画地内での採餌行動は確認されなかった。 	対象事業計画地内及びその周辺での繁殖の可能性は低い
コチョウゲンボウ	5回 0回 3回	<p>【繁殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種は冬鳥として本州に飛来するため、対象事業計画地周辺に営巣地はない。 ・2 月調査時にのみ確認されている。 <p>【採餌】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狩りやとまり採餌等の採餌行動は 4 回確認された。 ・対象事業計画地南側及び西側、いずみ墓園周辺の水田地帯で採餌行動を行っており、対象事業計画地内での採餌行動は確認されなかった。 	対象事業計画地内及びその周辺での繁殖の可能性なし
ハヤブサ	9回 3回 8回	<p>【繁殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖指標行動は確認されなかった。 ・また、対象事業計画地周辺には本種の営巣に適した崖地が存在しないこと、散発的な確認で高頻度確認地域もないことから、対象事業計画地周辺でハヤブサは繁殖していないと考えられる。 <p>【採餌】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狩りや飛翔採餌、食餌などの採餌行動は 3 回確認された。 ・XXXXXXXXXXで採餌行動を行っており、対象事業計画地内での採餌行動は確認されなかった。 	対象事業計画地内及びその周辺での繁殖の可能性なし

※1: 確認回数—上段: 平成 25 年繁殖期 (平成 25 年 2 月～8 月), 中段: 平成 25 年～平成 26 年間の非繁殖期 (平成 25 年 9 月～平成 26 年 1 月), 下段: 平成 26 年繁殖期 (平成 26 年 2 月～8 月)

※2：確認状況（飛翔状況等）は、図 8.8-12(7)～(9)参照。（コチョウゲンボウ除く）





(ii) 注目すべき種

(1) 一般鳥類調査(猛禽類定点調査を除く調査)

現地調査で確認された鳥類(一般鳥類調査)のうち表 8.8-13に示す基準に該当する注目すべき種は、表 8.8-22に示すとおり 8 目 20 科 32 種が確認された。注目すべき種の確認位置及び個体数は図 8.8-11(1)～(5)に示すとおりである。

また、注目すべき種のうち予測対象種※の特性及び確認状況は表 8.8-23(1)～(8)に示すとおりである。

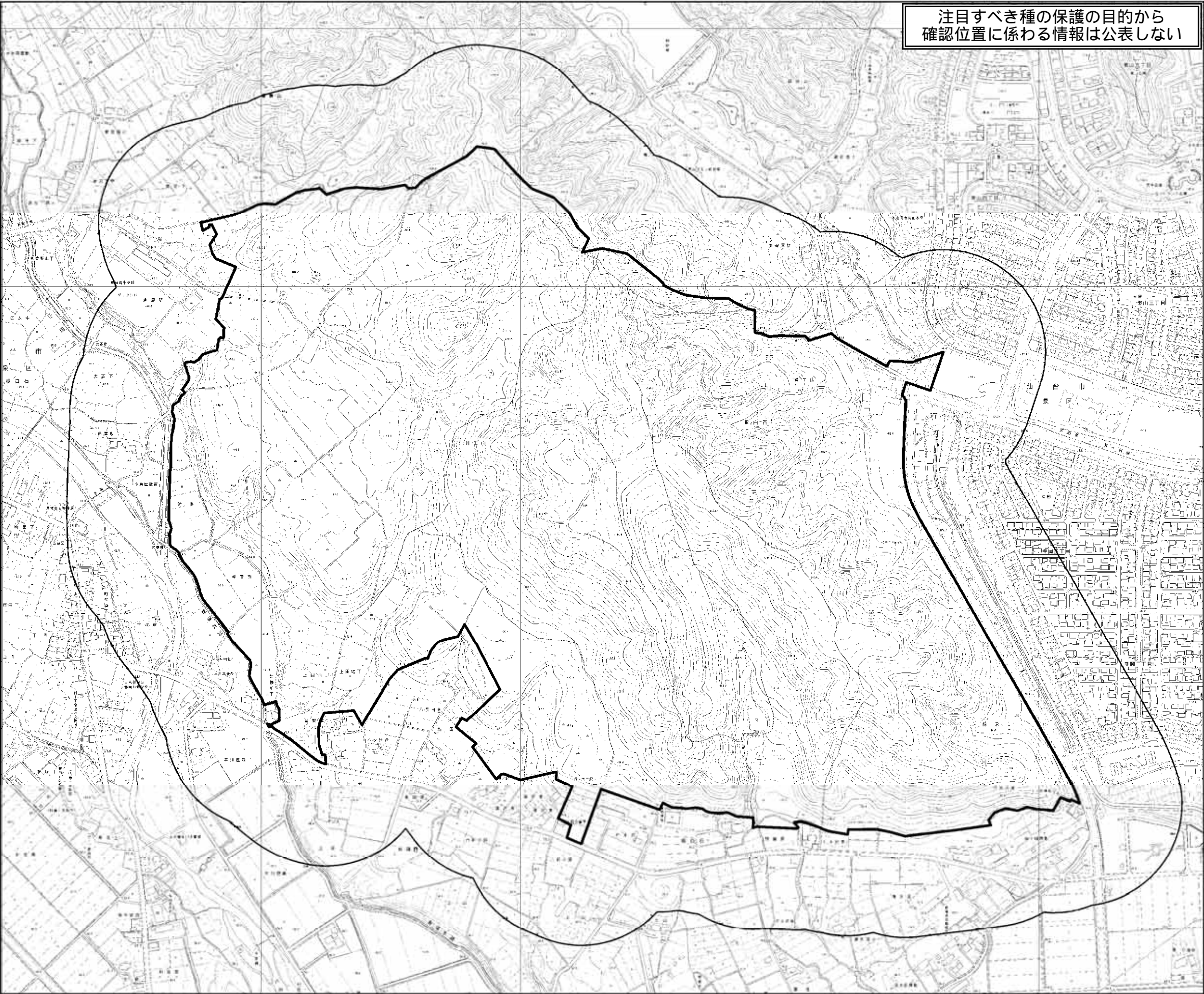
※：表 8.8-13の注目すべき種の選定基準のうち、仙台市における保全上重要な種の区分は「学術上重要種」、「減少種」、「環境指標種」、「ふれあい保全種」に区分されているが、「学術上重要種」と「減少種」の中でも以前に比べて減少傾向にあり現在ほとんど見ることが出来ず特に稀といわれている A ランクの種を予測対象種とした。B・C ランクの「減少種」及び「環境指標種・ふれあい保全種」には、調査範囲を含む仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、予測対象種からは除外した。

表 8.8-22 注目すべき種（鳥類（一般鳥類調査）：現地調査）

No .	目名	科名	種名	確認時期										注目すべき種選定基準													
														Ⅰ								Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ		
				春季		初夏季 ^{※1}		夏季		秋季		冬季		①	②					③	④						
				内	外	内	外	内	外	内	外	内	外		1	2	3	4	5								
1	キシ [°]	キシ [°]	ヤマト [°] リ							○	○				*	C				○							
2	ヘ [°] リカン	サキ [°]	チュウサキ [°]						○					1, 2, 4		C	A	C	C			NT					
3	カッコウ	カッコウ	ホトトギ [°] ス	○	○			○	○						*	*	C	C	C	○	○						
4	タカ	ミサコ [°]	ミサコ [°]		○									1, 4				C	C	○		NT					
5		タカ	ハチクマ		○									1, 4	C	C						NT	NT				
6			オオタカ									○	1, 4	C	C	B	B	C	○	○	NT	NT		国内			
7			サシハ [°]		○			○						C	C	A	C	C			VU	VU					
8			ノスリ	○	○			○	○	○	○	○		*	C	C	C		○								
9	フクロウ	フクロウ	フクロウ	○	○	○	○			○					C	C	B	B	C	○	○						
10	ブ [°] ッホ [°] ウソウ	カワセミ	カワセミ		○				○							C	C	C		○	○						
11		ヤマセミ								○							B			○			要				
12	キツツキ	キツツキ	アカゲ [°] ラ	○				○		○		○			*	C	B	C	C								
13			アオゲ [°] ラ	○				○	○	○		○			*	C	B	C	C	○	○						
14	スズ [°] メ	サンショウクイ	サンショウクイ	○	○			○						1, 4	C	C	B	C	C			VU	VU				
15		カササキ [°] ヒタキ	サンコウチョウ	○				○								C	B			○	○						
16		モズ [°]	モズ [°]	○	○			○	○	○	○		○		*	C	B	C	C	○	○						
17		ツハ [°] メ	ツハ [°] メ	○	○			○	○							C	C	C		○							
18		ウグ [°] イス	ウグ [°] イス	○	○			○	○	○	○				*	*	C	C	C		○						
19		ムシクイ	センタ [°] イムシクイ	○											*	C	B			○							
20		ヨシキリ	オオヨシキリ	○												C	B	C	C	○							
21		コ [°] シ [°] ュウカラ	コ [°] シ [°] ュウカラ							○					*		B			○							
22		カリカ [°] ラス	カリカ [°] ラス						○						*	C	B			○							
23		ヒタキ	クロツク [°] ミ					○	○						*	C	B	C	C	○							
24			シロハラ									○			*	C	B			○							
25			コルリ	○											*	C	B	C	C	○							
26			コサメヒ [°] タキ		○					○								B			○						
27			キヒ [°] タキ	○	○			○	○	○					*	C	B			○							
28			オオルリ	○											*	C	C	C	C	○							
29		セキレイ	キセキレイ						○	○					*	C	C	C		○	○						
30			セク [°] ロセキレイ		○				○	○	○		○	4	C	C	C	C									
31		ホオシ [°] ロ	ホオシ [°] ロ	○	○			○	○	○	○	○	○		*	*	B	C	C	○							
32			アオシ [°]	○								○			C	C	C	C	C								
－	8 目	20 科	32 種	17 種	15 種	1 種	1 種	13 種	14 種	13 種	7 種	6 種	4 種	6 種	24 種	28 種	29 種	22 種	17 種	24 種	9 種	6 種	5 種	0 種	1 種		
				23 種		1 種		18 種		14 種		9 種															

※1：種名や学名及びその記載順は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会，2012年）に準拠した。

※2：注目すべき種の選定基準の区分は，表 8.8-13を参照



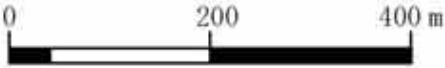
注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

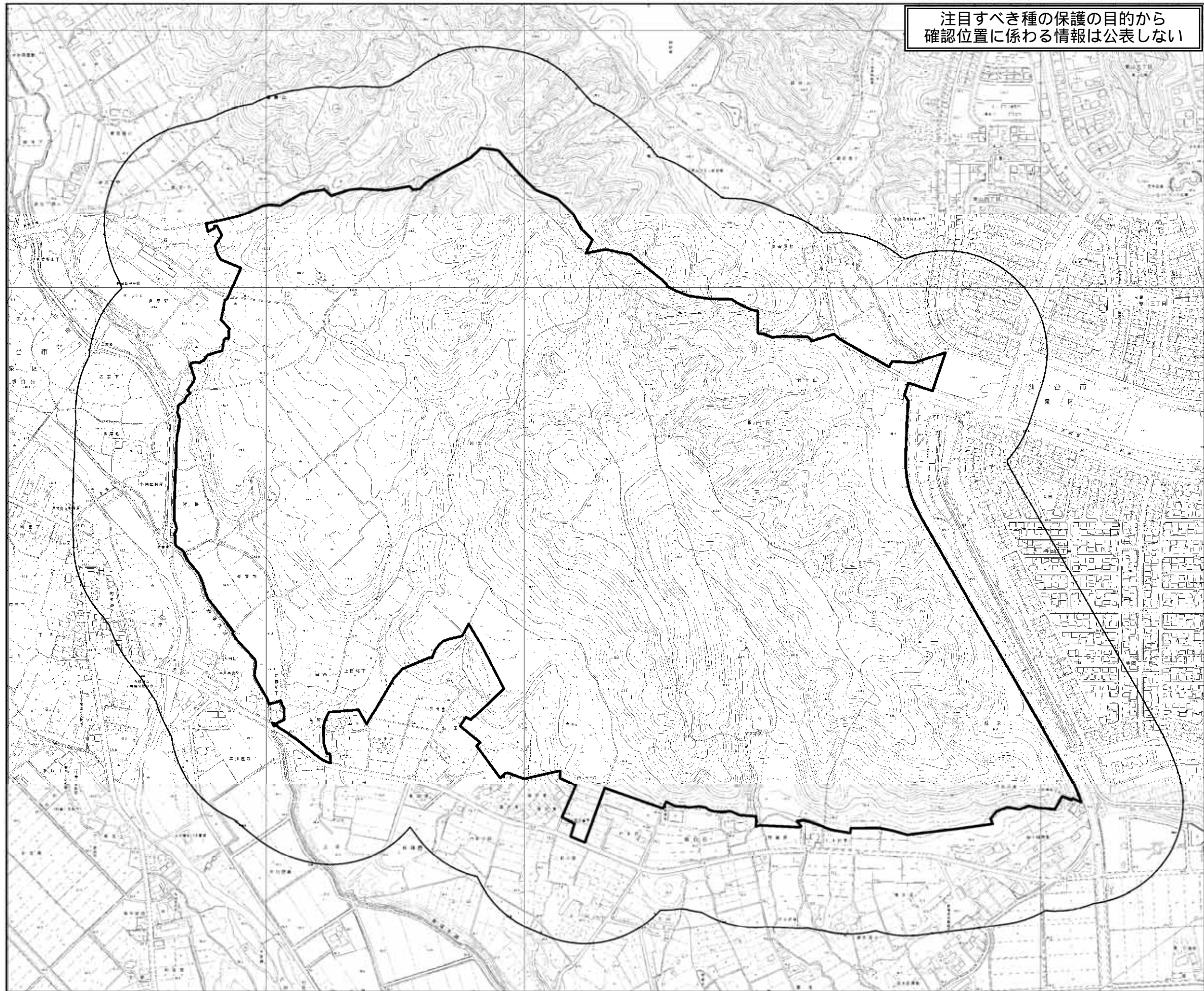
凡 例	
	注目すべき種位置
	対象事業計画地
	調査範囲

図 8.8-11(1) 注目すべき種
(鳥類(一般鳥類調査))の確認位置
(春季)



1:7,500





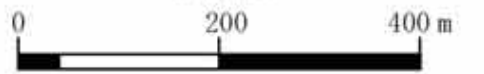
注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

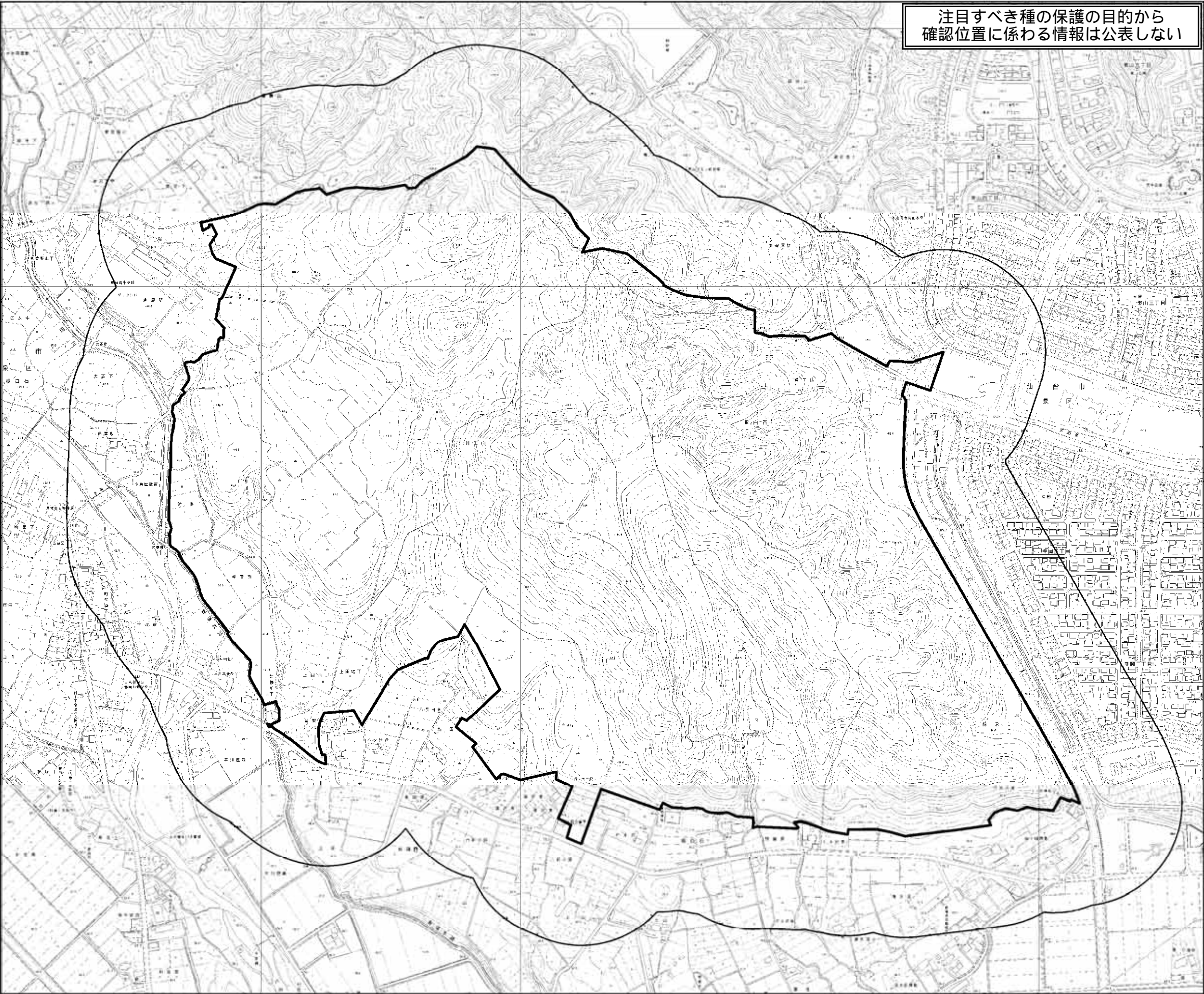
凡 例	
	注目すべき種位置
	対象事業計画地
	調査範囲

図 8.8-11(2) 注目すべき種
(鳥類(一般鳥類調査))の確認位置
(初夏季)



1:7,500





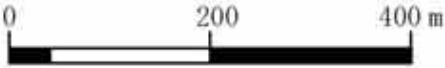
注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

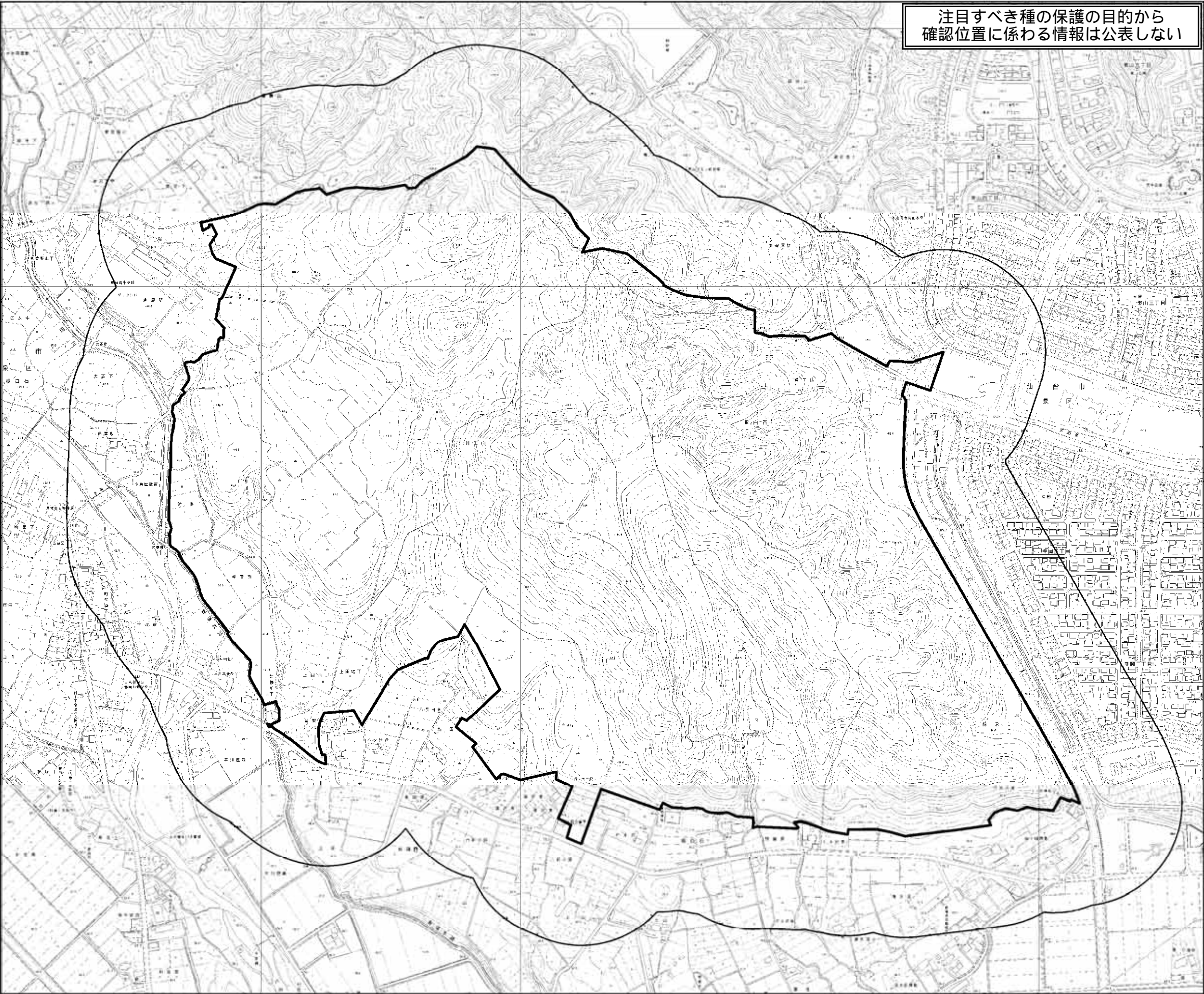
凡 例	
	注目すべき種位置
	対象事業計画地
	調査範囲

図 8.8-11(3) 注目すべき種
(鳥類(一般鳥類調査))の確認位置
(夏季)



1:7,500





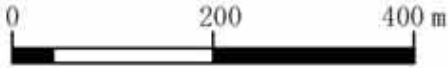
注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

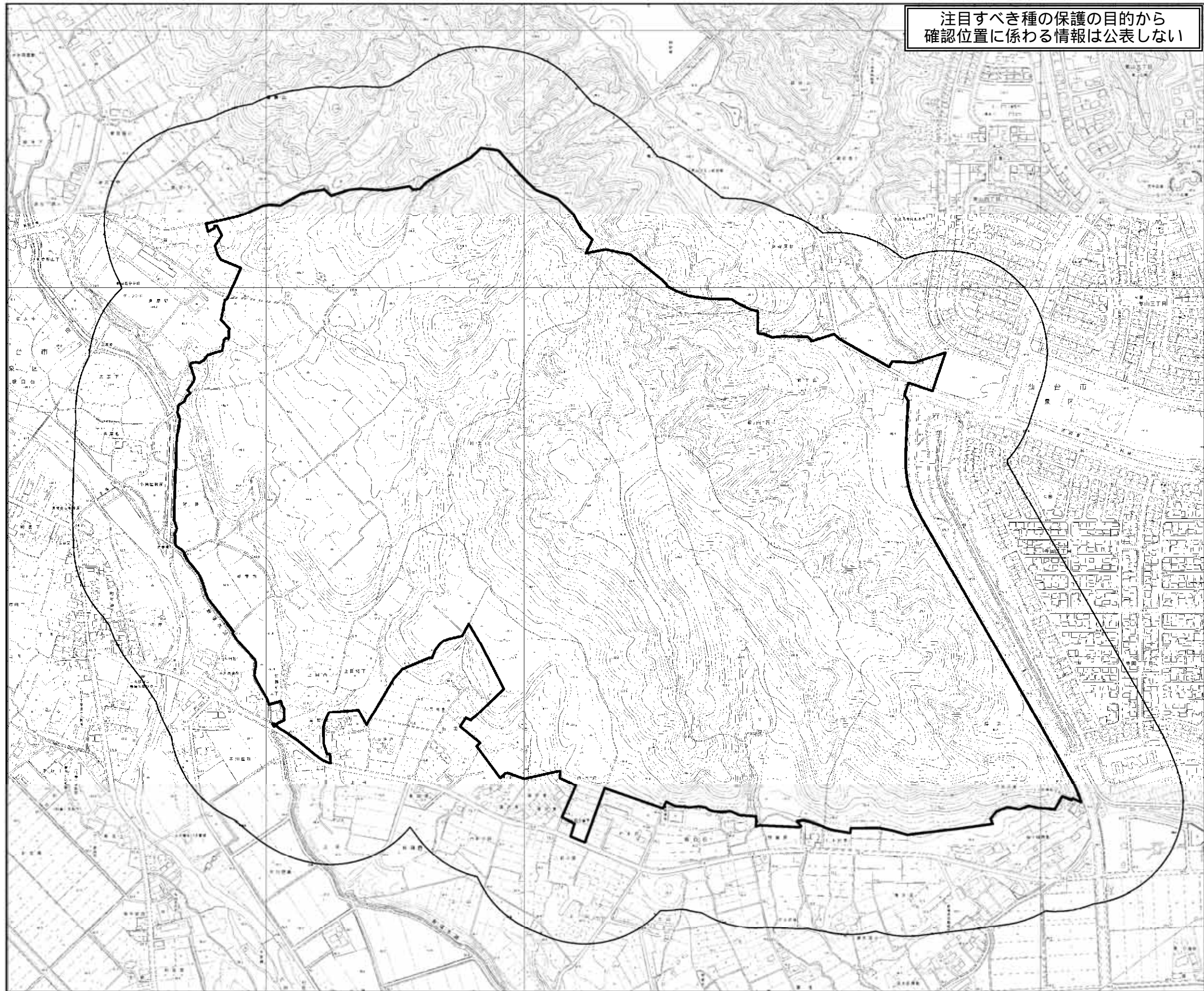
凡 例	
	注目すべき種位置
	対象事業計画地
	調査範囲

図 8.8-11(4) 注目すべき種
(鳥類(一般鳥類調査))の確認位置
(秋季)



1:7,500





注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

凡 例	
	注目すべき種位置
	対象事業計画地
	調査範囲

図 8.8-11(5) 注目すべき種
(鳥類(一般鳥類調査))の確認位置
(冬季)



1:7,500



表 8.8-23(1) 予測対象種の特性及び確認状況(チュウサギ)

種名		チュウサギ						
注 目 す べ き 種	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1, 2, 4		C	A	C	C		
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL			
文化財保護法				種の保存法				
種 の 特 性 (ー	全国分布		夏鳥として本州以南に渡来し、西南日本では一部が越冬する。北海道ではまれな夏鳥。					
	仙台市内の分布		蒲生、大沼、南長町、南蒲生など。					
	形態		全長 69cm。成鳥夏羽では全身が白く、嘴と足は黒色。眼先は黄色。虹彩は淡黄色で、アイリングは黄色。胸や背に長い飾り羽がある。繁殖期には眼先が黄緑色になり、虹彩は赤みを帯びる。冬羽は嘴が黄色くなり、先端が黒いものも多い。眼先も淡黄緑色になる。口角は眼の後方を越えない。					
	生息場所		平地の水田や、湿地、時には大きな川に生息。					
	繁殖		ほかのサギ類と一緒にマツ林、雑木林などの樹上で集団繁殖する。					
	食性		昆虫類、クモ類、ドジョウやフナなどの魚類、アメリカザリガニなどの甲殻類、カエルなどの両生類を食べる。					
現 地 確 認	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	0		0		1		1	
	■■■■において、目撃により確認した。							

※：「原色日本野鳥生態図鑑＜水鳥編＞」（保育社，1995 年）
「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」（山と溪谷社，1998 年）
「日本の野鳥 590」（平凡社，2000 年）
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

表 8.8-23(2) 予測対象種の特性及び確認状況(ミサゴ)

種名		ミサゴ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1, 4				C	C	○	
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL			
文化財保護法					種の保存法			
種 の 特 性 ()	全国分布		留鳥として全国に分布するが、北日本では冬に少なく、南西諸島では夏に少ない。					
	仙台市内の分布		蒲生、広瀬川、大沼、三共堤、七北田川、名取川など。					
	形態		全長雄 54cm、雌 64cm。翼が細長く、尾が短い。頭部が白っぽく、過眼線から後ろ襟にかけてと、背、翼上面は黒褐色。下面と下雨覆は白く、胸に褐色の帯があるがほとんど無い個体もあり、この帯は雄が細く、雌が太い傾向がある。幼鳥は上面の各羽に白い羽縁がある。					
	生息場所		海岸や湖沼、大河川などの水辺に生息。					
	繁殖		海岸や山中で繁殖し、大岩の頂や樹冠部に営巣する。巢材には、太い枝や乾燥した海藻、ロープなどの人工物も使う。海上の灯台や高圧線の鉄塔など人工物に営巣する例も知られている。					
	食性		ボラやスズキ、トビウオなどの魚類を食べる。					
現 状 確 認	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	0		0		1		1	
	[]において、目撃により確認した。							

※：「原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉」（保育社，1995 年）
「図鑑 日本のワシタカ類」（文一総合出版，1995 年）
「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」（山と溪谷社，1998 年）
「日本の野鳥 590」（平凡社，2000 年）
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

表 8.8-23(3) 予測対象種の特性及び確認状況（ハチクマ）

種名		ハチクマ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1, 4	C	C					
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL		NT	
文化財保護法					種の保存法			
種 の 特 性 （ ）	全国分布		夏鳥として北海道から九州にかけて渡来する。					
	仙台市内の分布		芳の平，朴沢，芋沢など。					
	形態		全長雄 57cm，雌 61cm。雌雄共に淡色のものから暗色ものまで体色に個体差が大きい，どのタイプでも上面は褐色。他種よりも首が長い体型をしている。雄成鳥は顔が青灰色で，虹彩は暗色。風切羽先端は黒く，縞模様は初列風切で 4 本程度，次列風切で 2 本程度となる。尾羽には太い黒帯が 2 本ある。雌の顔は雄のように全体が青灰色にならずに，虹彩は黄色。翼と尾羽の縞模様は雄よりも細い。					
	生息場所		低山から山地帯の森林に生息。					
	繁殖		樹上に営巣し，繁殖は他のタカ科よりも遅い時季に行われる。雛の巣立ちは 8 月下旬。					
	食性		昆虫類，ネズミ類，トカゲ類，カエルなどを捕食するが，ハチの幼虫や蛹を好んで食べ，クロスズメバチなどのジバチ類を特に好む。					
	現 状 確 認	対象事業計画地内				対象事業計画地外		
地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数		
0		0		1		1		
において，目撃により確認した。								

※：「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」（保育社，1995 年）
「図鑑 日本」のワシタカ類」（文一総合出版，1995 年）
「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」（山と溪谷社，1998 年）
「日本の野鳥 590」（平凡社，2000 年）
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

表 8.8-23(4) 予測対象種の特性及び確認状況（オオタカ）

種名		オオタカ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1, 4	C	C	B	B	C	○	○
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL		NT	
文化財保護法					種の保存法		国内	
種 の 特 性 （ ）	全国分布		留鳥として九州以北に分布。南西諸島ではまれな冬鳥。					
	仙台市内の分布		七北田川，蒲生，名取川，広瀬川，南長沼，二口峡，ネッタ峠，定義，サイカチ沼，荒巻，岩切，台原，福岡など。					
	形態		全長雄 50cm，雌 58cm。成鳥雄は上面が暗青灰色で白い眉斑がある。下面は白く，胸や腹に細かい横斑がある。雌は雄とほぼ同色だがより褐色みが強い。若鳥は背面が赤味のある褐色，下面は淡い褐色で黒褐色の縦斑があり，顔は細かい斑が集まった不明瞭な模様をしている。					
	生息場所		平地から山地の林，河川，農耕地，湖沼などに生息。					
	繁殖		アカマツやモミの混じる二次林，アカマツ林，カラマツ林，スギ林などで繁殖。					
	食性		中型からやや大型，特にハト大の鳥類が多いが，ヒヨドリよりも小型の鳥類も食べる。リスやウサギなどの哺乳類などを捕らえることもある。					
現 状 確 認	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	0		0		1		1	
	において，鳴き声により確認した。							

※：「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」（保育社，1995 年）
「図鑑 日本」のワシタカ類」（文一総合出版，1995 年）
「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」（山と溪谷社，1998 年）
「日本の野鳥 590」（平凡社，2000 年）
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

表 8.8-23(5) 予測対象種の特性及び確認状況(サシバ)

種名		サシバ					
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市						
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園		
		C	C	A	C	C	
	環境省 RDB		VU		宮城県 RL		VU
	文化財保護法				種の保存法		
種 の 特 性 ()	全国分布		夏鳥として本州，四国，九州に渡来し，南西諸島では越冬する。				
	仙台市内の分布		二口，朴沢，芋沢など。				
	形態		全長雄 47cm，雌 51cm。頭部を含む上面と胸が茶褐色。腹は白く茶褐色の横斑がある。喉は白く中央に縦線が1本ある。雄の顔は灰色みが強く，眉斑は不明瞭。雌の顔は雄よりも灰色みが少なく，白い眉斑がある個体が多い。胸の茶褐色部は雄よりも白い部分が多く混じる。幼鳥は頭部を含む上面が淡褐色で，胸から腹にかけては白地に褐色の縦斑がある。他の中・小型のタカ科と比較して細く長い翼をしている。「ピクィー」と特徴的な声で鳴く。				
	生息場所		平地から山地の林，水田，草地などに生息。				
	繁殖		枝上に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣をつくる。				
	食性		ヘビやトカゲ，カエルなどの両生類や爬虫類を好んで食べるほか，ネズミ，モグラ，小鳥や，バッタなどの昆虫も食べる。				
	現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外	
地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
3		3		1		1	
[redacted]において，目撃や鳴き声により確認した。							

※:「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(保育社, 1995 年)
「図鑑 日本」のワシタカ類」(文一総合出版, 1995 年)
「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」(山と溪谷社, 1998 年)
「日本の野鳥 590」(平凡社, 2000 年)
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市, 2011 年)

表 8.8-23(6) 予測対象種の特性及び確認状況(ヤマセミ)

種名		ヤマセミ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種	ふれあい 保全種	
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園			海浜
				B			○	
	環境省 RDB				宮城県 RL		要注目種	
	文化財保護法				種の保存法			
種 の 特 性 ()	全国分布		留鳥または漂鳥として北海道から九州に分布。					
	仙台市内の分布		広瀬川，名取川，二口峡谷，月山池周辺，五色沼，長沼，桜ヶ丘公園，丸田沢堤，二口，鈎取など。					
	形態		全長 38cm。体上面は白と黒の鹿の子模様。頭部は大きく冠羽がある。嘴は大きめで鉛色。体下面は白く顎線と胸，脇腹に黒斑がある。雄は顎線と胸に錆色があり，翼下面は白い。雌は顎線と胸に錆色が無く，翼下面に錆色がある。					
	生息場所		山地の溪流や湖沼に生息。河川では上流部の渓谷にすみ，中流以下ではまれ。山地と海岸が隣接した地域では海岸で見られることもある。					
	繁殖		土質の崖に横穴を掘って営巣する。高さ 3m 以上，傾斜度 70 度以上の急斜面に営巣することが多い。					
	食性		主に川魚で，イワナ，ヤマメ，ウグイ，フナなどを食べる。カエル，サワガニ，昆虫も捕まえる。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	0		0		2		2	
	[redacted]において，目撃により確認した。							

※:「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(保育社, 1995 年)
「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」(山と溪谷社, 1998 年)
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市, 2011 年)

表 8.8-23(7) 予測対象種の特性及び確認状況(サンショウクイ)

種名		サンショウクイ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1, 4	C	C	B	C	C		
	環境省 RDB		VU		宮城県 RL		VU	
	文化財保護法					種の保存法		
種 の 特 性 ()	全国分布		夏鳥として本州と四国に渡来し、屋久島、種子島、奄美大島から南西諸島では留鳥。					
	仙台市内の分布		二口、丸田沢、朴沢、芋沢など。					
	形態		全長 20cm。スマートな体形で、尾は長め。雄成鳥は額、喉から側頸と下尾筒までの体下面は白く、頭頂から後頸、過眼線は黒くつながっている。背、肩羽から上尾筒は灰色。翼は黒褐色で、雨覆、三列風切の外弁は灰色。尾は黒褐色で、外側尾羽は白い。嘴と足は黒色。雌は雄に似るが黒みが少なく、前頭から上面にかけては灰色で、額の白色部も狭い。風切基部は白く、飛翔時には翼上・下面とも白線となって見える。					
	生息場所		平地から山地の明るい林に生息。					
	繁殖		高木上部の枝の上に、木のこぶのように見える椀形の巣をつくる。					
	食性		昆虫類を食べる。					
	現 状 確 認	対象事業計画地内				対象事業計画地外		
地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数		
7		9		1		1		
[redacted]		において、目撃や鳴き声により確認した。						

※:「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(保育社, 1995 年)
「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」(山と溪谷社, 1998 年)
「日本の野鳥 590」(平凡社, 2000 年)
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市, 2011 年)

表 8.8-23(8) 予測対象種の特性及び確認状況(セグロセキレイ)

種名		セグロセキレイ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	4	C	C	C	C			
	環境省 RDB					宮城県 RL		
文化財保護法					種の保存法			
種 の 特 性 ()	全国分布		留鳥として九州以北に分布し、少数は漂鳥として対馬、伊豆諸島、奄美大島などで冬に出現する。					
	仙台市内の分布		二口、丸田沢、朴沢、旗立、芋沢など。					
	形態		全長 21cm。成鳥は雌雄、夏・冬羽を問わず背からの上面や頸、胸などが黒い。額から眉斑と喉、腹からの体下面は白い。三列風切や初列風切の一部、次列風切の一部の羽先は黒く、大・中雨覆などその他の部分は白い。飛翔時は翼がほとんど白く見える。最外側尾羽は白い。嘴と足は黒い。					
	生息場所		平地から山地の河川、湖沼、農耕地などに生息。					
	繁殖		河原の土手の窪み、河原の石や流木の下、人家の石垣や屋根、河原の隙間などに、枯れ草や獣毛、綿クズなどを使って椀形の巣をつくる。					
	食性		トビケラ類、カワゲラ類などの昆虫のほか、種子なども食べる。					
現 状 確 認	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	1		1		21		26	
	[redacted]において、目撃や鳴き声により確認した。							

※:「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(保育社, 1995 年)
「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」(山と溪谷社, 1998 年)
「日本の野鳥 590」(平凡社, 2000 年)
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市, 2011 年)

(D) 猛禽類定点調査

現地調査で確認された鳥類（猛禽類定点調査）のうち表 8.8-13に示す基準に該当する注目すべき種は、表 8.8-24に示すとおり 2 目 3 科 9 種が確認された。注目すべき種の飛翔図は図 8.8-12(1)～(9)に示すとおりである。

また、注目すべき種のうち予測対象種※の特性及び確認状況は表 8.8-25(1)～(7)に示すとおりである。

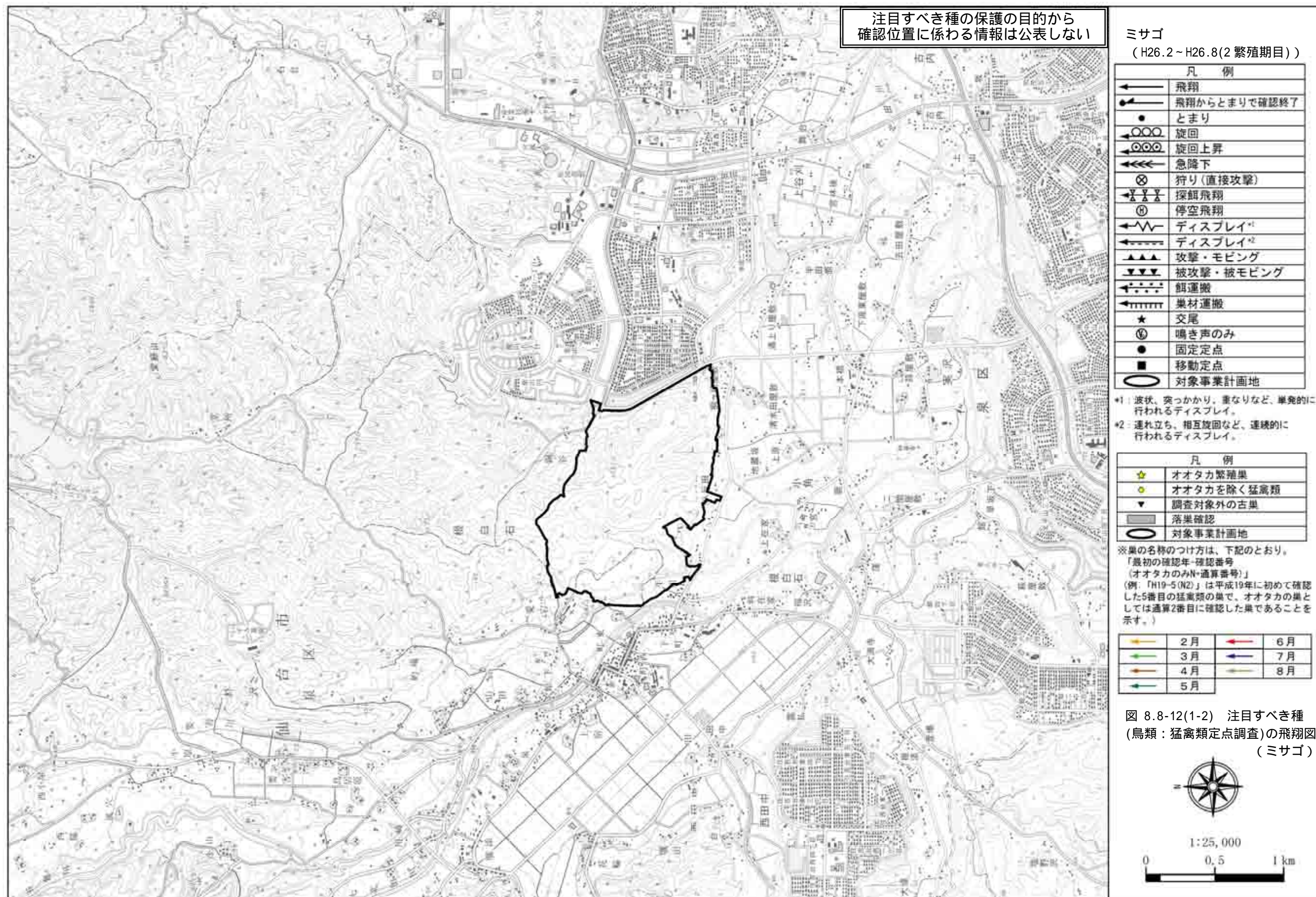
※：表 8.8-13の注目すべき種の選定基準のうち、仙台市における保全上重要な種の区分は「学術上重要種」、「減少種」、「環境指標種」、「ふれあい保全種」に区分されているが、「学術上重要種」と「減少種」の中でも以前に比べて減少傾向にあり現在ほとんど見ることが出来ず特に稀といわれている A ランクの種を予測対象種とした。B・C ランクの「減少種」及び「環境指標種・ふれあい保全種」には、調査範囲を含む仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、予測対象種からは除外した。

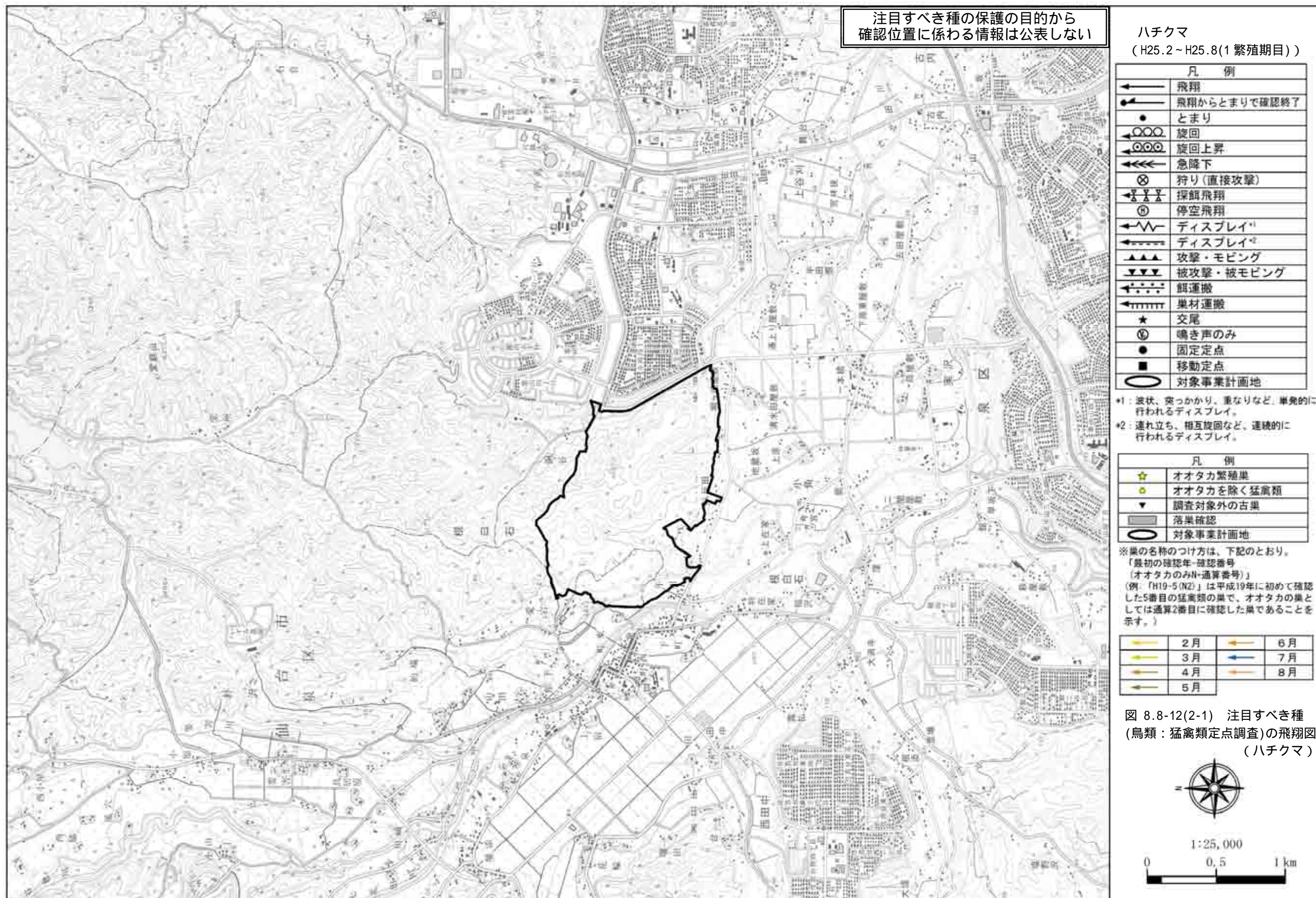
表 8.8-24 注目すべき種（鳥類（猛禽類定点調査）：現地調査）

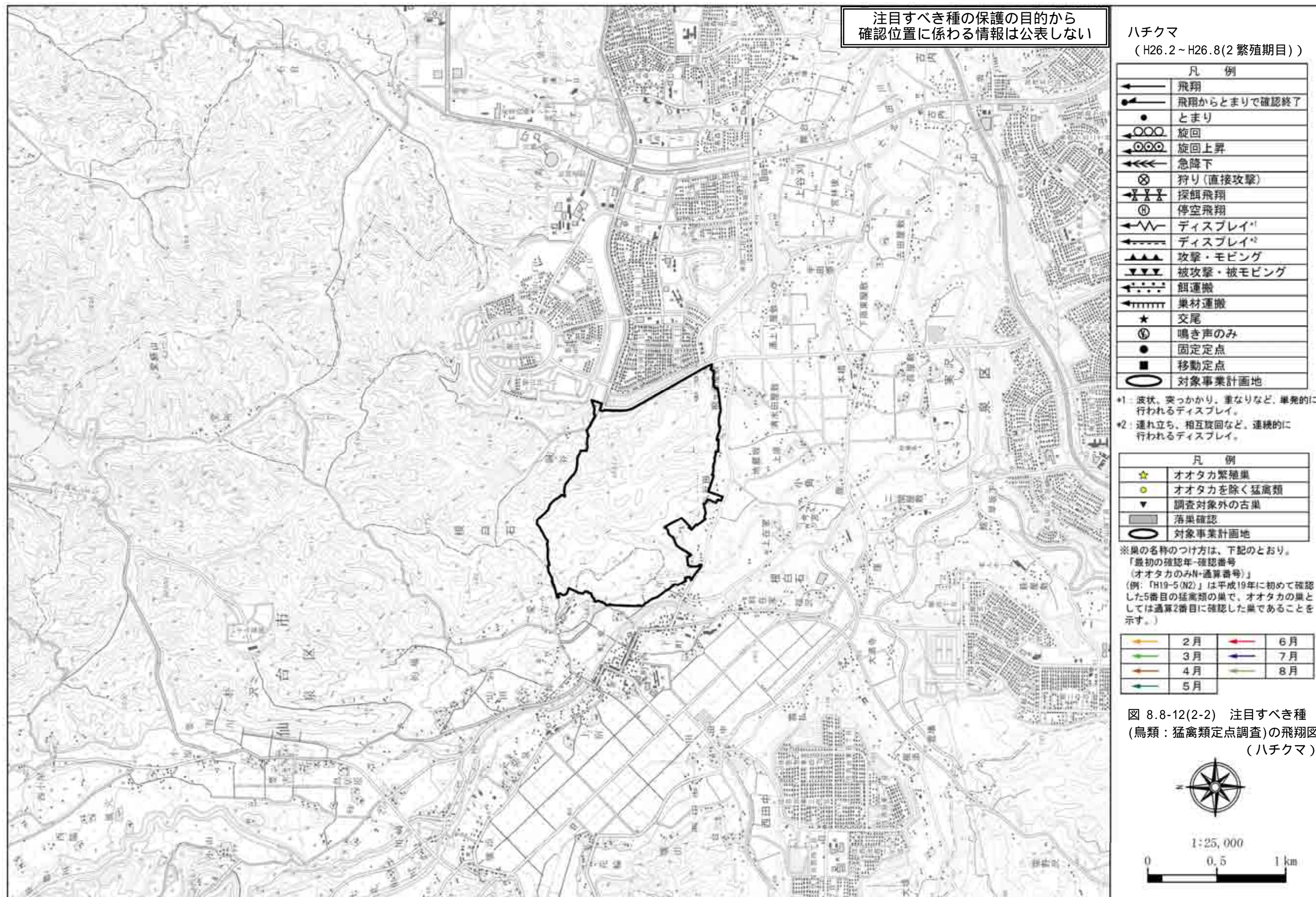
No.	目名	科名	種名	確認回数			注目すべき種選定基準											
				1 繁殖期目	非繁殖期	2 繁殖期目	I								II	III	IV	V
				H25 年 2 月 ～H25 年 8 月	H25 年 9 月 ～H26 年 1 月	H26 年 2 月 ～H26 年 8 月	①	②					③	④				
								1	2	3	4	5						
1	タカ	ミサコ	ミサコ	16 回	0 回	10 回	1, 4				C	C	○		NT			
2		タカ	ハチクマ	33 回	0 回	12 回	1, 4	C	C						NT	NT		
3			ハイタカ	30 回	4 回	32 回	1, 4	C	C	C	C	C			NT	NT		
4			オオタカ	109 回	8 回	70 回	1, 4	C	C	B	B	C	○	○	NT	NT		国内
5			サシバ	97 回	1 回	44 回		C	C	A	C	C			VU	VU		
6			ノスリ	198 回	18 回	252 回		*	C	C	C		○					
7			クマタカ	2 回	0 回	2 回	1, 4	B					○		EN	CR+EN		国内
8	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	9 回	2 回	11 回			C	B	C	B		○				
9			ハヤブサ	9 回	3 回	8 回	1, 4	C	B	B	B	B			VU	NT		国内
-	2 目	3 科	9 種	503 回	36 回	441 回	6 種	7 種	7 種	6 種	7 種	6 種	4 種	2 種	7 種	6 種	0 種	3 種

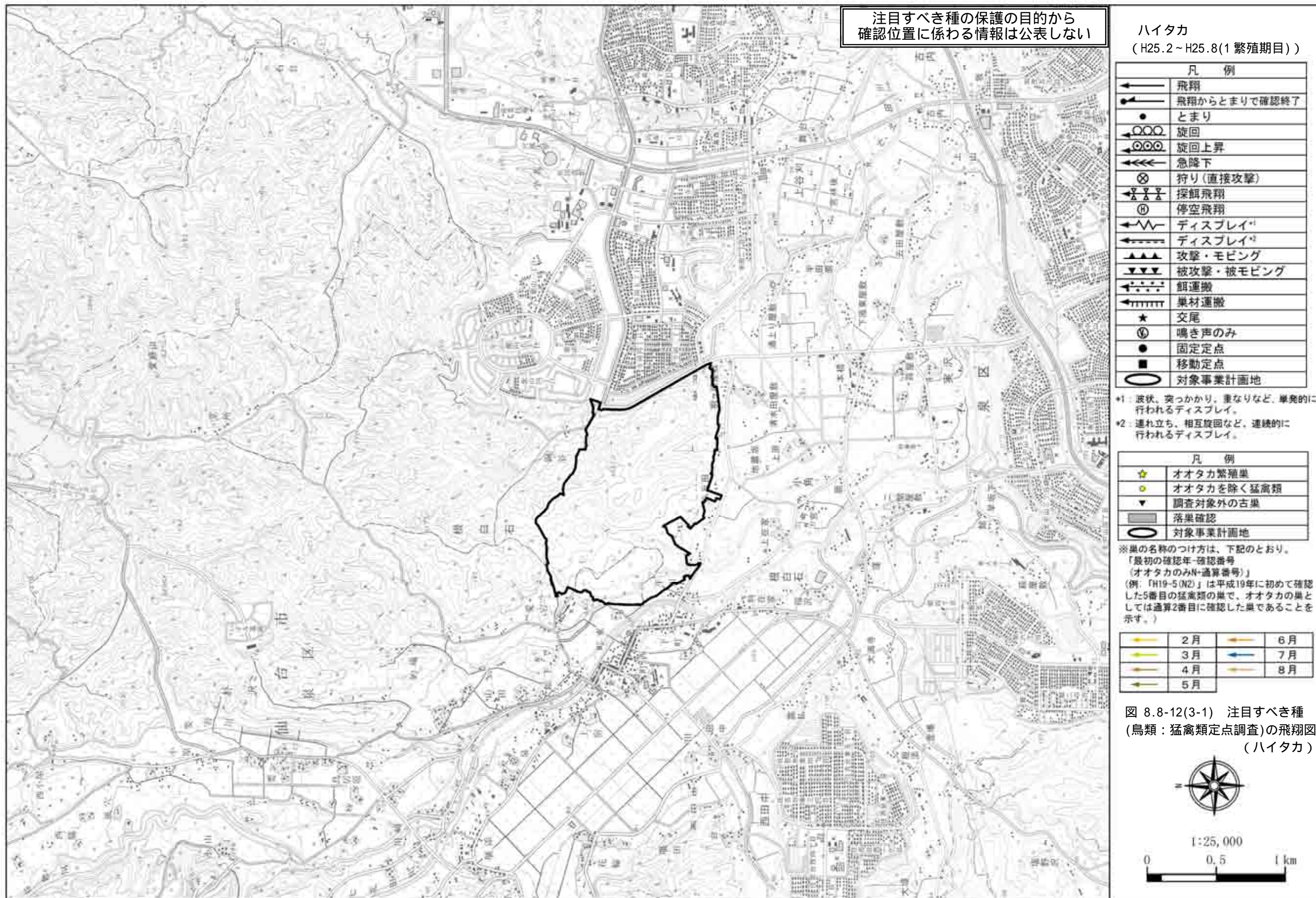
※1：猛禽類定点調査の非繁殖期は、表 8.8-7に示す 8 定点のうち、4 定点（St. 1, St. 2, St. 4, St. 5）で調査を実施した。

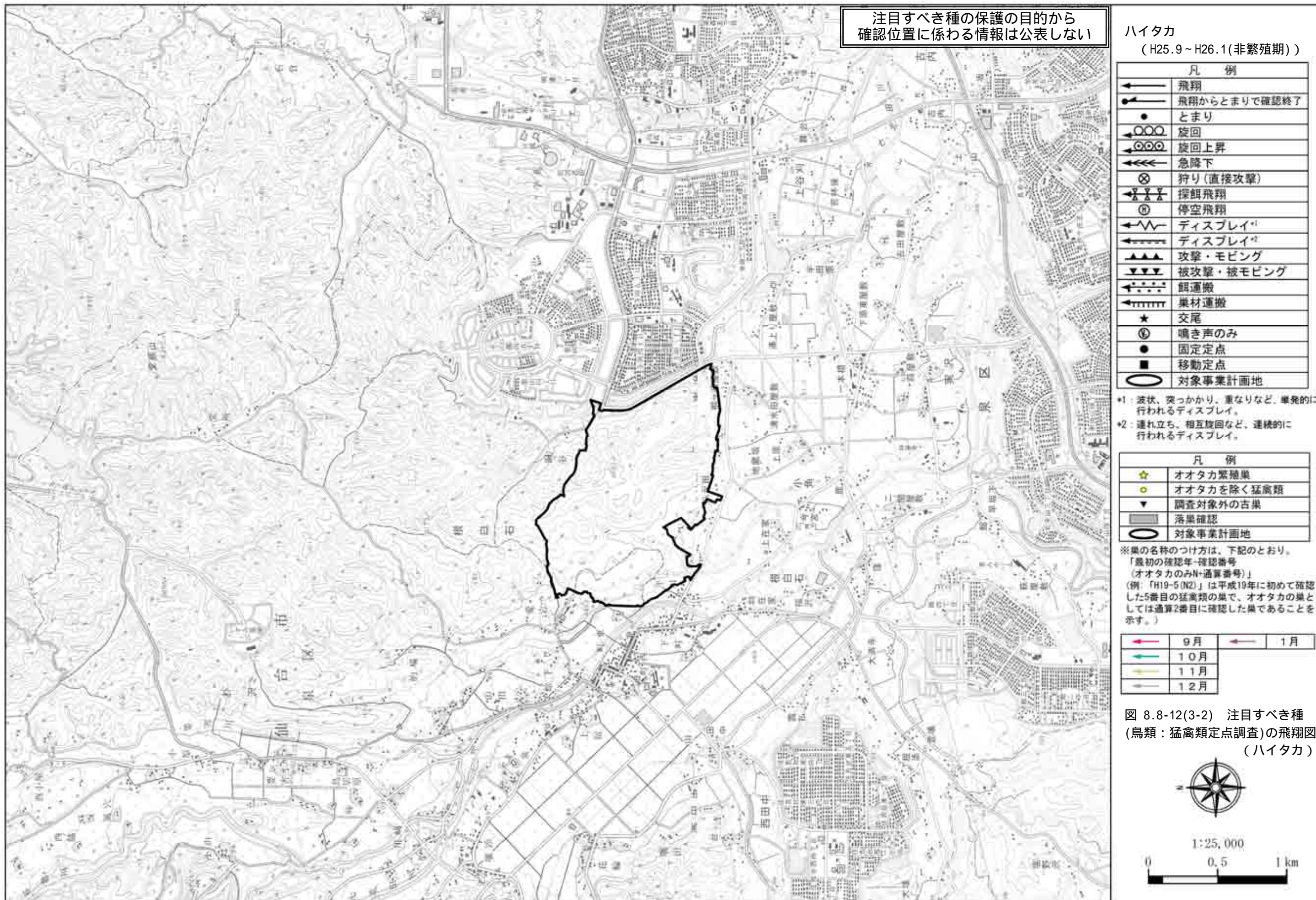
※2：注目すべき種の選定基準の区分は、表 8.8-13を参照

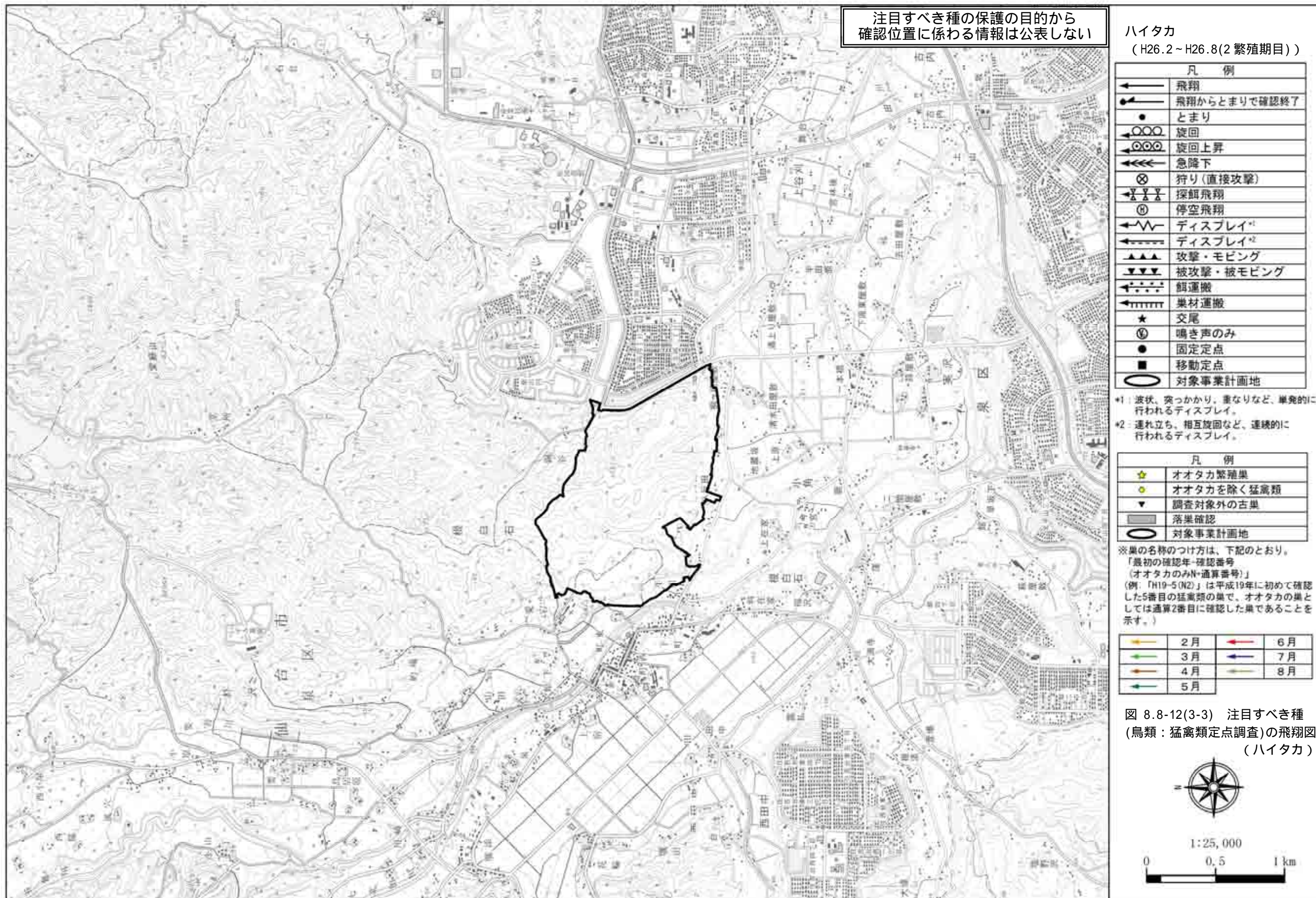


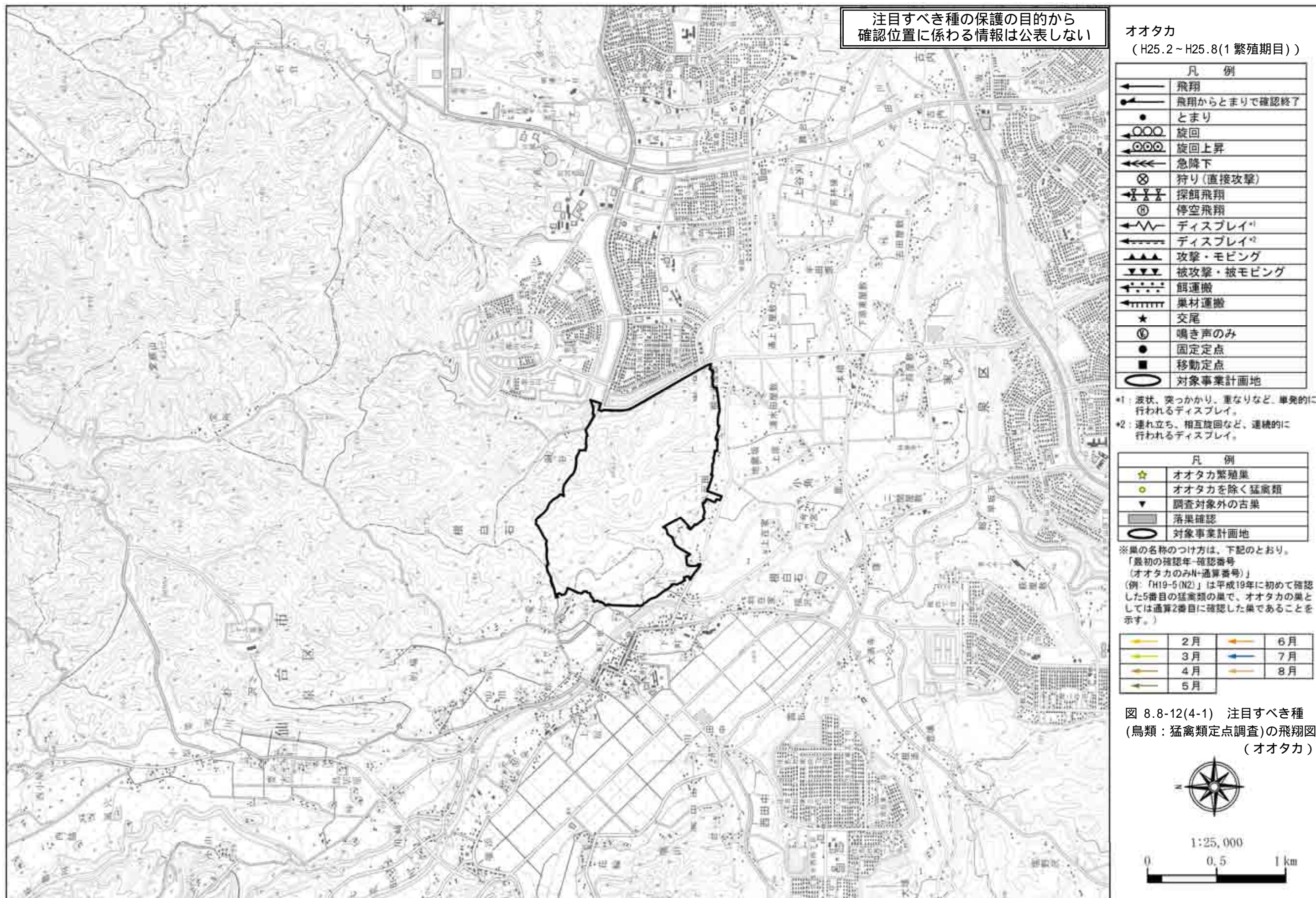


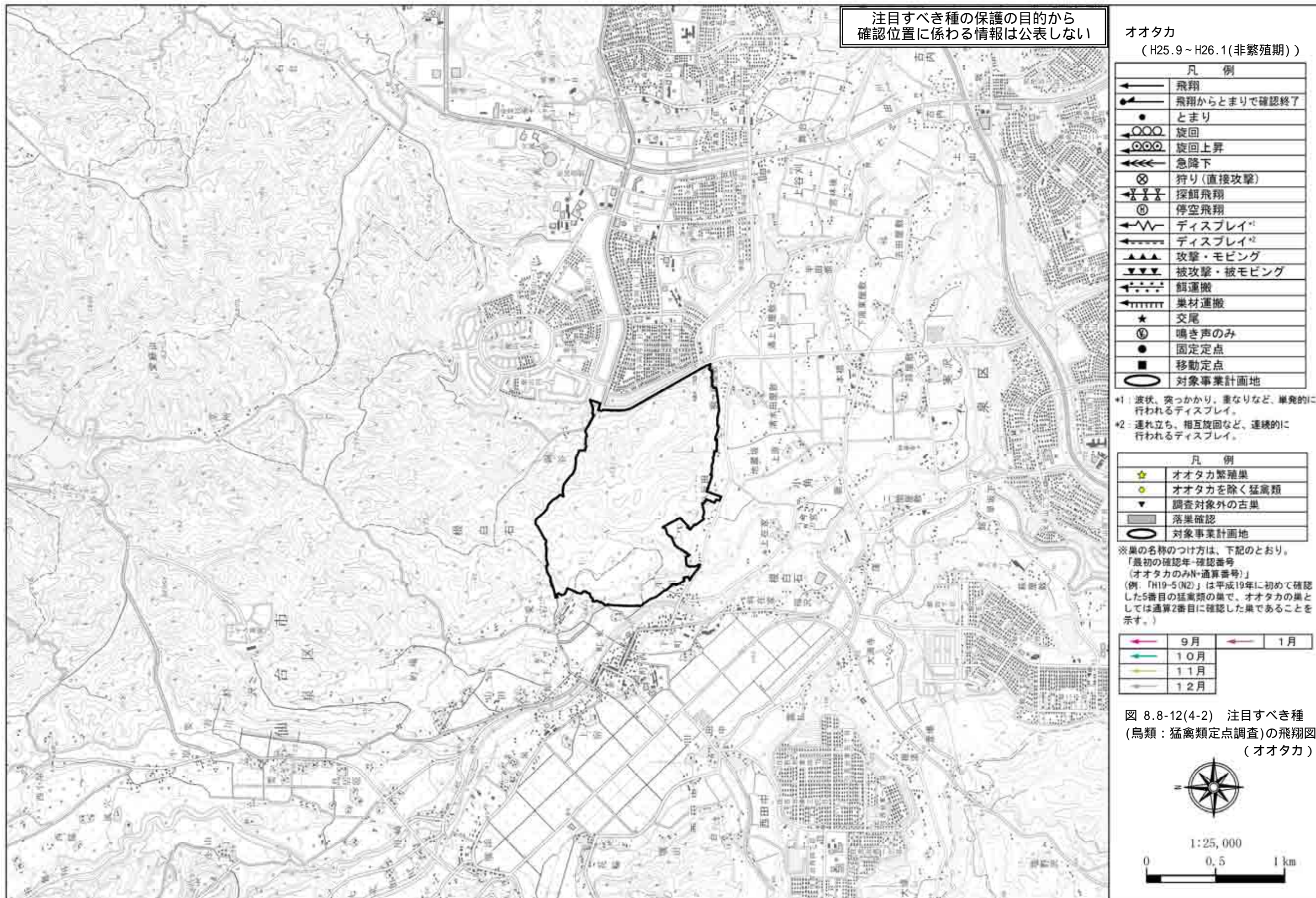


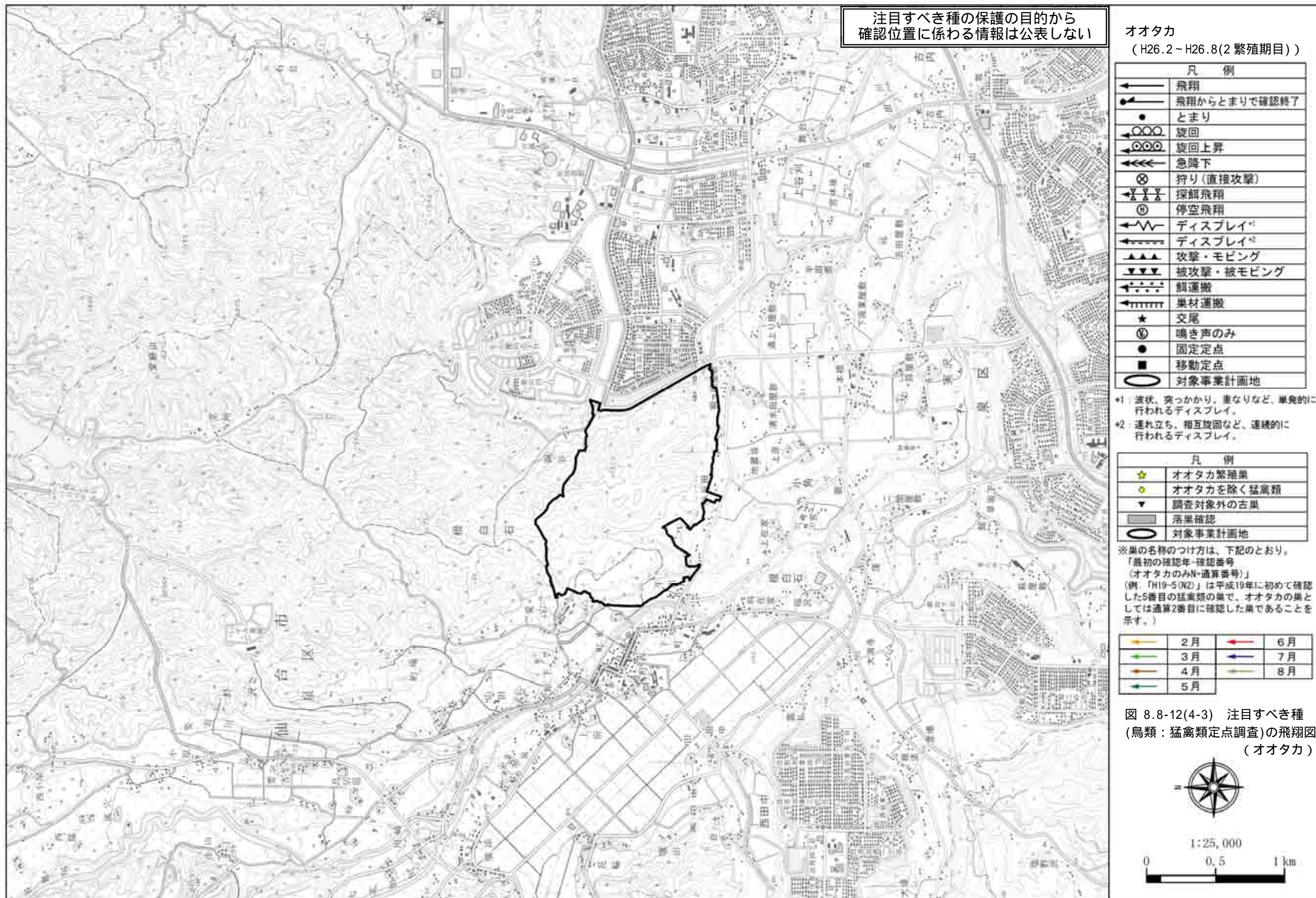


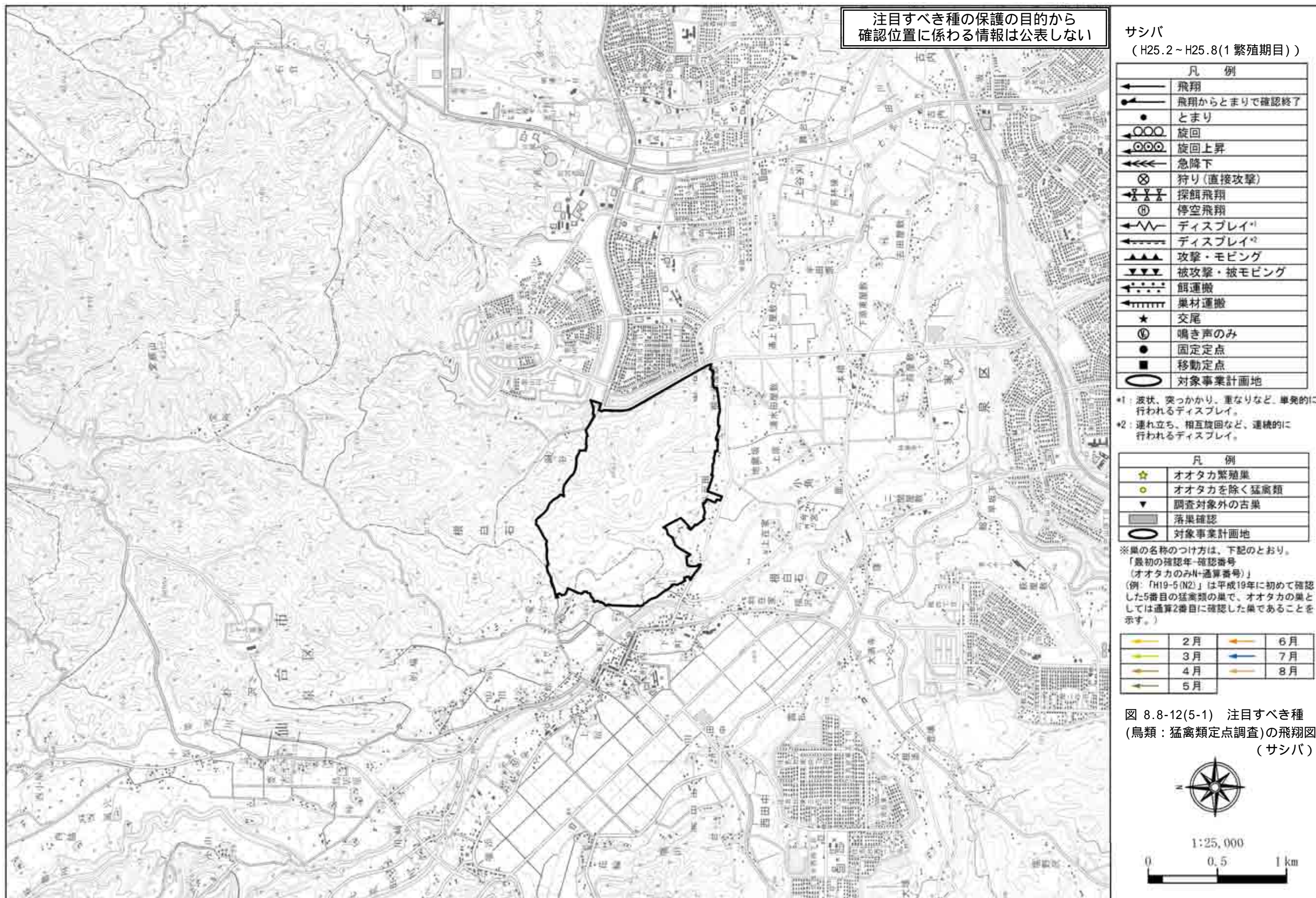


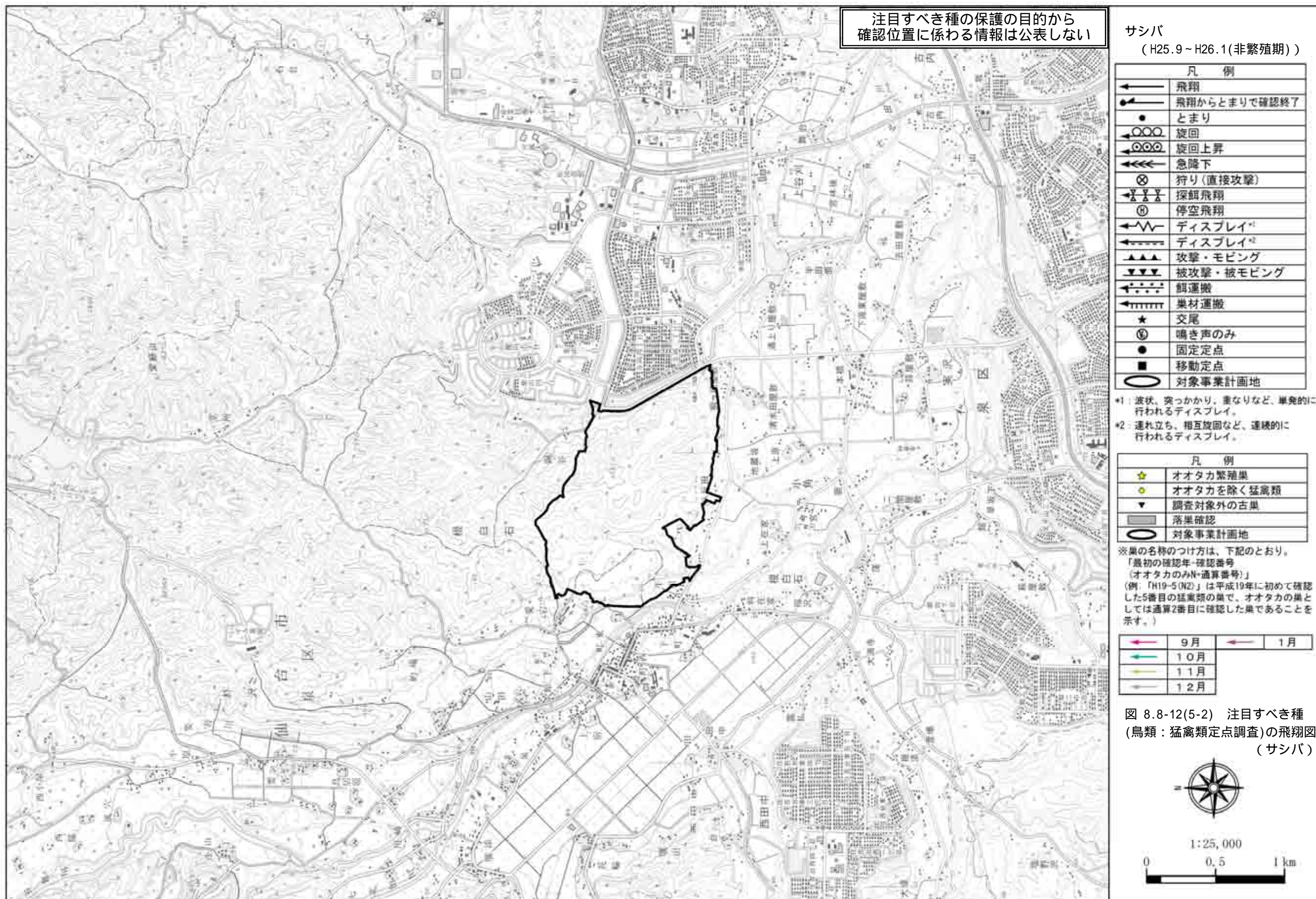


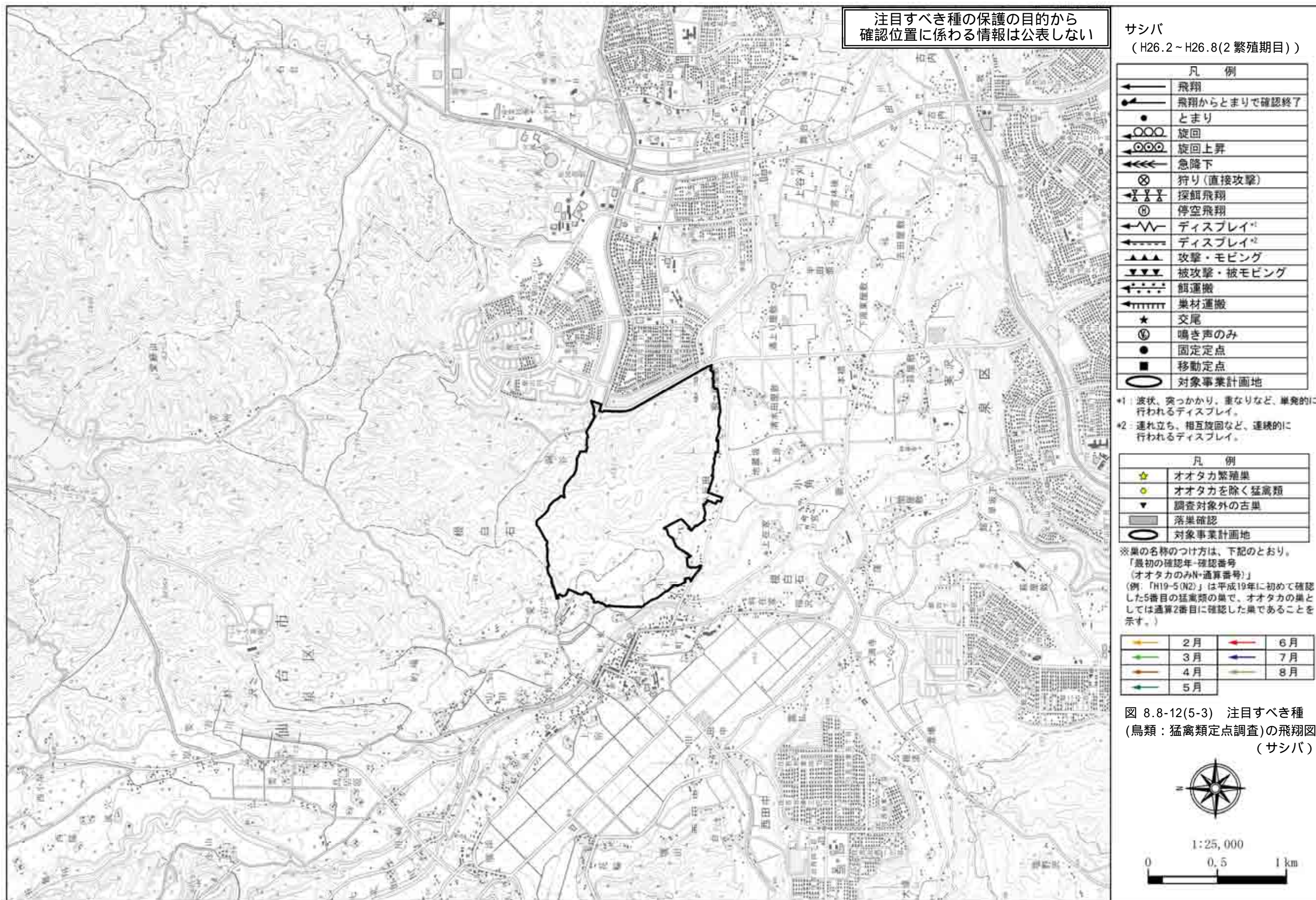


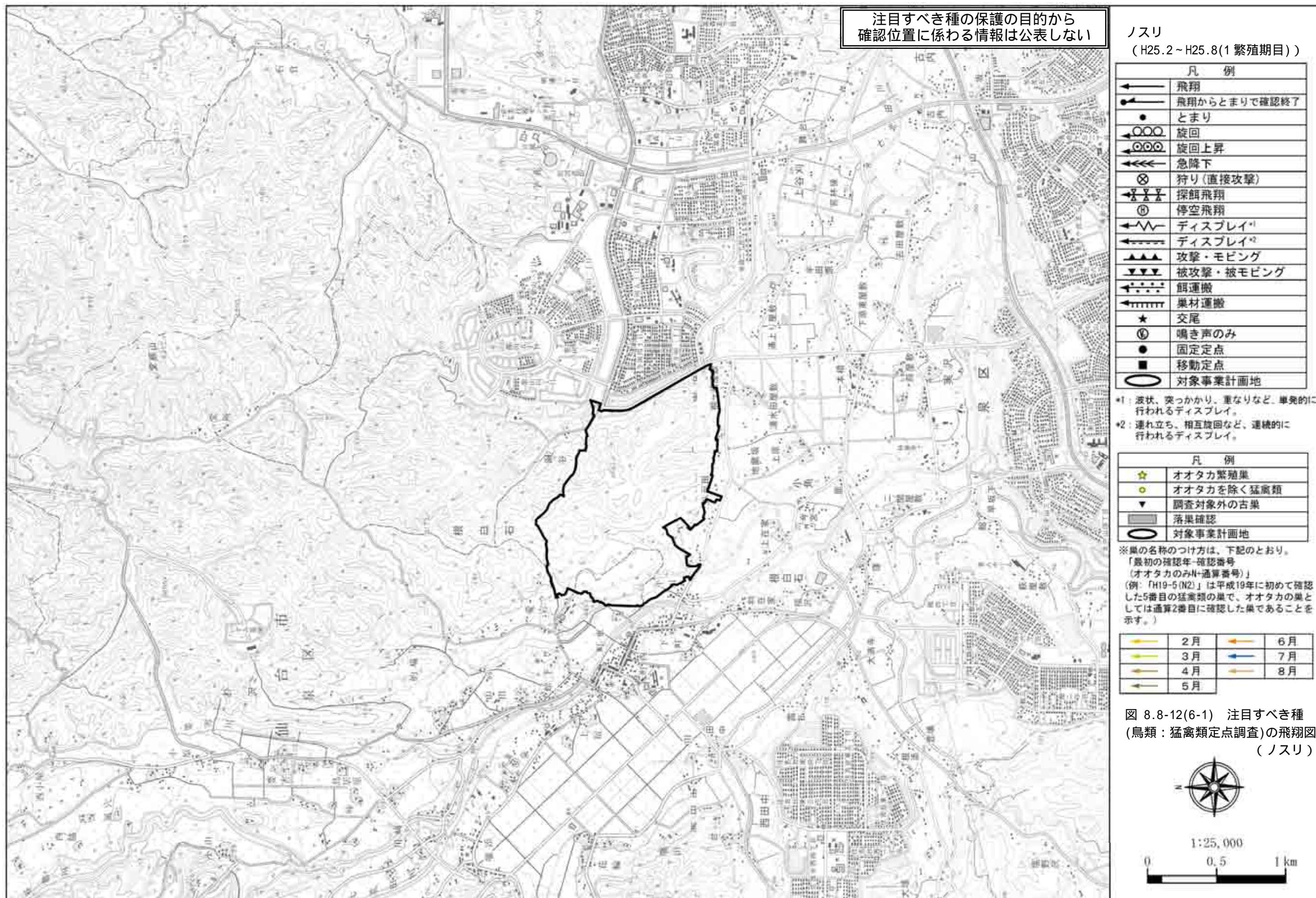


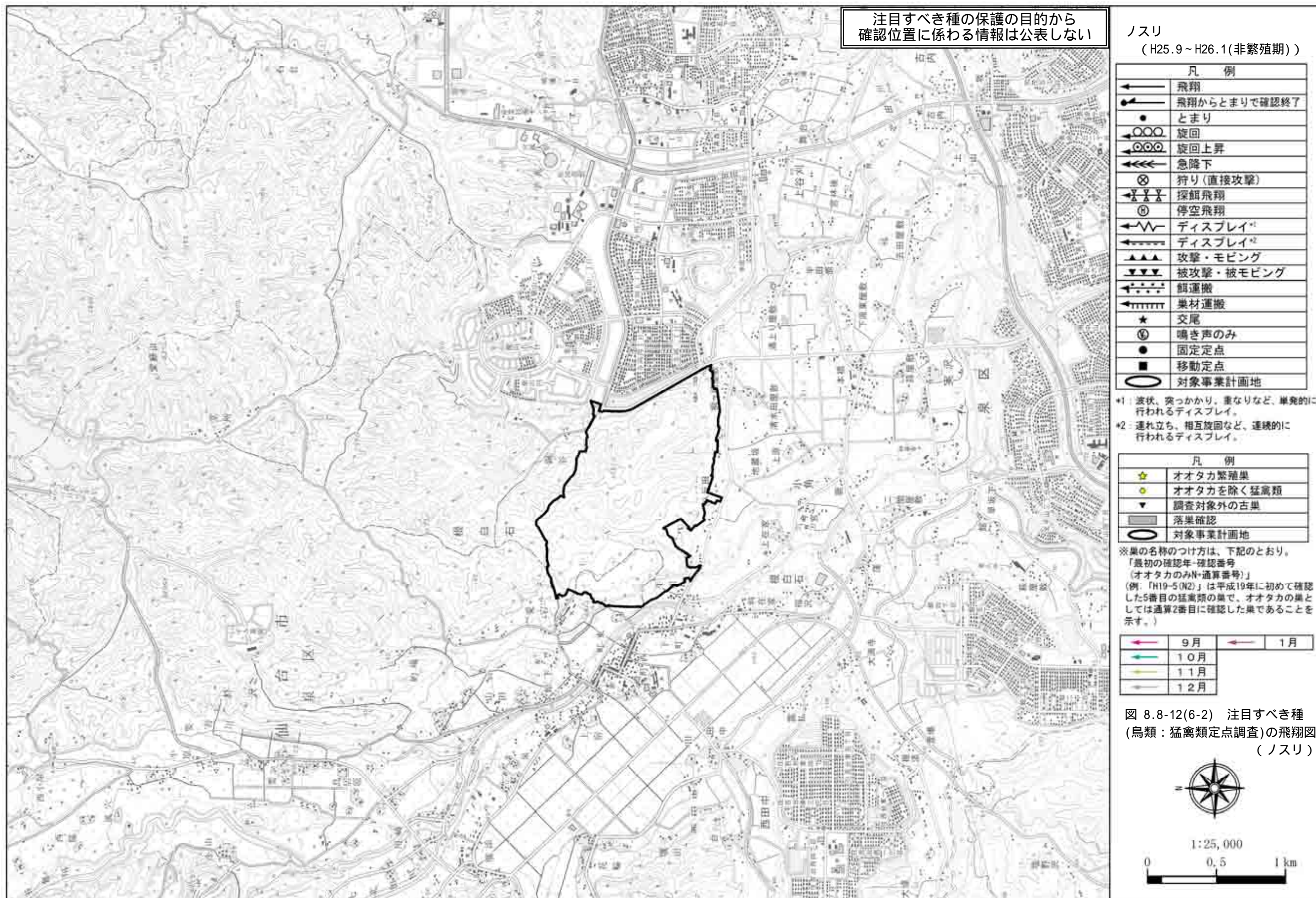


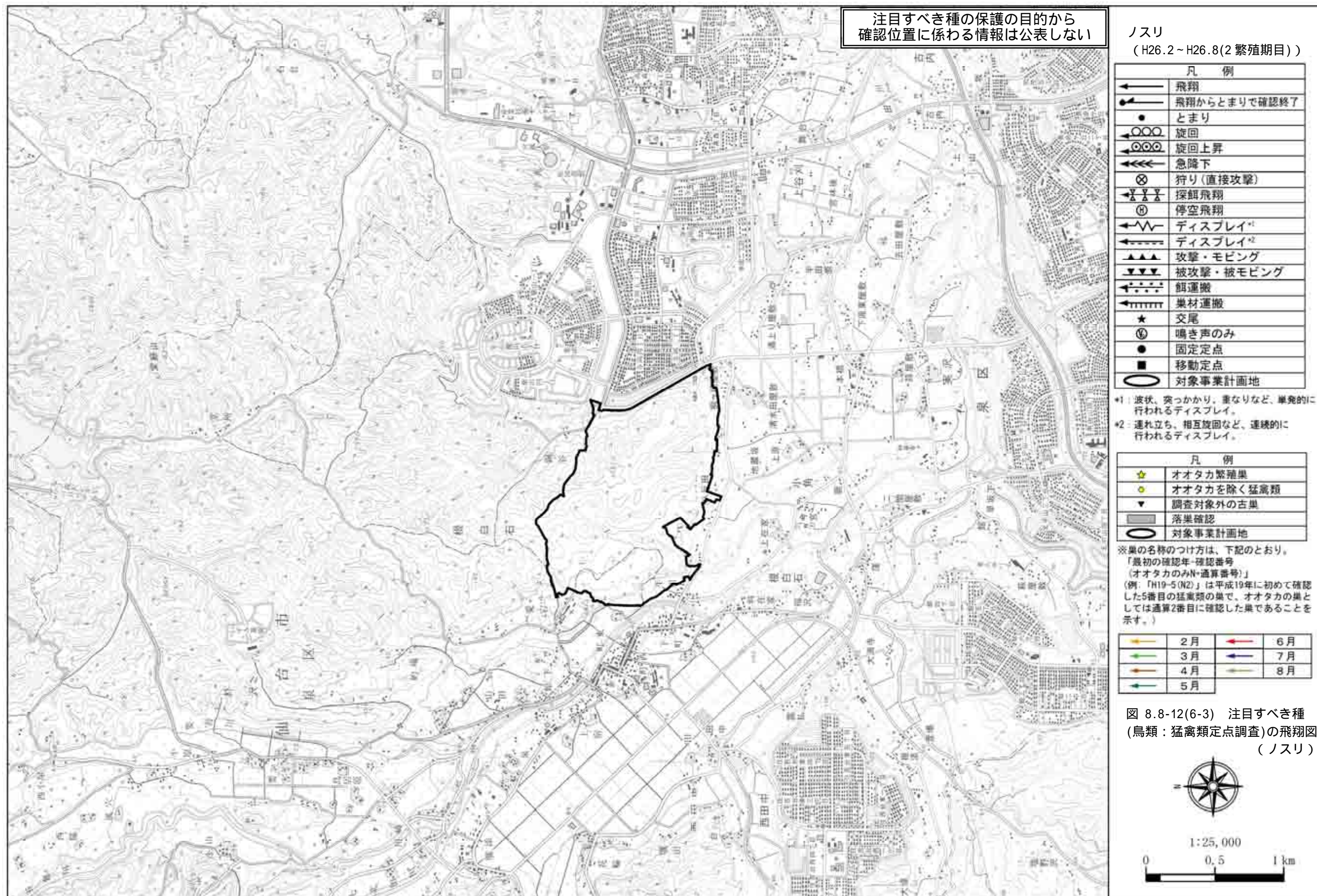


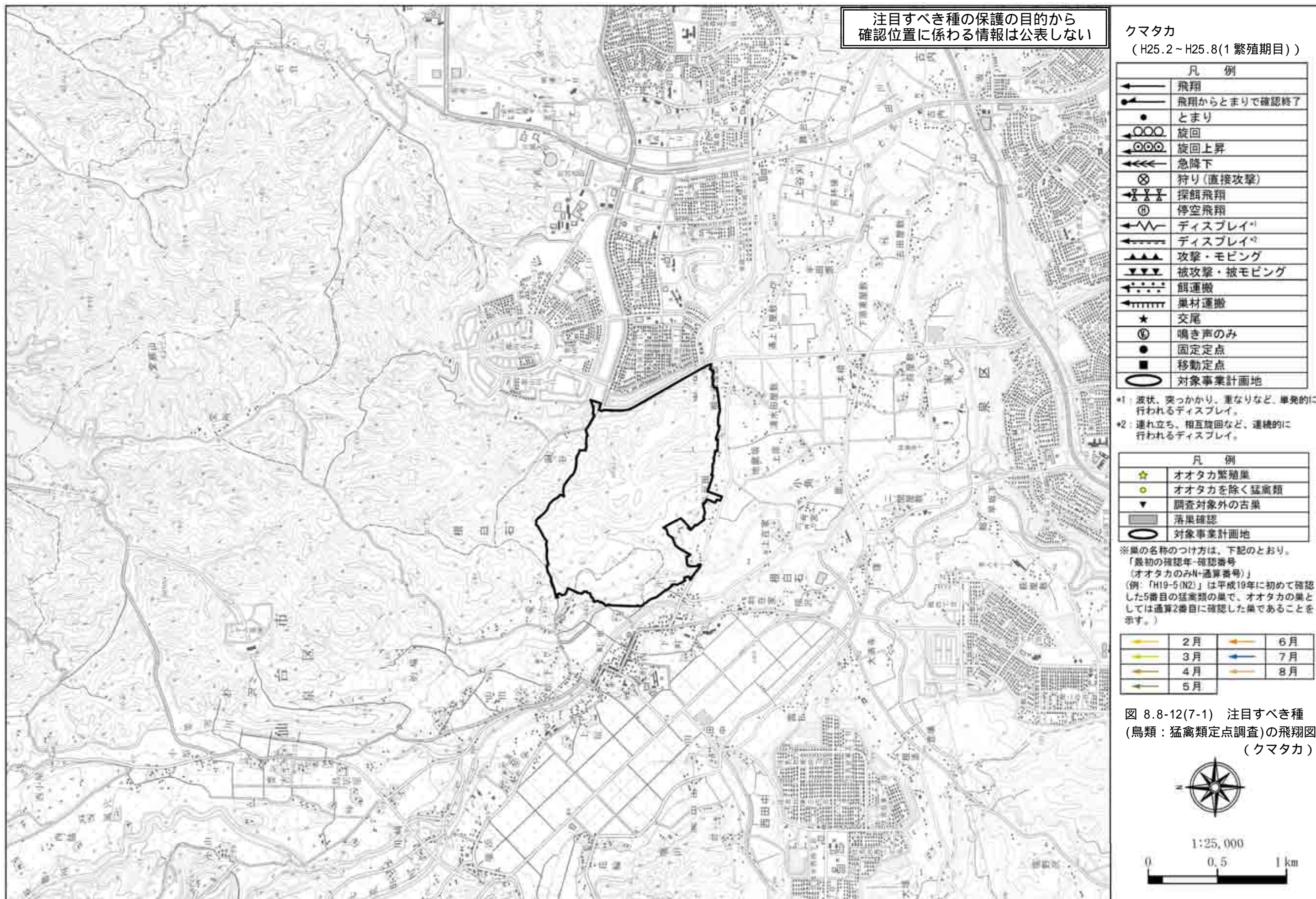


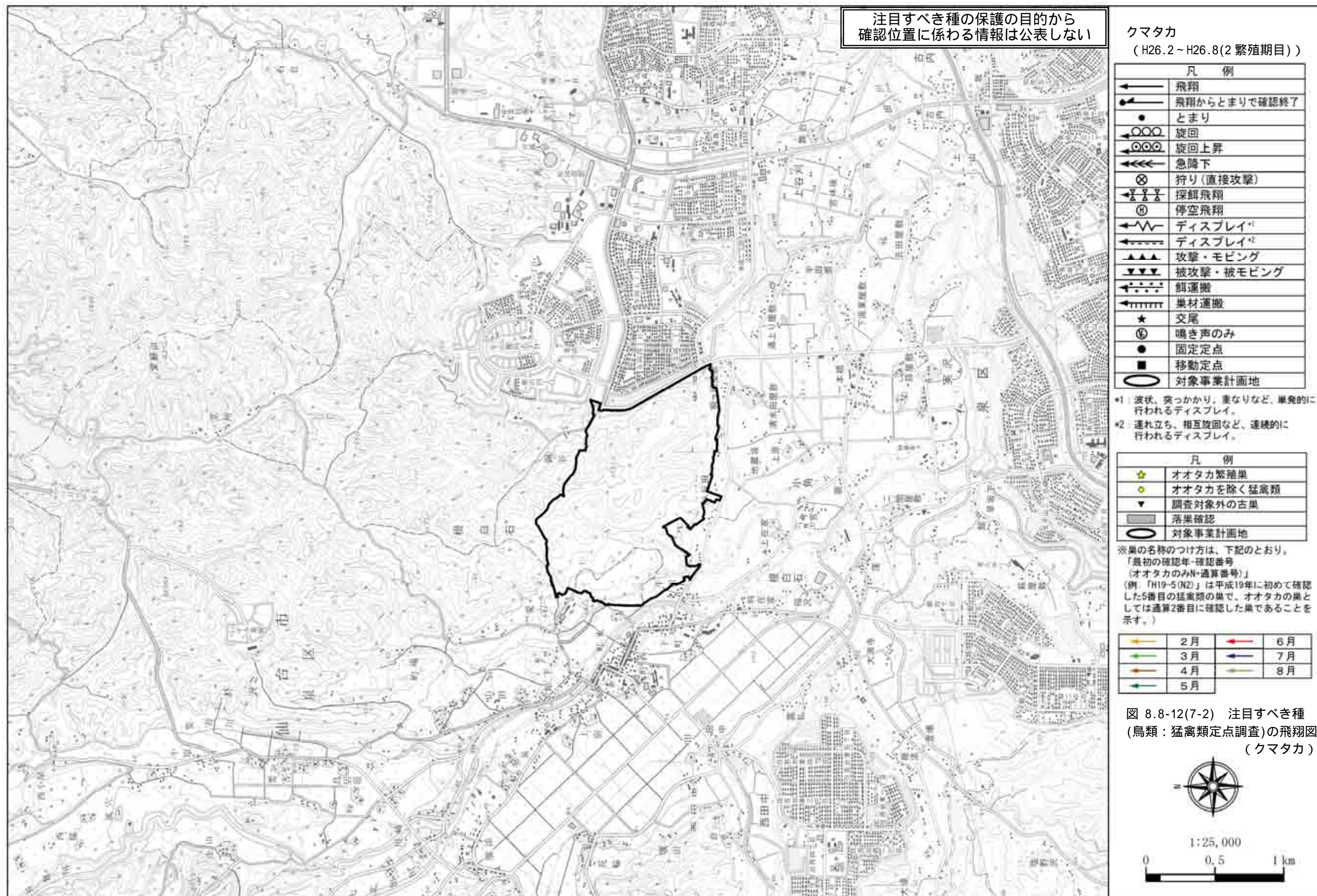


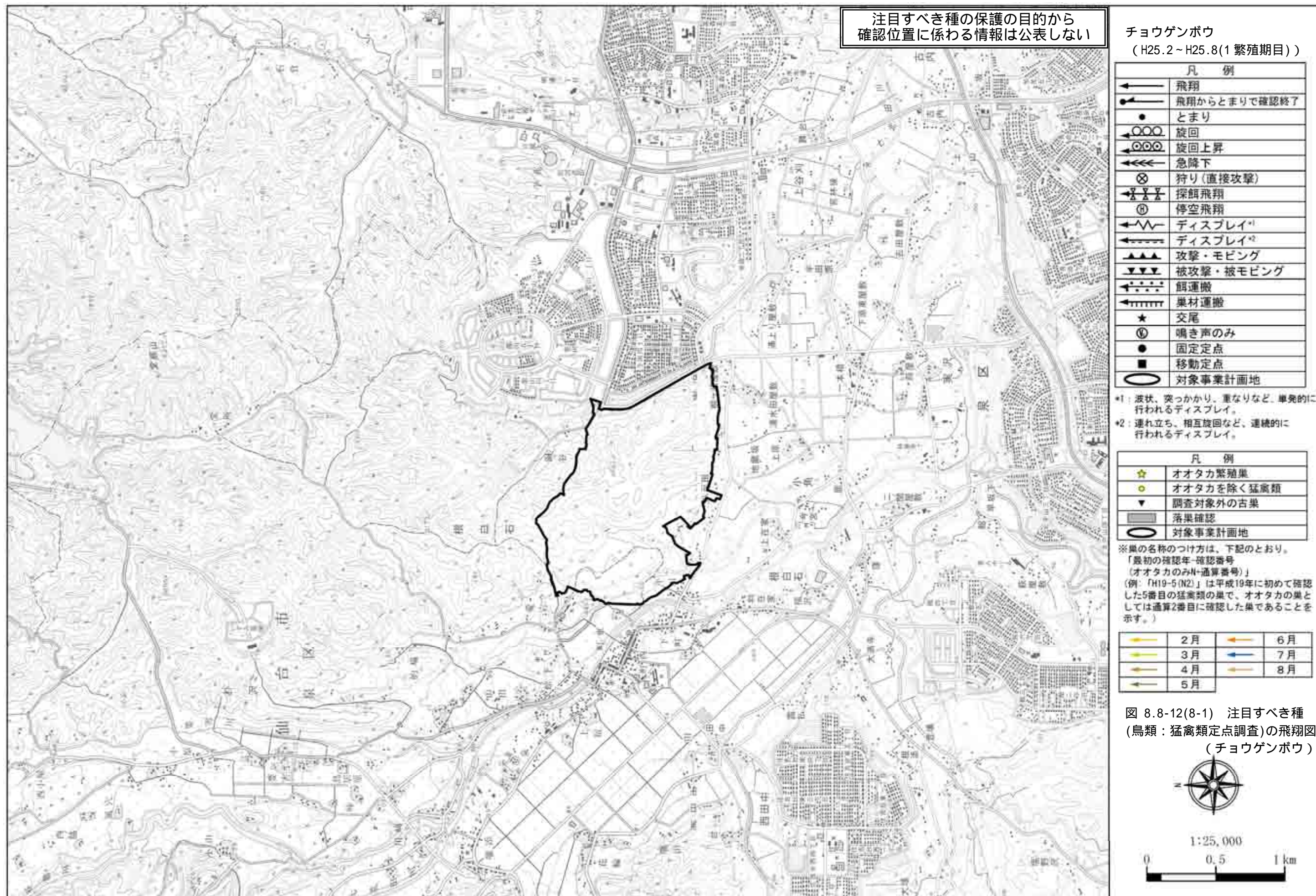


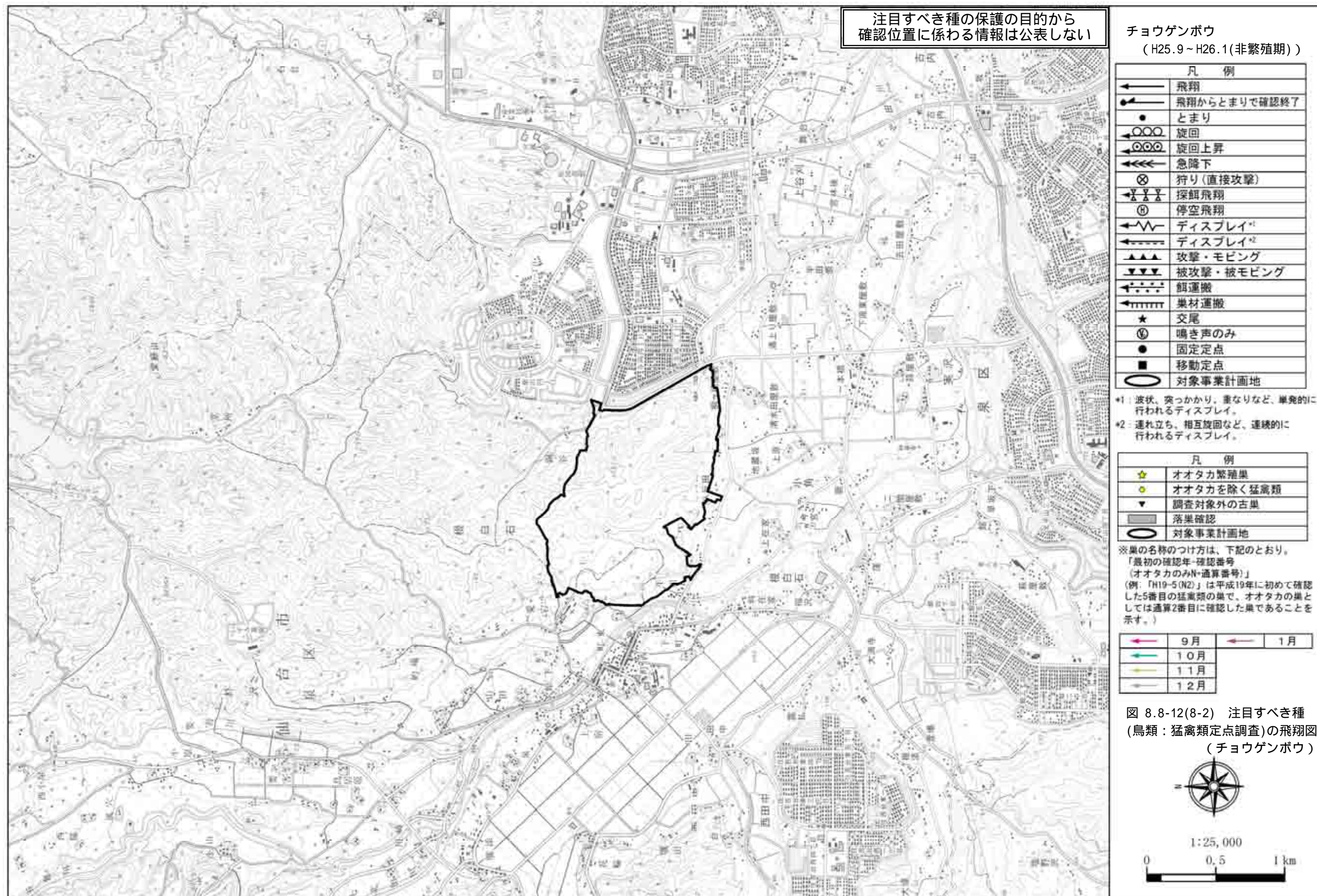












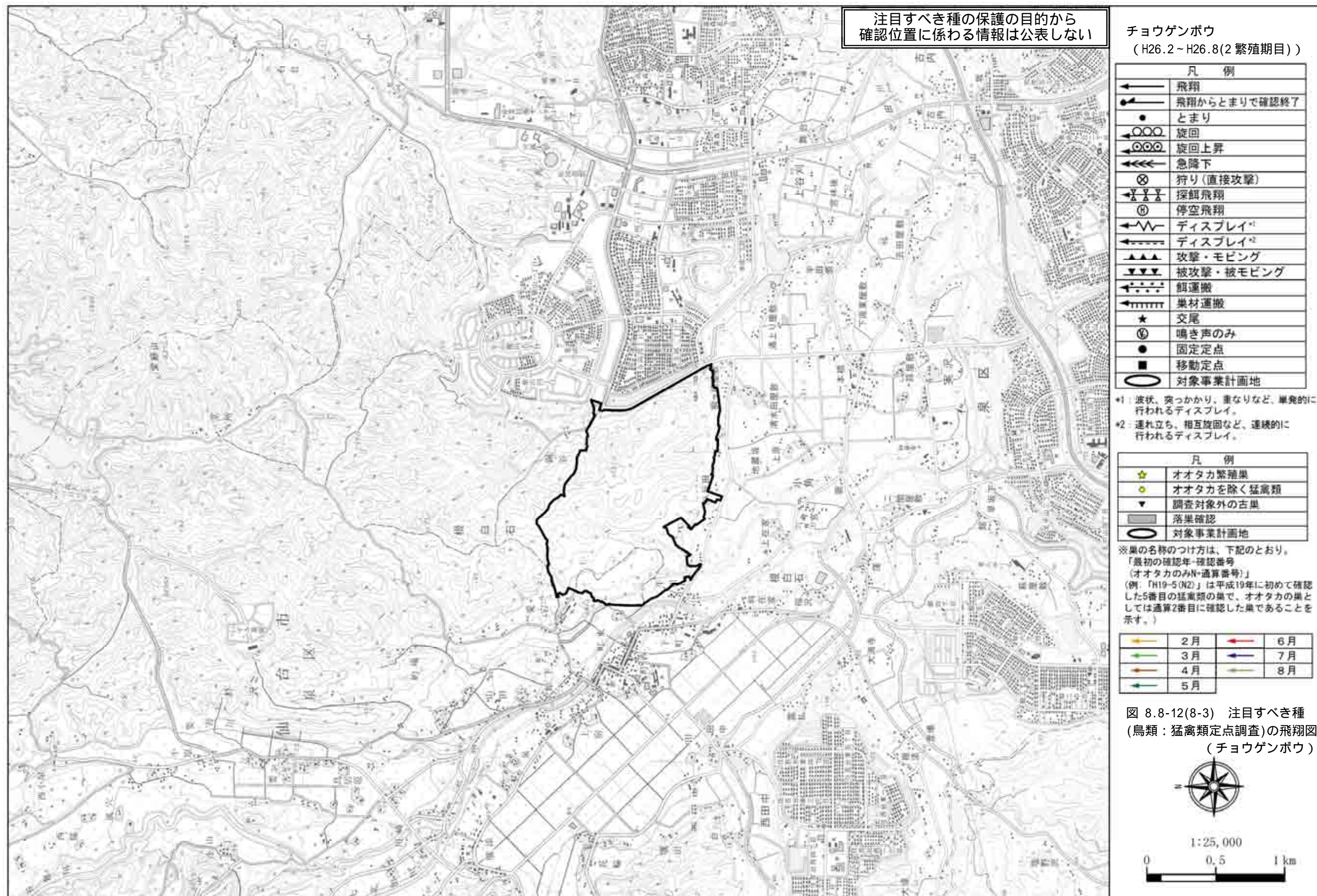
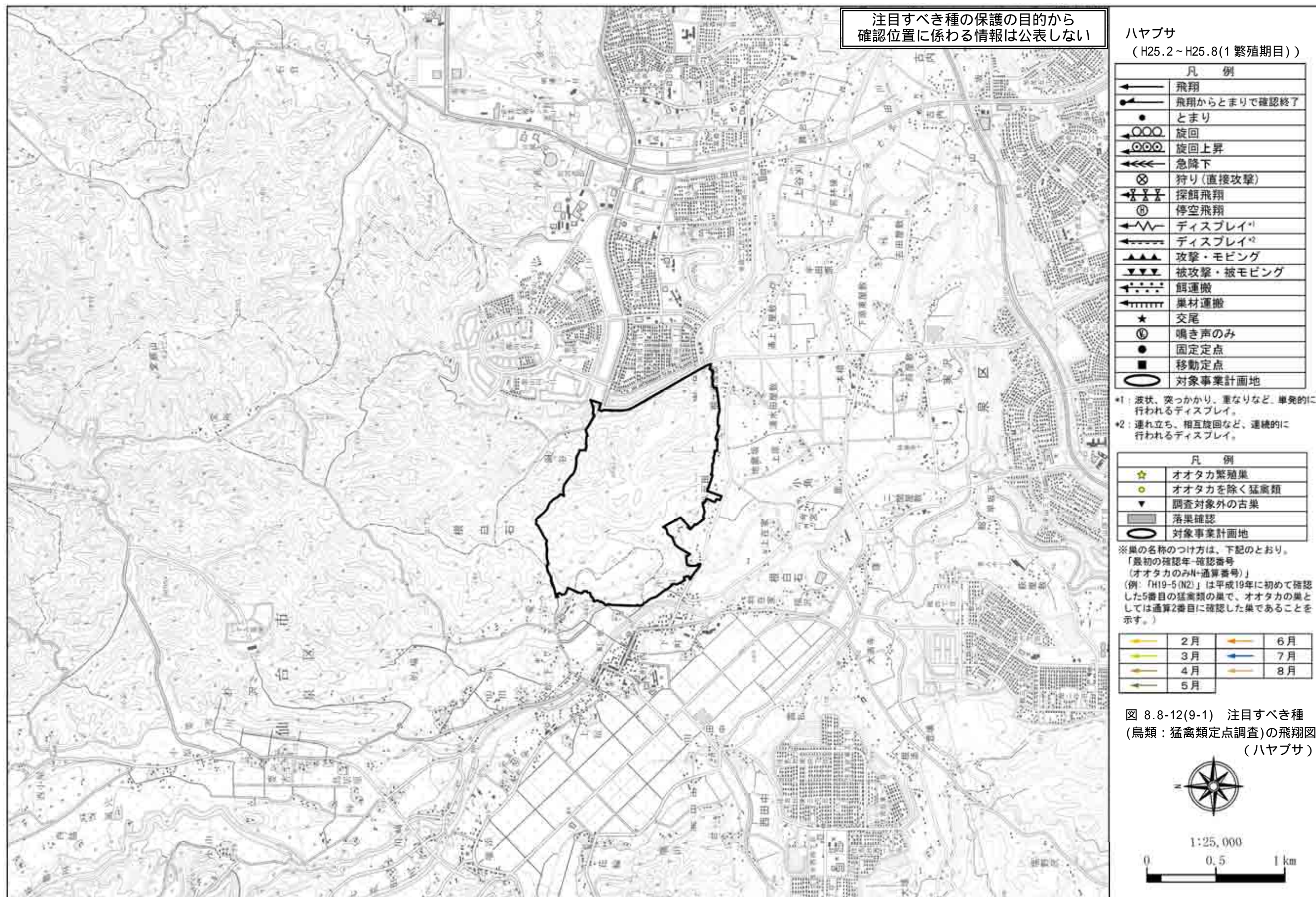
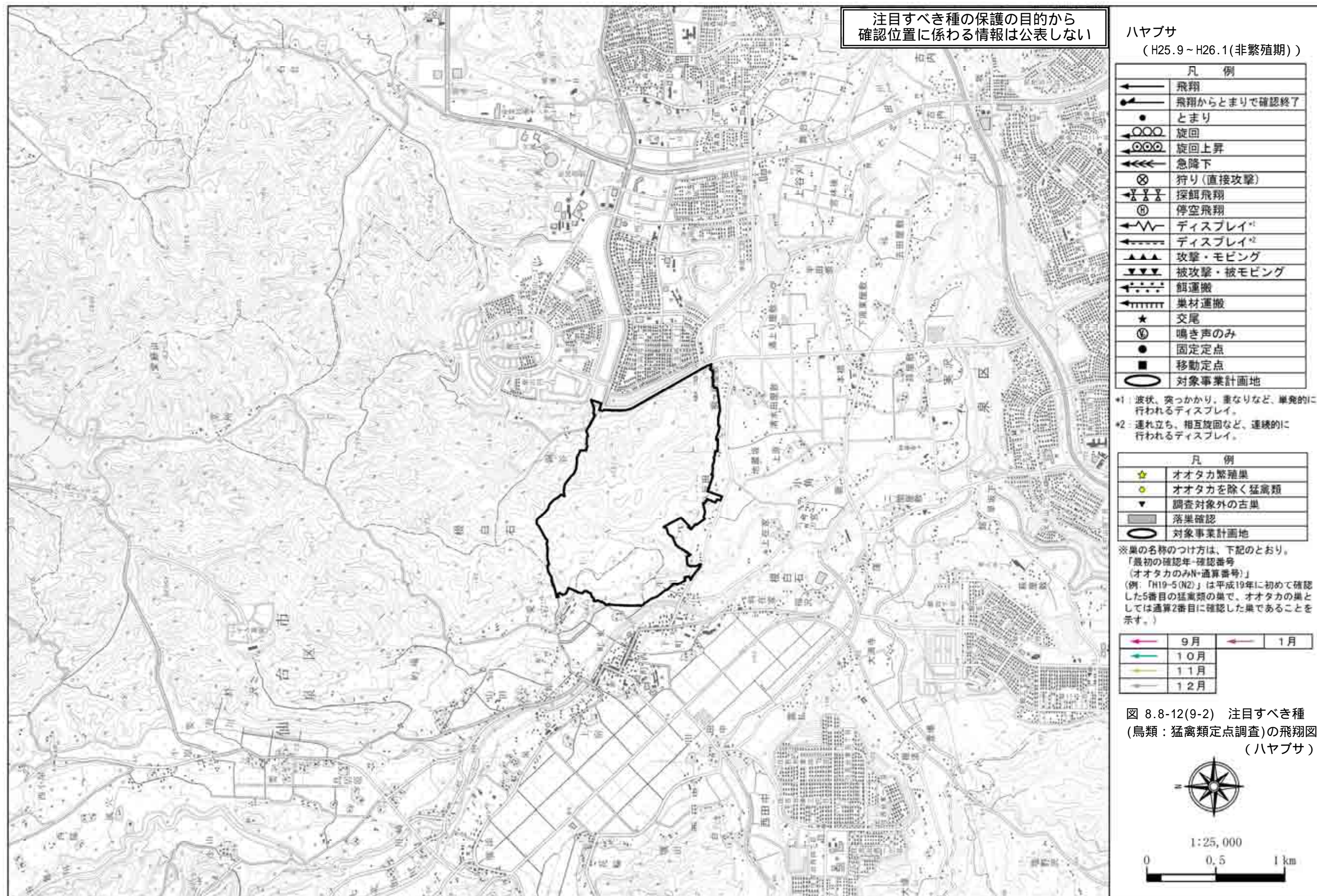


図 8.8-12(8-3) 注目すべき種
(鳥類：猛禽類定点調査)の飛翔図
(チョウゲンボウ)





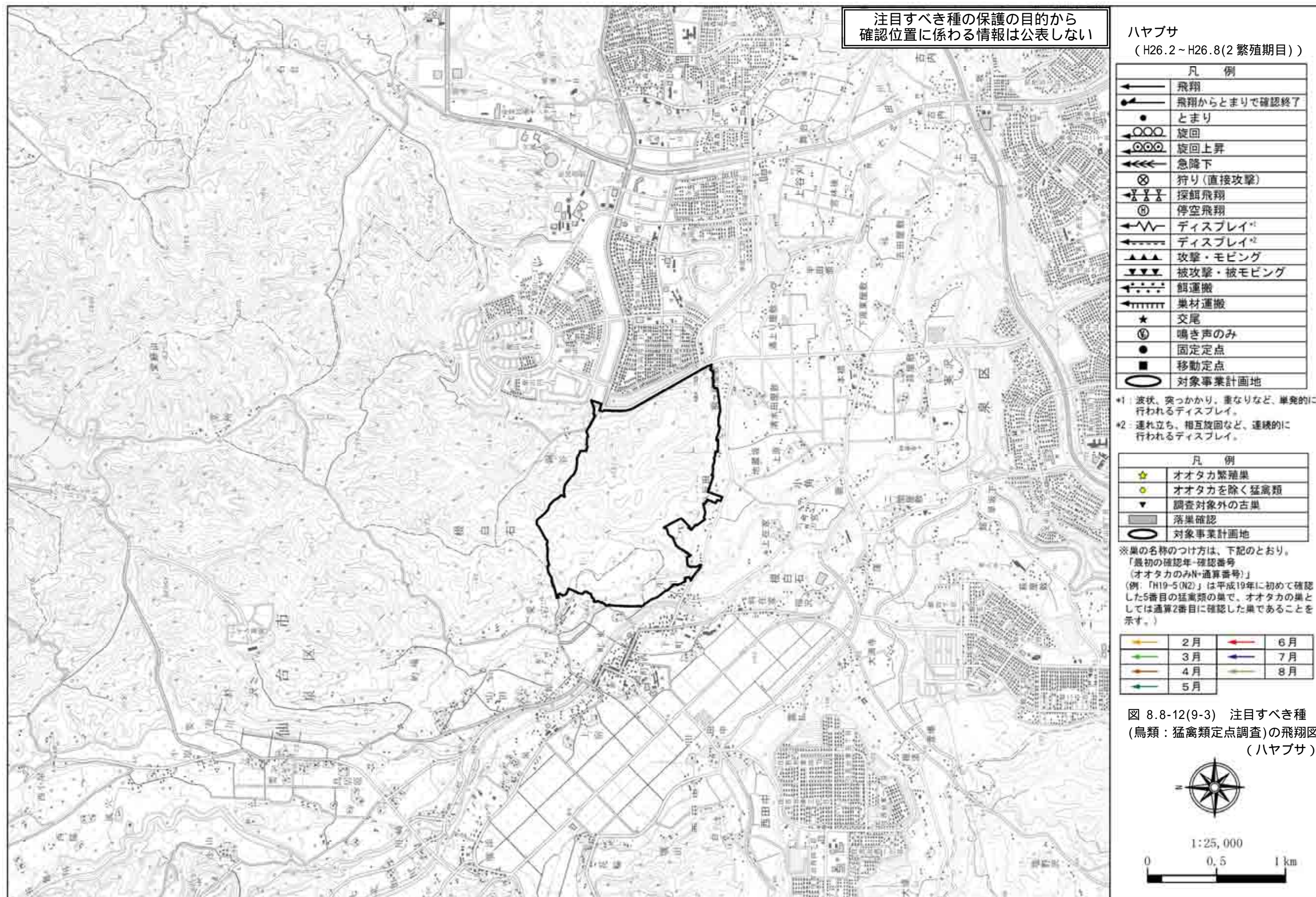


表 8.8-25(1) 予測対象種の特 性 (ミサゴ)

種名		ミサゴ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1, 4				C	C	○	
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL			
	文化財保護法					種の保存法		
種 の 特 性 ()	全国分布		留鳥として全国に分布するが、北日本では冬に少なく、南西諸島では夏に少ない。					
	仙台市内の分布		蒲生、広瀬川、大沼、三共堤、七北田川、名取川など。					
	形態		全長雄 54cm, 雌 64cm。翼が細長く、尾が短い。頭部が白っぽく、過眼線から後ろ襟にかけてと、背、翼上面は黒褐色。下面と下雨覆は白く、胸に褐色の帯があるがほとんど無い個体もあり、この帯は雄が細く、雌が太い傾向がある。幼鳥は上面の各羽に白い羽縁がある。					
	生息場所		海岸や湖沼、大河川などの水辺に生息。					
	繁殖		海岸や山中で繁殖し、大岩の頂や樹冠部に営巣する。巣材には、太い枝や乾燥した海藻、ロープなどの人工物も使う。海上の灯台や高圧線の鉄塔など人工物に営巣する例も知られている。					
	食性		ボラやスズキ、トビウオなどの魚類を食べる。					
現 地 確 認 状 況	1 繁殖期目 (H25 年 2 月 ~ 8 月)		非繁殖期 (H25 年 9 月 ~ H26 年 1 月)			2 繁殖期目 (H26 年 2 月 ~ 8 月)		
	確認回数		確認回数			確認回数		
	16		0			10		
	2 繁殖期の調査を通じて繁殖指標行動は確認されず、対象事業計画地周辺での繁殖の可能性は低いと考えられる。採餌行動が[]で確認されたが、対象事業計画地内での採餌行動は確認されなかった (表 8.8-20(1))。							

※: 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(保育社, 1995 年)

「図鑑 日本 の ワシタカ類」(文一総合出版, 1995 年)

「山溪ハンディ図鑑 7 日本 の 野鳥」(山と溪谷社, 1998 年)

「日本の野鳥 590」(平凡社, 2000 年)

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市, 2011 年)

表 8.8-25(2) 予測対象種の特性及び確認状況（ハチクマ）

種名		ハチクマ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1, 4	C	C					
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL		NT	
文化財保護法						種の保存法		
種 の 特 性 （ ）	全国分布		夏鳥として北海道から九州にかけて渡来する。					
	仙台市内の分布		芳の平, 朴沢, 芋沢など。					
	形態		全長雄 57cm, 雌 61cm。雌雄共に淡色のものから暗色ものまで体色に個体差が大きい, どのタイプでも上面は褐色。他種よりも首が長い体型をしている。雄成鳥は顔が青灰色で, 虹彩は暗色。風切羽先端は黒く, 縞模様は初列風切で 4 本程度, 次列風切で 2 本程度となる。尾羽には太い黒帯が 2 本ある。雌の顔は雄のように全体が青灰色にならずに, 虹彩は黄色。翼と尾羽の縞模様は雄よりも細い。					
	生息場所		低山から山地帯の森林に生息。					
	繁殖		樹上に営巣し, 繁殖は他のタカ科よりも遅い時季に行われる。雛の巣立ちは 8 月下旬。					
	食性		昆虫類, ネズミ類, トカゲ類, カエルなどを捕食するが, ハチの幼虫や蛹を好んで食べ, クロスズメバチなどのジバチ類を特に好む。					
	現 地 確 認 状 況	1 繁殖期目 (H25 年 2 月 ~ 8 月)		非繁殖期 (H25 年 9 月 ~ H26 年 1 月)			2 繁殖期目 (H26 年 2 月 ~ 8 月)	
確認回数		確認回数			確認回数			
33		0			12			
2 繁殖期の調査を通じて, 繁殖指標行動であるディスプレイを確認したが餌運びや交尾等は確認されなかった。営巣地探索においても巣は確認するには至らず, 対象事業計画地周辺での繁殖の可能性は低いと考えられる。採餌行動も [REDACTED] で飛翔採餌を 1 回確認したのみであった (表 8.8-20(1))。								

※：「原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉」（保育社，1995 年）

「図鑑 日本ワシタカ類」（文一総合出版，1995 年）

「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」（山と溪谷社，1998 年）

「日本の野鳥 590」（平凡社，2000 年）

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

表 8.8-25(3) 予測対象種の特性及び確認状況（ハイタカ）

種名		ハイタカ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種	ふれあい 保全種	
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園			海浜
	1, 4	C	C	C	C	C		
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL		NT	
文化財保護法				種の保存法				
種 の 特 性 （ ）	全国分布		本州以北で繁殖する留鳥であるが、少数は冬は暖地に移動する。					
	仙台市内の分布		丸田沢、二口、朴沢、芋沢など。					
	形態		全長雄 30～32cm、雌 37～40cm。雄成鳥はキジバトと同大。頭部からの上面は青灰色で、喉から体下面は白く、橙褐色の細い横斑がある。雌成鳥は頭部からの上面は暗褐色で、喉からの下面は白く、灰褐色の細い横斑がある。眉斑は白で雄より太い。虹彩は黄色であるが、雄はやや橙色みがある個体もいる。					
	生息場所		平地から山地の林で繁殖し、冬は平地や低山地の早し、農耕地、河川などで生息する。					
	繁殖		本州の北部や北海道では平地から山地の原生林やカラマツ林等の森林で繁殖する。					
	食性		小動物や小鳥、昆虫などを空中と地上で捕食する。					
現 地 確 認 状 況	1 繁殖期目（H25 年 2 月～8 月）		非繁殖期 H25 年 9 月～H26 年 1 月）		2 繁殖期目（H26 年 2 月～8 月）			
	確認回数		確認回数		確認回数			
	30		4		32			
	2 繁殖期の調査を通じて、繁殖指標行動は確認されず、対象事業計画地周辺での繁殖の可能性は低いと考えられる。採餌行動は 14 回確認されたが、いずれも ██████████ であった（表 8.8-20(1)）。							

※：「原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉」（保育社、1995 年）

「図鑑 日本のワシタカ類」（文一総合出版、1995 年）

「ワシタカ・ハヤブサ識別図鑑」（平凡社、2012 年）

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、2011 年）

表 8.8-25(4) 予測対象種の特性及び確認状況（オオタカ）

種名		オオタカ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1, 4	C	C	B	B	C	○	○
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL		NT	
文化財保護法					種の保存法		国内	
種 の 特 性 （ ）	全国分布		留鳥として九州以北に分布。南西諸島ではまれな冬鳥。					
	仙台市内の分布		七北田川，蒲生，名取川，広瀬川，南長沼，二口峡，ネッタ峠，定義，サイカチ沼，荒巻，岩切，台原，福岡など。					
	形態		全長雄 50cm，雌 58cm。成鳥雄は上面が暗青灰色で白い眉斑がある。下面は白く，胸や腹に細かい横斑がある。雌は雄とほぼ同色だがより褐色みが強い。若鳥は背面が赤味のある褐色，下面は淡い褐色で黒褐色の縦斑があり，顔は細かい斑が集まった不明瞭な模様をしている。					
	生息場所		平地から山地の林，河川，農耕地，湖沼などに生息。					
	繁殖		アカマツやモミの混じる二次林，アカマツ林，カラマツ林，スギ林などで繁殖。					
	食性		中型からやや大型，特にハト大の鳥類が多いが，ヒヨドリよりも小型の鳥類も食べる。リスやウサギなどの哺乳類などを捕らえることもある。					
現 地 確 認 状 況	1 繁殖期目（H25 年 2 月～8 月）		非繁殖期（H25 年 9 月～H26 年 1 月）			2 繁殖期目（H26 年 2 月～8 月）		
	確認回数		確認回数			確認回数		
	109		8			70		
	1 繁殖期目の調査では ，2 繁殖期目は 。採餌行動は合計 20 回確認された。 で採餌していた（表 8.8-20(2)）。							

※：「原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉」（保育社，1995 年）

「図鑑 日本ワシタカ類」（文一総合出版，1995 年）

「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」（山と溪谷社，1998 年）

「日本の野鳥 590」（平凡社，2000 年）

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

表 8.8-25(5) 予測対象種の特性及び確認状況(サシバ)

種名		サシバ					
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市						
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園		
		C	C	A	C	C	
	環境省 RDB		VU		宮城県 RL		VU
	文化財保護法				種の保存法		
種 の 特 性 ()	全国分布		夏鳥として本州，四国，九州に渡来し，南西諸島では越冬する。				
	仙台市内の分布		二口，朴沢，芋沢など。				
	形態		全長雄 47cm，雌 51cm。頭部を含む上面と胸が茶褐色。腹は白く茶褐色の横斑がある。喉は白く中央に縦線が1本ある。雄の顔は灰色みが強く，眉斑は不明瞭。雌の顔は雄よりも灰色みが少なく，白い眉斑がある個体が多い。胸の茶褐色部は雄よりも白い部分が多く混じる。幼鳥は頭部を含む上面が淡褐色で，胸から腹にかけては白地に褐色の縦斑がある。他の中・小型のタカ科と比較して細く長い翼をしている。「ピクィー」と特徴的な声で鳴く。				
	生息場所		平地から山地の林，水田，草地などに生息。				
	繁殖		枝上に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣をつくる。				
	食性		ヘビやトカゲ，カエルなどの両生類や爬虫類を好んで食べるほか，ネズミ，モグラ，小鳥や，バッタなどの昆虫も食べる。				
	現 地 確 認 状 況	1 繁殖期目(H25 年 2 月～8 月)		非繁殖期(H25 年 9 月～H26 年 1 月)		2 繁殖期目(H26 年 2 月～8 月)	
確認回数		確認回数		確認回数			
97		1		44			
餌運びやディスプレイ飛翔等の繁殖指標行動を確認し，営巣地探索のための踏査を実施したが，巣は確認されなかった。また，営巣地が特定されているオオタカやノスリと比べて繁殖指標行動が少なかったことから，対象事業計画地周辺で繁殖している可能性は低いと考えられる。採餌行動は12回確認されたが，その大部分は[]であり，対象事業計画地は主要な採餌場となっていないと考えられた(表 8.8-20(3))。							

※：「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(保育社，1995年)

「図鑑 日本のワシタカ類」(文一総合出版，1995年)

「山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥」(山と溪谷社，1998年)

「日本の野鳥 590」(平凡社，2000年)

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市，2011年)

表 8.8-25(6) 予測対象種の特性及び確認状況(クマタカ)

種名			クマタカ					
注 目 す べ き 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1, 4	B						○
	環境省 RDB		EN		宮城県 RL		CR+EN	
文化財保護法					種の保存法		国内	
種 の 特 性 ()	全国分布		北海道, 本州, 四国, 九州に分布している。					
	仙台市内の分布		二口峡, 泉ヶ岳など。					
	形態		全長雄 70~74cm, 雌 77cm~83cm。トビより大きく, 雌雄同色。成鳥は額から頭頂, 顔が黒褐色で, 後頭に冠状の羽毛がある。上面は褐色で, 喉から下面はバフ白色。喉の中央に黒褐色の 1 本の線がある。風切には 5~7 本の黒褐色の横帯があり, 尾にも太い横帯が 4~5 本ある。虹彩は橙色。					
	生息場所		低山帯や亜高山帯の針葉樹林, 広葉樹林にすみ, とくに高木の多い原生林を好む。急峻な山腹のある, 深い溪谷でよくみられる。					
	繁殖		巣は斜面に生えるモミ, ツガ, コメツガ, アカマツ, ブナ, まれにスギなどの地上 5~15m, ときに 30m の樹冠部の又状に枝分かれしたところ, 幹の途中の太い枝の分岐点や太い枝先に架けられる。					
	食性		伐採地や谷筋などで中型哺乳類や爬虫類, 両生類, 中型の鳥類などを捕食する。					
現 地 確 認 状 況	1 繁殖期目 (H25 年 2 月 ~ 8 月)		非繁殖期 (H25 年 9 月 ~ H26 年 1 月)			2 繁殖期目 (H26 年 2 月 ~ 8 月)		
	確認回数		確認回数			確認回数		
	2		0			2		
	2 繁殖期の調査を通じて繁殖指標行動が確認されなかったこと, 飛翔確認回数も非常に少ないことから, 対象事業計画地周辺で繁殖している可能性はないと考えられる。また, 採餌行動も確認されなかった (表 8.8-20(4))。							

※: 「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(保育社, 1995 年)

「図鑑 日本ワシタカ類」(文一総合出版, 1995 年)

「ワシタカ・ハヤブサ識別図鑑」(平凡社, 2012 年)

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市, 2011 年)

表 8.8-25(7) 予測対象種の特性及び確認状況（ハヤブサ）

種名		ハヤブサ					
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市						
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園		
	1, 4	C	B	B	B	B	
	環境省 RDB		VU		宮城県 RL		NT
	文化財保護法					種の保存法	
種 の 特 性 （ ）	全国分布		北海道から九州北西部の島嶼に至るまで広く分布し、とくに東北地方と北海道の沿岸部に多い。				
	仙台市内の分布		四郎丸，蒲生，大沼，仙台港，広瀬川，三神峰，荒井，台原，大年寺山，小鶴，南蒲生など。				
	形態		全長雄 38～44cm，雌 46～51cm。ハシボソガラスよりやや小さく，雌雄ほぼ同色。成鳥は頭部から上面，尾羽まで青黒色。眼から頬にはひげ状の黒斑がある。喉から下面は白色で，胸，脇には黒褐色の横斑がある。蠟膜とアイリングは黄色で，虹彩は暗褐色。嘴は黒く，基部は青鉛色。				
	生息場所		広い空間で狩りをするため，海岸や海岸に近い山の断崖や急斜面，広大な水面のある地域や広い草原，原野などを生活域にする。				
	繁殖		海岸の断崖や海岸近くの山中にある岩壁や，近海の小島の断崖の棚または岩穴で繁殖している。				
	食性		河口，河川，湖沼，農耕地などでハト，カモ，小鳥類などを空中で捕獲する。				
現 地 確 認 状 況	1 繁殖期目（H25 年 2 月～8 月）		非繁殖期（H25 年 9 月～H26 年 1 月）		2 繁殖期目（H26 年 2 月～8 月）		
	確認回数		確認回数		確認回数		
	9		3		8		
	2 繁殖期の調査を通じて，繁殖指標行動は確認されず，対象事業計画地周辺での繁殖の可能性はないと考えられる。採餌行動は 3 回確認されたが，いずれも[REDACTED]での確認であった（表 8.8-20(4)）。						

※：「原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉」（保育社，1995 年）

「図鑑 日本ワシタカ類」（文一総合出版，1995 年）

「ワシタカ・ハヤブサ識別図鑑」（平凡社，2012 年）

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

c) 爬虫類

(i) 確認種

調査範囲の丘陵地にはコナラを主体とした落葉広葉樹林やスギ植林に代表される針葉樹林が広がっている。一方、平野部には水田や休耕田、ヤナギ低木林のほか、住宅地が広がっている。また、調査範囲内には七北田川や山田川のような河川の他、ため池が点在するなど水辺環境も複数存在している。このような環境で任意観察調査を実施した。その結果、表 8.8-26に示すとおり 1 目 3 科 7 種（春季調査では 1 目 3 科 6 種、夏季調査では 1 目 2 科 3 種、秋季調査では 1 目 2 科 3 種）の爬虫類が確認された。

ニホンカナヘビ及びシマヘビは比較的多地点で、アオダイショウは 3 地点で確認された。その他のジムグリ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシは各々 1 地点で確認された。

環境別にみると、人為的攪乱の少ない環境を好むといわれるニホンマムシは平野部の耕作地や草地では確認されず、[redacted]で確認された。ニホンカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウは[redacted]で確認されたが、[redacted]で多く確認される傾向があった。ジムグリ、ヒバカリ、ヤマカガシはいずれも[redacted]での確認であった。

季節別にみると、春季及び秋季は比較的多くの地点で爬虫類が確認されたが、夏季は 3 地点と少なかった。夏季と比較して春季と秋季は、耕作地や草地、林道上といった日当たりの良い環境で多くの爬虫類を確認した。これは、体温上昇のための日光浴を行っていた可能性が高い。一方、夏季では樹林内の林床や林道上においても日陰や物陰で確認されることが多く、気温上昇に対する体温調節を行っていたものと考えられる。このように春季や秋季は比較的確認が容易な環境を利用していたことから確認地点数が多くなり、一方、夏季は確認が比較的困難な環境を利用していたことから、確認地点数が少なくなったと考えられる。また、秋季調査では多くの幼体を確認された。秋季は当歳子の活動・分散時期に該当していたため、活動個体数が増加した結果、確認地点数が多くなった可能性も考えられる。

表 8.8-26 確認種（爬虫類：現地調査）

No.	目名	科名	種名	学名	確認時期			確認形態
					春季	夏季	秋季	
1	有鱗	カナヘビ	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	○	○	○	幼体, 成体
2		ナミヘビ	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	○	○	○	幼体, 成体, 死体(幼体), 抜け殻
3			アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>	○	○		成体, 抜け殻
4			ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>			○	成体
5			ヒバカリ	<i>Amphiesma vibakari vibakari</i>	○			死体(幼体)
6			ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus tigrinus</i>	○			成体
7		クサリヘビ	ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>	○			幼体
-	1 目	3 科	7 種	-	6 種	3 種	3 種	-

※：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 26 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015 年)」に準拠した。

(ii) 注目すべき種

現地調査で確認された爬虫類のうち表 8.8-13に示す基準に該当する注目すべき種は、表 8.8-27に示すとおり 1 目 3 科 5 種が確認された。注目すべき種の確認位置及び個体数は図 8.8-13に示すとおりである。

また、注目すべき種のうち予測対象種※の特性及び確認状況は表 8.8-28に示すとおりである。

※：表 8.8-13の注目すべき種の選定基準のうち、仙台市における保全上重要な種の区分は「学術上重要種」、「減少種」、「環境指標種」、「ふれあい保全種」に区分されているが、「学術上重要種」と「減少種」の中でも以前に比べて減少傾向にあり現在ほとんど見ることが出来ず特に稀といわれている A ランクの種を予測対象種とした。B・C ランクの「減少種」及び「環境指標種・ふれあい保全種」には、調査範囲を含む仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、予測対象種からは除外した。

表 8.8-27 注目すべき種（爬虫類：現地調査）

No.	目名	科名	種名	確認時期						注目すべき種選定基準													
										I								II	III	IV	V		
				春季		夏季		秋季		①	②					③	④						
				内	外	内	外	内	外		1	2	3	4	5								
1	有鱗	カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○		○	○	○		*	*	C	C	C	○	○						
2		ナミヘビ	アオダマシヨウ	○	○		○				*	*	C	C	C	○	○						
3			ジムクアリ					○			*	*	C	C	C	○							
4			ヒバカリ	○							C	C	C	C	B	○	○						
5			クサリヘビ	ニホンマムシ	○						4	C	C										
-	1 目	3 科	5 種	4 種	2 種	0 種	2 種	2 種	1 種	1 種	5 種	5 種	4 種	4 種	4 種	4 種	3 種	0 種	0 種	0 種	0 種		
				4 種			2 種		2 種														

※1：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 26 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015 年)」に準拠した。

※2：注目すべき種の選定基準の区分は、表 8.8-13を参照

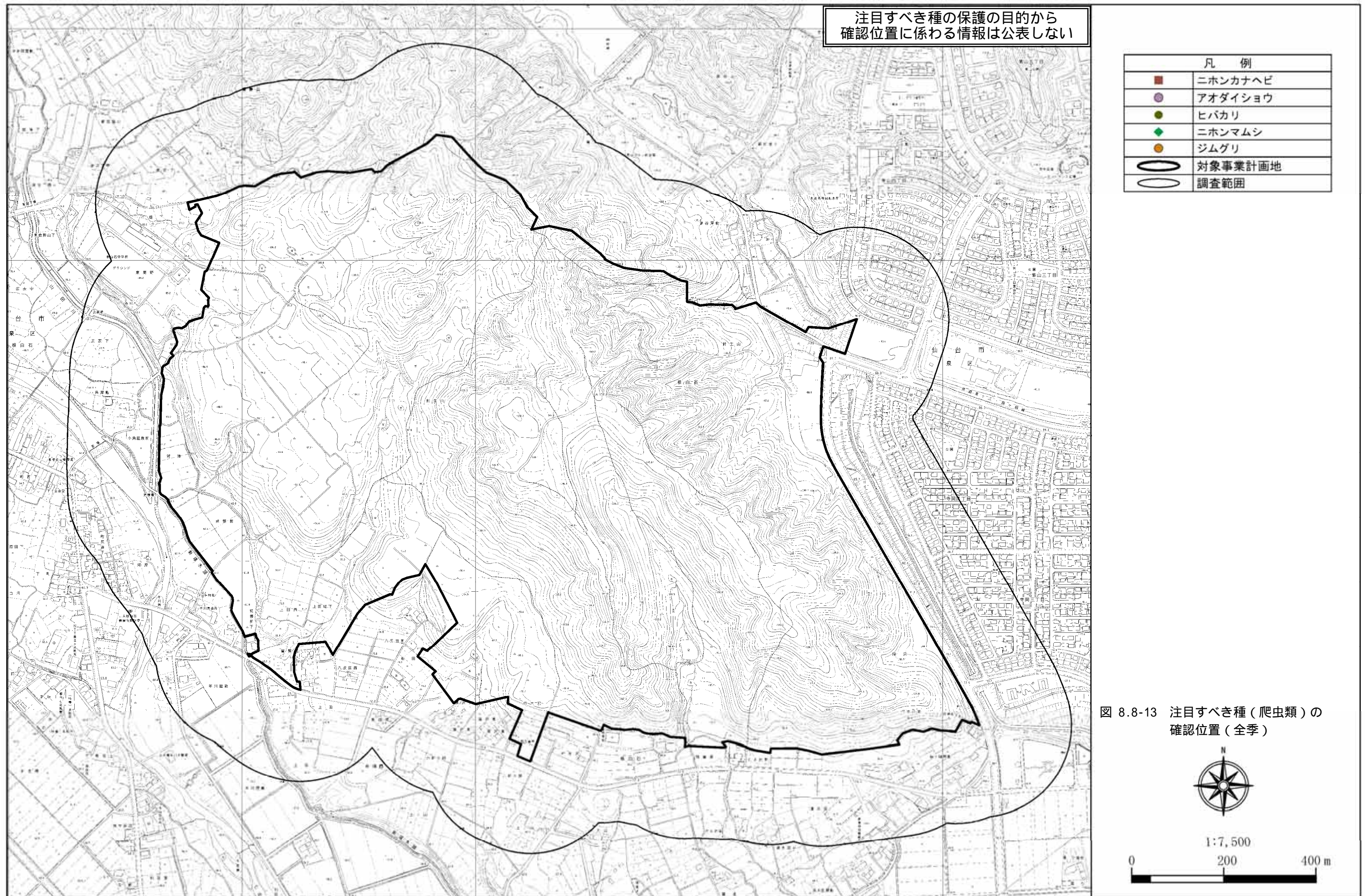


表 8.8-28 予測対象種の特性及び確認状況（ニホンマムシ）

種名		ニホンマムシ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	4	C	C					
	環境省 RDB					宮城県 RL		
	文化財保護法					種の保存法		
種 の 特 性 （ ）	全国分布		北海道，本州，四国，九州，さらに焼尻島，天売島，佐渡島，隠岐島，壱岐島，五島列島，屋久島，種子島，伊豆大島，八丈島など。					
	仙台市内の分布		秋保，太白山，三方倉山，奥新川，畑前，大蔵，下愛子，芳の平など。					
	形態		全長 40～65cm で背面は褐色または赤褐色の地に，真ん中に暗色の斑のある楕円形の斑紋が並ぶ。頭はやや長い三角形で頸部はくびれる。					
	生息場所		森林から平野の田畑まで広く生息する。					
	繁殖		胎生であるため，8～9 月に交尾し，翌年 8～10 月に 5～6 匹を出産する。					
	食性		カエルやネズミを始め，他のヘビ類やトカゲなど様々な小型脊椎動物を食べる。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	1		1		0		0	
	[redacted]で幼体を確認した。							

※：「日本動物大百科 第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類」（平凡社，1996 年）

「決定版 日本の両生爬虫類」（平凡社，2002 年）

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

d) 両生類

(i) 確認種

調査範囲の丘陵地にはコナラを主体とした落葉広葉樹林やスギ植林に代表される針葉樹林が広がっている。一方、平野部には水田や休耕田、ヤナギ低木林のほか、住宅地が広がっている。また、調査範囲内には七北田川や山田川のような河川の他、ため池が点在するなど水辺環境も複数存在している。このような環境で任意観察調査を実施した。その結果、表 8.8-29に示すとおり 2 目 6 科 11 種（初春季調査では 2 目 6 科 11 種、春季調査では 2 目 5 科 9 種、夏季調査では 2 目 5 科 9 種、秋季調査では 2 目 5 科 9 種）の両生類が確認された。

ではトウホクサンショウウオ、クロサンショウウオ、タゴガエルが確認された。トウホクサンショウウオ及びタゴガエルは、における確認が多かった。これは、いずれも樹林内の沢部を繁殖場として利用する種であることに起因している。クロサンショウウオは、で確認された。トウホクサンショウウオやタゴガエルは樹林内の流水部もしくは緩流部で繁殖するのに対し、クロサンショウウオは止水域で繁殖する。そのため、で確認されたと考えられる。これら 3 種の生息には、繁殖後に繁殖地周辺の樹林に上陸して生活することから、成体の生活場である樹林と繁殖及び幼生の生活場である水域が連続して広がっている環境が必要となる。このような種を本調査で多数確認したことは、調査範囲及びその周辺は樹林と水域が連続した環境が維持されているものと考えられる。

ではアカハライモリ、トウキョウダルマガエルが確認された。アカハライモリは一部、でも確認されたが、確認地点はに偏っていた。アカハライモリ及びトウキョウダルマガエルのいずれも、主に平野部の水田周辺で繁殖する種であるため樹林での確認は少なく、で主に確認されたものと考えられる。

ツチガエル及びウシガエルはで確認された。サンショウウオ類やタゴガエル等はで確認されたのに対し、ツチガエル及びウシガエルは確認されている。これらのことから、ツチガエルやウシガエルはという限定的な環境要素に依存して生息している種であると考えられる。

その他、でニホンアマガエル、ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエルを確認した。ニホンアマガエルは海岸付近の低地から高山帯まで幅広く生息することが出来、もともと生態的可塑性が高いため、多様な環境で確認されたものと考えられる。ニホンアカガエル及びシュレーゲルアオガエルは、平野部の水田や湿性草地などを産卵・幼生の生活場として、変態後の成体の生活場として繁殖地周辺の樹林を利用する。このように平野部の水田と周辺の樹林といった 2 つの異なる環境を利用する種であるため、で確認されたものと考えられる。

表 8.8-29 確認種（両生類：現地調査）

No. ・	目名	科名	種名	学名	確認時期				確認形態
					早春季	春季	夏季	秋季	
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	<i>Hynobius lichenatus</i>	○				卵のう
2			クロサンショウウオ	<i>Hynobius nigrescens</i>	○				卵のう
－			サンショウウオ属 ^{*1}	<i>Hynobius</i> sp.	○	○	○	○	幼生, 幼体
3		イモリ	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	○	○	○	○	幼生, 成体, 死体(幼体)
4	無尾	ヒキカ [°] エル	アス [°] マヒキカ [°] エル	<i>Bufo japonicus formosus</i>	○				幼生
5		アマカ [°] エル	ニホンアマカ [°] エル	<i>Hyla japonica</i>	○	○	○	○	幼体, 成体, 鳴き声
6		アカカ [°] エル	タコ [°] カ [°] エル	<i>Rana tagoi tagoi</i>	○	○	○	○	幼体, 成体, 鳴き声
7			ニホンアカカ [°] エル	<i>Rana japonica</i>	○	○	○	○	卵塊, 幼体, 成体
8			トウキョウダルマカ [°] エル	<i>Rana porosa porosa</i>	○	○	○	○	幼体, 成体
9			ウシカ [°] エル	<i>Rana catesbeiana</i>	○	○	○	○	幼生, 幼体, 成体, 鳴き声
10			ツチカ [°] エル	<i>Rana rugosa</i>	○	○	○	○	幼体, 成体
11		アオカ [°] エル	シュレーケ [°] ルアオカ [°] エル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>	○	○	○	○	幼体, 成体, 鳴き声
－	2 目	6 科	11 種	－	11 種	9 種	9 種	9 種	－

※：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 26 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015 年)」に準拠した。

*1:サンショウウオ属は、トウホクサンショウウオもしくはクロサンショウウオのいずれかであるが、幼生のみの確認であり、種を特定するには至らなかった。同属の種が確認されている場合は、種数合計に計上しない。

(ii) 注目すべき種

現地調査で確認された両生類のうち表 8.8-13に示す基準に該当する注目すべき種は、表 8.8-30に示すとおり 2 目 4 科 8 種が確認された。注目すべき種の確認位置及び個体数は図 8.8-14に示すとおりである。

また、注目すべき種のうち予測対象種*の特性及び確認状況は表 8.8-31(1)～(6)に示すとおりである。

※：表 8.8-13の注目すべき種の選定基準のうち、仙台市における保全上重要な種の区分は「学術上重要種」、「減少種」、「環境指標種」、「ふれあい保全種」に区分されているが、「学術上重要種」と「減少種」の中でも以前に比べて減少傾向にあり現在ほとんど見ることが出来ず特に稀といわれている A ランクの種を予測対象種とした。B・C ランクの「減少種」及び「環境指標種・ふれあい保全種」には、調査範囲を含む仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、予測対象種からは除外した。

表 8.8-30 注目すべき種（両生類：現地調査）

No.	目名	科名	種名	確認時期								注目すべき種選定基準											
												Ⅰ								Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
				早春季		春季		夏季		秋季		①	②					③	④				
				内	外	内	外	内	外	内	外		1	2	3	4	5						
1	有尾	サンショウウオ	トリホクサンショウウオ	○								1, 4	*	C	B			○		NT	NT		
2			クロサンショウウオ	○	○							4	*	C	A			○	○	NT	LP		
－			サンショウウオ属*1	○		○	○	○		○		1, 4*2	*3	C*4	B/A*5			○*6	○*7	NT*8	NT/LP*9		
3		イモリ	アカハライモリ	○	○		○	○	○		○		*	C	A			○	○	NT	LP		
4	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	○									*	C	C	C	C		○				
5		アカガエル	タゴガエル	○	○	○	○	○	○	○	○		*	C	B			○					
6			ニホンアカガエル	○	○	○	○	○	○	○	○		*	*	B	*	C						
7			トリキョウタールマガエル		○	○	○		○	○	○		C	C	B	C		○	○	NT	NT		
8			ツチガエル	○	○	○	○	○		○	○		*	C	B			○			NT		
－	2 目	4 科	8 種	7 種	6 種	5 種	6 種	5 種	4 種	5 種	5 種	2 種	8 種	8 種	8 種	3 種	2 種	6 種	4 種	4 種	5 種	0 種	0 種
				8 種	6 種	6 種	6 種																

※1：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 26 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015 年)」に準拠した。

※2：注目すべき種の選定基準の区分は、表 8.8-13を参照

*1：サンショウウオ属は、トウホクサンショウウオもしくはクロサンショウウオのいずれかであるが、幼生及び幼体のみの確認であり、種を特定するには至らなかった。同属の種が確認されている場合は、種数合計に計上しない。

*2：トウホクサンショウウオは「1」及び「4」に、クロサンショウウオは「4」に該当する。

3：トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオのいずれも「」に該当する。

*4：トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオのいずれも「C」に該当する。

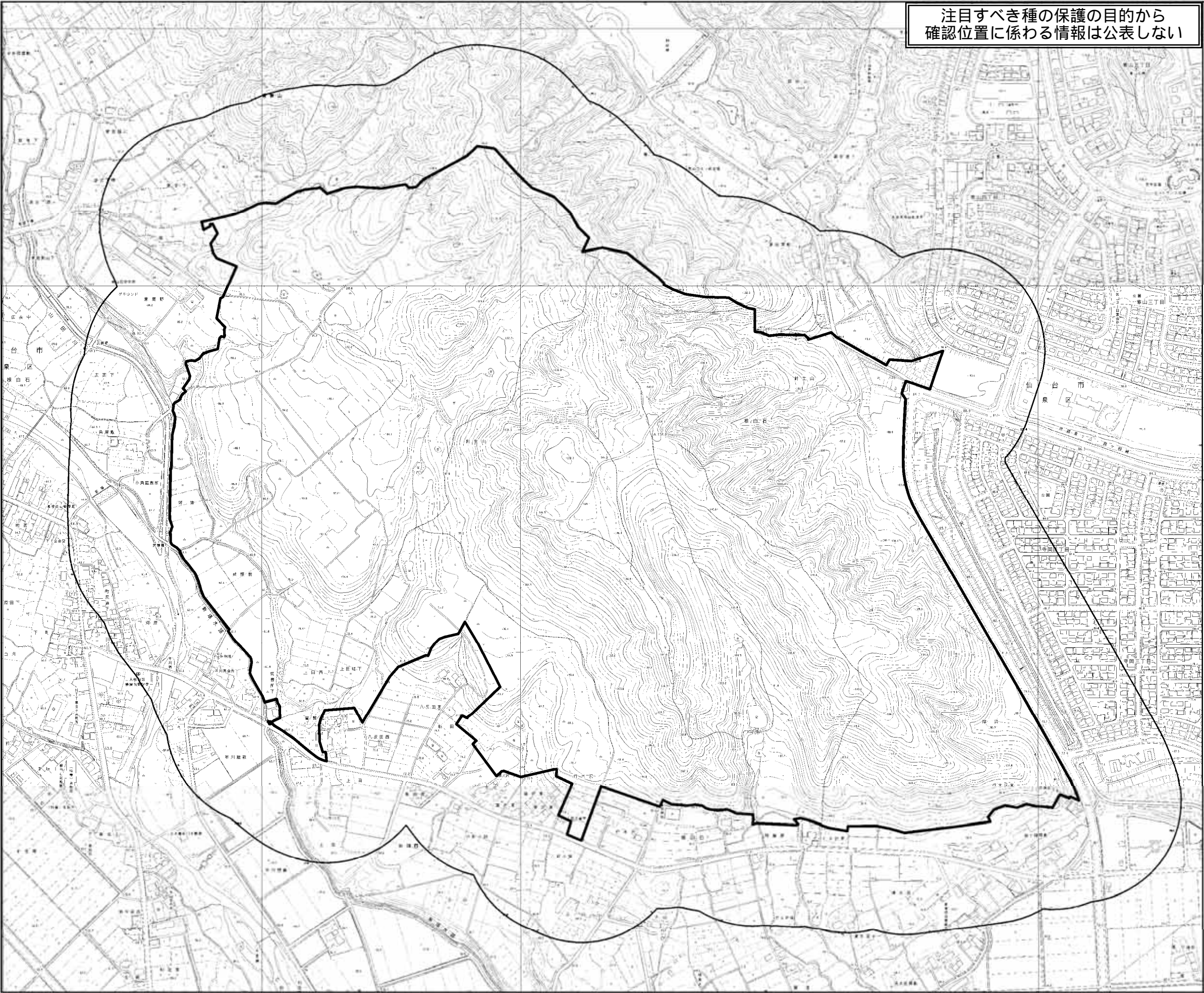
*5：トウホクサンショウウオは、「B」に、クロサンショウウオは「A」に該当する。

*6：トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオのいずれも「○」に該当する。

*7：トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオのいずれも「○」に該当する。

*8：トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオのいずれも「NT」に該当する。

*9：トウホクサンショウウオは「NT」に、クロサンショウウオは「LP」に該当する。



注目すべき種の保護の目的から
確認位置に係わる情報は公表しない

凡 例	
	トウホクサンショウウオ
	クロサンショウウオ
	サンショウウオ属
	アカハライモリ
	アズマヒキガエル
	タゴガエル
	ニホンアカガエル
	トウキョウダルマガエル
	ツチガエル
	対象事業計画地
	調査範囲

図 8.8-14 注目すべき種（両生類）の
確認位置（全季）

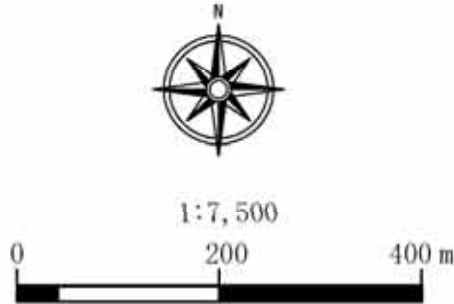


表 8.8-31(1) 予測対象種の特性及び確認状況(トウホクサンショウウオ)

種名		トウホクサンショウウオ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1, 4	*	C	B			○	
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL		NT	
文化財保護法					種の保存法			
種 の 特 性 ()	全国分布		東北地方と新潟県, 群馬県, 栃木県, 茨城県。					
	仙台市内の分布		舟形山, 大倉ダム, 泉ヶ岳芳の平, 奥新川, 名取川上流部の支流, サイカチ沼, 丸田沢ため池, 旗立, 太白山付近など。					
	形態		全長 90～140mm, 頭胴長 50～70mm, 体重 4～10g。体色はふつう暗褐色または黒褐色で, 体側や腹に青白色の小点が密に分布する個体が多い。					
	生息場所		海岸近くから標高 1500m 近くの高所まで幅広く生息。成体は産卵場付近の朽ち木, 岩石や落ち葉の下など湿った場所に生息する。					
	繁殖		3～6 月頃に山間の細流の水のよどんだ場所などの止水に集まり, 20～100 個の卵を産む。					
	食性		幼生は動物プランクトン, ヨコエビ類, 水生昆虫, 成体はミミズ・昆虫などの土壌動物を食べる。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	13		37 対		0		0	
	[redacted]において卵のうを確認した。また, [redacted]においても卵のうが確認された。							

※:「日本動物大百科 第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類」(平凡社, 1996 年)
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市, 2011 年)

表 8.8-31(2) 予測対象種の特性及び確認状況(クロサンショウウオ)

種名		クロサンショウウオ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	4	*	C	A			○	○
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL		LP	
文化財保護法						種の保存法		
種 の 特 性 ()	全国分布		東北，北関東，北陸，佐渡。					
	仙台市内の分布		舟形山，国見，千代田町付近など。					
	形態		全長 120～190mm，頭胴長 60～80mm，体重 11～25g。尾は長く全長の半分を占め，先端は扁平。背面は暗褐色または暗緑褐色で，黄褐色から褐色の斑点をもつ個体もいる。					
	生息場所		海岸近くの平地から標高 2500m を超える高山帯まで生息し，産卵期は森林や湿原が隣接した池や沼，水田，非繁殖期は落ち葉や倒木，岩の下，腐植土中に生息する。					
	繁殖		産卵期は 2～7 月で，水没した木の枝にぶらさげるように産卵。一腹卵数は 40～140 で高地ほど少ない。					
	食性		幼生は水生昆虫を捕食するが，共食いが激しい。成体はミミズや小昆虫を捕食する。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	9		80 対		2		38 対	
	[] で卵のうを確認した。また， [] においても卵のうが確認された。							

※:「日本動物大百科 第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類」(平凡社, 1996 年)
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市, 2011 年)

表 8.8-31(3) 予測対象種の特性及び確認状況(サンショウウオ属^{*1})

種名		サンショウウオ属*1						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種	ふれあい 保全種	
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園			海浜
	1, 4*2	*3	C*4	B/A*5			○*6	○*7
	環境省 RDB		NT*8		宮城県 RL		NT/LP*9	
文化財保護法					種の保存法			
種 の 特 性 ()	全国分布		【トウホクサンショウウオ】東北地方と新潟県, 群馬県, 栃木県。 【クロサンショウウオ】東北, 北関東, 北陸, 佐渡。					
	仙台市内の分布		【トウホクサンショウウオ】舟形山, 大倉ダム, 泉ヶ岳芳の平, 奥新川, 名取川上流部の支流, サイカチ沼, 丸田沢ため池, 旗立, 太白山付近など。 【クロサンショウウオ】舟形山, 国見, 千代田町付近など。					
	形態		【トウホクサンショウウオ】全長 90~140mm, 頭胴長 50~70mm, 体重 4~ 10g。体色はふつう暗褐色または黒褐色で, 体側や腹に青白色の小点が密 に分布する個体が多い。 【クロサンショウウオ】全長 120~190mm, 頭胴長 60~80mm, 体重 11~25g。 尾は長く全長の半分を占め, 先端は扁平。背面は暗褐色または暗緑褐色で, 黄褐色から褐色の斑点をもつ個体もいる。					
	生息場所		【トウホクサンショウウオ】海岸近くから標高 1,500m 近くの高所まで幅 広く生息。成体は産卵場付近の朽ち木, 岩石や落ち葉の下など湿った場所 に生息する。 【クロサンショウウオ】海岸近くの平地から標高 2500m を超える高山帯ま で生息し, 産卵期は森林や湿原が隣接した池や沼, 水田, 非繁殖期は落ち 葉や倒木, 岩の下, 腐植土中に生息する。					
	繁殖		【トウホクサンショウウオ】33~6 月頃に山間の細流の水のよどんだ場所 などの止水に集まり, 20~100 個の卵を産む。 【クロサンショウウオ】産卵期は 2~7 月で, 水没した木の枝にぶらさげ るように産卵。一腹卵数は 40~140 で高地ほど少ない。					
	食性		【トウホクサンショウウオ】 幼生は動物プランクトン, ヨコエビ類, 水 生昆虫, 成体はミミズ・昆虫などの土壌動物を食べる。 【クロサンショウウオ】 幼生は水生昆虫を捕食するが, 共食いが激しい。 成体はミミズや小昆虫を捕食する。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	10		65		1		1	
	において, 幼生や幼体を							
	確認した。							

※:「日本動物大百科 第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類」(平凡社, 1996年)

「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市, 2011年)

*1:サンショウウオ属は, トウホクサンショウウオもしくはクロサンショウウオのいずれかであるが, 幼生や幼体のみの確認であり, 種を特定するには至らなかった。

*2:トウホクサンショウウオは「1」及び「4」に, クロサンショウウオは「4」に該当する。

3:トウホクサンショウウオ, クロサンショウウオのいずれも「」に該当する。

*4:トウホクサンショウウオ, クロサンショウウオのいずれも「C」に該当する。

*5:トウホクサンショウウオは「B」に, クロサンショウウオは「A」に該当する。

*6:トウホクサンショウウオ, クロサンショウウオのいずれも「○」に該当する。

*7:トウホクサンショウウオ, クロサンショウウオのいずれも「○」に該当する。

*8:トウホクサンショウウオ, クロサンショウウオのいずれも「NT」に該当する。

*9:トウホクサンショウウオは「NT」に, クロサンショウウオは「LP」に該当する。

表 8.8-31(4) 予測対象種の特性及び確認状況（アカハライモリ）

種名		アカハライモリ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
		*	C	A			○	○
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL		LP	
	文化財保護法				種の保存法			
種 の 特 性 （ ）	全国分布		本州，四国，九州，佐渡島，淡路島等の島々。					
	仙台市内の分布		川内など。					
	形態		全長 70～140mm，頭胴長 40～75mm，体重 3～12g。背が黒く，腹が赤い。					
	生息場所		水田や池，小川等に生息する。					
	繁殖		4 月から 7 月上旬にかけて，池やゆるやかな流れのある小川で産卵する。					
	食性		主にミミズ，昆虫，カエルの幼生などの小動物を食べる。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	4		11		7		14	
	[redacted]で成体を確認した。その他，道路上で幼体の死体を，[redacted] [redacted]で幼生を確認した。							

※：「日本動物大百科 第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類」（平凡社，1996 年）
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

表 8.8-31(5) 予測対象種の特性及び確認状況（トウキョウダルマガエル）

種名		トウキョウダルマガエル						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
		C	C	B	C		○	○
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL		NT	
	文化財保護法					種の保存法		
種 の 特 性 （ ）	全国分布		関東地方，仙台平野，信濃川流域。					
	仙台市内の分布		荒井，松陵，四郎丸，大倉，井土など。					
	形態		全長 35～85mm，体重 5～35g。体色は金色ないし緑色で明色の背中線をもつ。					
	生息場所		平地や盆地の水田や池などに生息する。					
	繁殖		4～7 月に水田や湿地などで産卵する。1 回の産卵数は 800～2200。					
	食性		双翅類，鞘翅類，鱗翅類幼虫など，ほとんどのあらゆる昆虫，クモ，陸貝をはじめカエルや小さいヘビも食べる。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	2		10		23		177	
	[redacted]で幼体及び成体を確認した。その確認は，[redacted]							
	[redacted]に偏っていた。							

※：「日本動物大百科 第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類」（平凡社，1996 年）
「改訂版 日本カエル図鑑」（文一総合出版，1999 年）
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

表 8.8-31(6) 予測対象種の特性及び確認状況（ツチガエル）

種名		ツチガエル						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種	ふれあい 保全種	
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園			海浜
		*	C	B			○	
	環境省 RDB					宮城県 RL		NT
	文化財保護法					種の保存法		
種 の 特 性 （ ）	全国分布		本州， 四国， 九州， 佐渡島， 隠岐など					
	仙台市内の分布		大倉， 新川， 芋沢， 上愛子， 坪沼， 白坂など					
	形態		体長 30～60mm， 体重 2～24g。背面は灰褐色で， いぼがたくさんあり， 悪臭のする粘液を分泌する。					
	生息場所		都市部の人工地から水田， 河川， 山間の溪流， 湿原までの水辺近くに生息。					
	繁殖		5 月末～8 月末に池， 水田， 溝， 沼などの水たまりの水草などに約 1000 個の卵を産む。					
	食性		アリ， バッタなどの昆虫， クモなどを食べる。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内			対象事業計画地外				
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	9		16		9		14	
	[redacted]							で幼体及び成体を確認した。

※：「日本動物大百科 第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類」（平凡社，1996 年）

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

e) 昆虫類

(i) 確認種

調査範囲の丘陵地にはコナラを主体とした落葉広葉樹林やスギ植林に代表される針葉樹林が広がっている。一方、平野部には水田や休耕田、ヤナギ低木林のほか、住宅地が広がっている。また、調査範囲内には七北田川や山田川のような河川の他、ため池が点在するなど水辺環境も複数存在している。このような環境で任意観察採取調査、ライトトラップ及びベイトトラップ調査を実施した。その結果、表 8.8-32及び表 8.8-33(1)～(17)に示すとおり 17 目 209 科 1018 種（春季調査では 14 目 131 科 487 種、初夏調査では 1 目 1 科 3 種、夏季調査では 14 目 154 科 529 種、秋季調査では 11 目 111 科 351 種）の昆虫類が確認された。

チョウ類やトンボ類のような大型種を中心に様々な種が確認された。[]ではコガムシやコオイムシ、アメンボ等の水生昆虫類やアキアカネ、ノシメトンボ等のトンボ類が確認された。[]ではジャノメチョウやベニシジミ等の明るく乾いた環境を好むチョウ類が飛翔しており、コバネイナゴやウスイロササキリ等のバッタ類も確認された。湿地に形成されたヤナギ低木林ではコクワガタ、カナブン等のコウチュウ類やオオヒカゲ、サトキマダラヒカゲ等のチョウ類が樹液に集まっていた。

丘陵地の樹林環境ではゴマフカミキリ、ドウガネツヤハムシ等の薄暗い環境を好む種が採集されており、セミ類の鳴き声も確認された。また、樹林内を流れる沢周辺ではミルンヤンマやニホンカワトンボ等の流水を生息域とするトンボ類が飛翔していた。その他、丘陵地に点在するため池ではオオコオイムシ、マツモムシ、クロスジギンヤンマ、オオルリボシヤンマ等の止水域を好む種が確認されており、[]ではハグロトンボやゲンジボタルのような開けた流水を生息環境としている種が確認された。

【ライトトラップ調査】(L1～L6 は表 8.8-7に示すライトトラップ調査地点を示す)

L1 では春季から秋季にかけて 115 種の昆虫類が確認された。[]L1 では、アシベニカギバ、ナミガタエダシヤク等の様々な広葉樹を餌とする種の他、シロオビマルバナミシヤク、ハンノトビスジエダシヤク等のハンノキを食樹とする種も確認された。

L2 では春季から秋季にかけて 166 種の昆虫類が確認された。[]L2 では、主にナシイラガ、マエキトビエダシヤクといった広葉樹を餌とする種が確認された。

L3 では春季から秋季にかけて 49 種の昆虫類が確認された。[]L3 では、ヨモギネムシガ、フタオビコヤガのような草本を餌とする種等が確認されているが、樹木を餌とする種が少なかったこともあり確認種数は少なかったと考えられる。

L4 では春季から秋季にかけて 125 種の昆虫類が確認された。[]L4 では、フタヤマエダシヤクのようなアカマツを摂食する種も確認されたが、周辺に広葉樹が分布していたため確認種の多くは広葉樹を餌とする種であった。

L5 では春季から秋季にかけて 112 種の昆虫類が確認された。[]L5 では、ツマオビアツバのような針葉樹を餌とする種が若干みられたものの、L4 と同様、周辺に広葉樹が分布していたため確認種の多くは広葉樹を餌とする種であった。

L6 では春季から秋季にかけて 164 種の昆虫類が確認された。[]L6 では、主にマエキカギバ、クチバスズメのような広葉樹を餌とする種が確認された。同様な環境で実施したため、L2 と確認種数及び確認種構成が類似していた。

【ベイトトラップ調査】(B1～B6 は表 8.8-7に示すベイトトラップ調査地点を示す)

B1 では春季から秋季にかけて 29 種の昆虫類が確認された。[]B1 では、コガシラアオゴミムシのような湿地性の種やオオコオイムシ、モンキマメゲンゴロウのような水生昆虫類が確認されたのが特徴的であった。

B2 では春季から秋季にかけて 23 種の昆虫類が確認された。[]B2 では、主にアトボシアオゴミムシ、クロオサムシ東北地方東部亜種、センチコガネ、アメイロアリ、アズマオオズアリといった平野部から丘陵地にかけてみられる種の確認数が多かった。

B3 では春季から秋季にかけて 21 種の昆虫類が確認された。[]B3 では、他の

樹林環境に設定した地点と確認種の構成は異なり、ハラオカメコオロギ、シバズなど草地を生息環境としている種が確認された。

B4 では春季から秋季にかけて 25 種の昆虫類が確認された。B4 では、B2 や B5、B6 などのと確認種数や種構成は類似しており、アトボシアオゴミムシ、クロオサムシ東北地方東部亜種、オオクロツヤヒラタゴミムシ、ムネアカオオアリ、トビイロケアリの確認数が多かった。

B5 では春季から秋季にかけて 27 種の昆虫類が確認された。B5 では、B2 や B4、B6 などのと確認種数や種構成は類似しており、コクロナガオサムシ東北地方南部亜種、クロオサムシ東北地方東部亜種、ヨリトモナガゴミムシ、クロツヤヒラタゴミムシ、ヤマトアシナガアリ、ムネアカオオアリ、アズマオオズアリの確認数が多かった。

B6 では春季から秋季にかけて 22 種の昆虫類が確認された。B6 では、B2 や B4、B5 などのと確認種数や種構成は類似しており、アトボシアオゴミムシ、クロオサムシ東北地方東部亜種、マルガタツヤヒラタゴミムシ、クロツヤヒラタゴミムシ、オオクロツヤヒラタゴミムシ、ムネアカオオアリ、クロヤマアリ、アズマオオズアリといった平野部から丘陵地にかけてみられる種の確認数が多かった。

以上のように調査範囲内には樹林、草地、湿地、河川、池沼など様々な環境が存在しており、それぞれの環境に適した昆虫類が確認された。

表 8.8-32 生息状況（昆虫類：現地調査）

目名	春季		初夏季		夏季		秋季		合計	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
イシノミ	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1
カゲロウ	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1
トンボ	7	14	0	0	9	28	2	8	9	34
カマキリ	0	0	0	0	1	1	1	1	1	2
ハサミムシ	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
カワゲラ	2	2	0	0	0	0	1	1	2	2
バッタ	2	4	0	0	9	20	10	31	10	41
チャタテムシ	0	0	0	0	0	0	3	4	3	4
カメムシ	14	29	0	0	26	60	16	47	29	97
ヘビトンボ	1	1	0	0	1	1	0	0	1	2
アミメカゲロウ	2	2	0	0	3	4	0	0	4	5
シリアゲムシ	2	3	0	0	1	1	0	0	2	3
トビケラ	5	6	0	0	0	0	4	5	6	8
チョウ	23	190	0	0	29	176	16	98	30	362
ハエ	26	52	0	0	26	68	26	61	40	115
コウチュウ	34	151	1	3	31	128	21	61	47	266
ハチ	11	31	0	0	15	39	11	34	22	74
17 目	131 科	487 種	1 科	3 種	154 科	529 種	111 科	351 種	209 科	1018 種

表 8.8-33(1) 確認種（昆虫類：現地調査）(1/17)

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				調査方法																		
					春季	初夏季 ^{※1}	夏季	秋季	任意	ペイトトランプ								ライトトランプ									
										B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	L 6						
1	イ/ミ	イ/ミ	Pedetontus 属	Pedetontus sp.	○			○																			
2	カ/ワ ^ワ	モカガ ^ワ	モカガ ^ワ	Ephemera strigata	○			○																			
3	トホ [※]	アイトトホ [※]	ホミオツネントホ [※]	Indolestes peregrinus				○																			
4			オアイトトホ [※]	Lestes temporalis				○	○	○																	
5			オツネントホ [※]	Sympetma paedisca	○			○	○	○																	
6	イトトホ [※]		キイトトホ [※]	Ceriatrigon melanurum				○																			
7			オイトイトトホ [※]	Coenagrion terue	○					○																	
8			アツアイトトホ [※]	Ischnura asiatica	○			○		○																	
9	モ/オシトホ [※]		オイトイトトホ [※]	Paracercion sieboldii	○			○																			
10			モ/オシトホ [※]	Copera annulata				○	○	○																	
11			カイトトホ [※]	Atrocalopteryx atrata					○	○																	
12	ヤンマ		ミヤマカイトトホ [※]	Calopteryx cornelia	○			○																			
13			ゴホカイトトホ [※]	Mnais costalis	○					○																	
14			オオヤンマ	Aeshna crenata						○																	
15	トホ [※]		カスジキ ^ン ヤンマ	Anax nigrofasciatus nigrofasciatus	○					○																	
16			ギ ^ン ヤンマ	Anax parthenope julius					○																		
17			ミシノヤンマ	Planaeschna milnei						○																	
18	オオイトトホ [※]		ダ ^ビ ト ^ト オ ^オ ヤンマ	Davidius nanus	○					○																	
19			ヒメカイトトホ [※]	Lanthus fujiacus	○					○																	
20			コオニヤンマ	Sieboldius albardae						○																	
21	オニヤンマ		コサエ	Trigonophus melampus	○			○		○																	
22			オニヤンマ	Anotogaster sieboldii	○			○	○	○																	
23			エゾイトトホ [※]	Epophthalmia elegans					○																		
24	トホ [※]		オツネントホ [※]	Somatochlora uchidai						○																	
25			バ ^レ ト ^ト ホ [※]	Lyriothemis pachygastra	○				○																		
26			シカイトトホ [※]	Orthetrum albistylum speciosum	○					○																	
27	イトトホ [※]		シオイトトホ [※]	Orthetrum japonicum	○			○		○																	
28			オシカイトトホ [※]	Orthetrum melania					○																		
29			ウハ ^ハ キ ^ン トホ [※]	Pantala flavescens						○		○															
30	マコトヤンマ		コゾアキントホ [※]	Pseudothemis zonata						○																	
31			マコトヤンマ	Sympetrum eroticum eroticum					○		○																
32			アキア ^キ カネ	Sympetrum frequens						○		○															
33	マコトヤンマ		ノメイトトホ [※]	Sympetrum infuscatum						○																	
34			マコトヤンマ	Sympetrum kunkeli					○		○																
35			ミヤマア ^キ カネ	Sympetrum pedemontanum elatum						○		○															
36	カマキリ		リノア ^キ カネ	Sympetrum risi risi						○																	
37			コカマキリ	Statilia maculata						○																	
38			オカマキリ	Tenodera aridifolia						○																	
39	ハサミシ	クキ ^キ オハサミシ	クキ ^キ オハサミシ	Forficula tomis scudderi						○																	
40	カワガ ^ワ	オナカワガ ^ワ	オナカワガ ^ワ 下科	Nemouridae sp.	○					○																	
41			アミカワガ ^ワ	Perlodidae sp.	○					○																	
42	ハ ^ハ ツカ	コホキ ^ス	ハツカコホキ ^ス	Nippancistriger testaceus						○																	
43			セシ ^シ ツユシ	Ducetia japonica						○																	
44			ツユシ	Phaneroptera falcata							○																
45	キリキ ^ス		アノノ ^ノ ツユシ	Phaneroptera nigroantennata						○																	
46			ヘリ ^リ ツユシ	Psyrana japonica					○		○																
47			ウス(四ササキ)	Conocephalus chinensis						○		○															
48	コホ ^ホ オツネキ		オホ ^ホ オツネキ	Conocephalus gladiatus						○																	
49			コホ ^ホ オツネキ	Conocephalus japonicus							○																
50			オツネキ	Conocephalus melaeus							○		○														
51	ヒキ ^ス		コホ ^ホ オツネキ	Cosmetura fenestrata						○																	
52			ヒキ ^ス	Eobiana engelhardti subtropica						○		○															
53			ハヤノアイト	Hexacentrus hareyamai							○		○														
54	マツシ		ヒメカキリ	Ruspolia dubia						○																	
55			オツネキ	Ruspolia lineosa							○		○														
56			Tettigonia 属	Tettigonia sp.							○		○														
57	コホキ ^ス		カンタノ	Oecanthus longicauda						○																	
58			カンホ ^ホ オツネキ	Loxoblemmus amoriensis							○		○														
59			ハツカカホ ^ホ オツネキ	Loxoblemmus campestris								○		○													
60	ヒハ ^リ オツネキ		モリカホ ^ホ オツネキ	Loxoblemmus sylvestris							○																
61			エマコホ ^ホ オツネキ	Teleogryllus emma							○		○														
62			ツツ ^ツ オツネキ	Velarifictorus mikado								○		○													
63	ヤトヒバ ^リ		マダ ^ダ ラズ	Dianemobius nigrofasciatus						○																	
64			ヤトヒバ ^リ	Homoeoxipha oblitterata							○		○														

※1：*：初夏季は夜間ホタル調査のみを実施した。
※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト（河川環境データベース 国土交通省 2015 年）」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(2) 確認種（昆虫類：現地調査）(2/17)

№	目名	科名	種名	学名	調査時期				調査方法																	
					春季	初夏季 ^a	夏季	秋季	任意	ペイトトラップ						ライトトラップ										
										B1	B2	B3	B4	B5	B6	L1	L2	L3	L4	L5	L6					
65	ハ ^ツ ク	ヒバ ^ツ リモト ^ツ キ	シバ ^ツ ス ^ツ	<i>Polionemobius mikado</i>			○	○	○				3													
66			ヤチス ^ツ	<i>Pteronemobius ohmachi</i>					○	○																
67			エリ ^ツ ス ^ツ	<i>Pteronemobius yezoensis</i>	○				○	○	○			3												
68			クサビ ^ツ リ	<i>Sivistella bifasciata</i>					○	○	○															
69			キツシバ ^ツ リモト ^ツ キ	<i>Trigonidium japonicum</i>	○						○															
70	ハ ^ツ ク	ハ ^ツ ク	シヨウリヨウバ ^ツ ツク	<i>Acrida cinerea</i>				○	○	○																
71			ヒバ ^ツ ツク	<i>Glyptobothrus maritimus maritimus</i>					○	○	○															
72			トノサマ ^ツ ツク	<i>Locusta migratoria</i>					○		○															
73			カサバ ^ツ リモト ^ツ キ	<i>Oedaleus infernalis</i>					○	○	○	○														
74			ツマギ ^ツ ロバ ^ツ ツク	<i>Stethophyma magister</i>						○		○														
75	イ ^ツ コ	イ ^ツ コ	コバ ^ツ ネナコ ^ツ	<i>Oxya yezoensis</i>						○	○															
76			ミナト ^ツ フキ ^ツ ツク	<i>Parapodisma mikado</i>					○		○															
77			ヤマトフキ ^ツ ハ ^ツ ツク	<i>Parapodisma setouchiensis</i>					○		○															
78			ホノア ^ツ ハ ^ツ ツク	<i>Atractomorpha lata</i>					○	○	○	○														
79			ヒバ ^ツ ツク	トナ ^ツ ヒバ ^ツ ツク	<i>Criotettix japonicus</i>						○		○													
80	ハ ^ツ バ ^ツ ツク	ハ ^ツ バ ^ツ ツク	ハキナ ^ツ ヒバ ^ツ ツク	<i>Euparatettix insularis</i>					○		○															
81			コバ ^ツ ネシバ ^ツ ツク	<i>Formosatettix larvatus</i>	○				○	○	○	1														
82			ハバ ^ツ ヒバ ^ツ ツク	<i>Tetrix japonica</i>	○				○	○	○															
83			ハダ ^ツ ハダ ^ツ ツク	<i>Matsumuraiella raptipicta</i>						○		○														
84			ホリキヤク	<i>Stenopocus aphidiformis</i>							○	○														
85	ク ^ツ カヤク	ク ^ツ カヤク	ウスバ ^ツ ニキヤク	<i>Amphipocus rubrostigma</i>						○																
86			キヤク	<i>Psocidae</i> sp.						○		○														
87	カ ^ツ ムシ	カ ^ツ ムシ	キヤ ^ツ ロビシツカ	<i>Cixius towadensis</i>				○		○																
88			ヒナ ^ツ ア ^ツ トツカ	<i>Delphax maritima</i>					○		○															
89			ク ^ツ ツカ	<i>Epeurysa nawaii</i>	○						○															
90			ホリミ ^ツ リツカ	<i>Saccharosydne procerus</i>					○	○	○															
91			エリ ^ツ ナ ^ツ ツカ	<i>Stenocranus matsumurai</i>						○	○	○														
92	ハ ^ツ バ ^ツ ツク	ハ ^ツ バ ^ツ ツク	アハ ^ツ ハ ^ツ ツカ	<i>Diostrombus politus</i>					○	○	○															
93			アハ ^ツ ハ ^ツ モ	<i>Geisha distinctissima</i>					○		○															
94			ハ ^ツ モ	<i>Orosanga japonicus</i>					○		○															
95			ツ ^ツ ツセ ^ツ ミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>						○	○	○														
96			シンシ ^ツ セ ^ツ ミ	<i>Hyalessa maculaticollis</i>						○		○														
97	ク ^ツ カ	ク ^ツ カ	ツツツカ ^ツ ツ	<i>Meimuna opalifera</i>					○	○																
98			ニ ^ツ ニ ^ツ セ ^ツ ミ	<i>Platypleura kaempferi</i>					○	○	○															
99			ヒナ ^ツ ツ	<i>Tanna japonensis</i>					○		○															
100			エリ ^ツ セ ^ツ ミ	<i>Tibicen japonicus</i>					○		○															
101			ツ ^ツ ツセ ^ツ ミ	ト ^ツ ヒ ^ツ ロツツセ ^ツ ミ	<i>Machaerotypus sibiricus</i>	○					○	○														
102	ツツツカ ^ツ	ツツツカ ^ツ	シバ ^ツ セ ^ツ ツツツ	<i>Aphrophora intermedia</i>					○		○															
103			マキ ^ツ ツツツ	<i>Aphrophora pectoralis</i>						○	○															
104			カ ^ツ ス ^ツ ツツツ	<i>Aphrophora vittata</i>						○	○															
105			マ ^ツ ツツツツ	<i>Awafukia nawai</i>						○	○															
106			カ ^ツ ツツツツ	<i>Lepyronia okadae</i>	○						○															
107	コ ^ツ ツツツツツツツ	コ ^ツ ツツツツツツツ	Peuceptyelus 属	<i>Peuceptyelus</i> sp.					○	○																
108			コ ^ツ ツツツツツツツ	<i>Eoscarta assimilis</i>						○	○															
109			ミ ^ツ ト ^ツ ツツツツツツツ	<i>Balclutha incisa</i>							○															
110			ツマ ^ツ ツツツツツツツ	<i>Bothrogenia ferruginea</i>	○						○	○														
111			カ ^ツ ツツツツツ	<i>Cicadella viridis</i>							○	○														
112	ツツツツツツツ	ツツツツツツツ	ウス ^ツ ツツツツツツツ	<i>Drabescus pallidus</i>					○		○															
113			ツツツツツツツ	<i>Futasujinus candidus</i>							○	○														
114			Handianus 属	<i>Handianus</i> sp.						○		○														
115			マ ^ツ ツツツツツツ	<i>Kolla atramentaria</i>	○					○	○															
116			カ ^ツ ツツツツツ	<i>Onukia onukii</i>							○		○													
117	ス ^ツ ツツツツツ	ス ^ツ ツツツツツ	カ ^ツ ツツツツツ	<i>Penthimia nitida</i>	○						○															
118			ス ^ツ ツツツツツ	<i>Podulmorinus vitticollis</i>	○				○	○	○															
119			ツツツツツツツ	<i>Scaphoideus festinus</i>						○		○														
120			イ ^ツ ツツツツツツ	<i>Stroggylocephalus agrestis</i>							○	○														
121			Typhlocyba 属	<i>Typhlocyba</i> sp.							○		○													
-	ツツツツツ	ツツツツツ	ツツツツツ 科	<i>Cicadellidae</i> sp.					○		○															
122			ツツツツツ	<i>Petalolyma bicolor</i>						○	○															
123			ツツツツツ	<i>Psylla coccinea</i>	○					○		○														
124			ツツツツツ	<i>Velinus nodipes</i>	○						○		○													
125			ツツツツツ	ツツツツツツツ	<i>Corythucha marmorata</i>						○		○													
126	カ ^ツ ツツツツ	カ ^ツ ツツツツ	ツツツツツ	<i>Adelphocoris suturalis</i>					○		○															
127			Apolygus 属	<i>Apolygus</i> sp.							○		○													

※1：※1：初夏季は夜間ホタル調査のみを実施した。
※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(3) 確認種（昆虫類：現地調査）(3/17)

№	目名	科名	種名	学名	調査時期				調査方法															
					春季	初夏季 ^a	夏季	秋季	任意	ペイトトラップ						ライトトラップ								
										B1	B2	B3	B4	B5	B6	L1	L2	L3	L4	L5	L6			
128	カメシ	カメシカメシ	ヒメダ ^ニ カハミカメ	<i>Charagochilus angusticollis</i>			○	○	○															
129			マダ ^ニ ヲカミカメ	<i>Cyphodemia saundersi</i>				○	○															
130			ムカ ^ニ カハミカメ	<i>Eurystylus coelestialium</i>					○															
131			ヒョウワカハミカメ	<i>Pilophorus setulosus</i>				○		○														
132			フタトダ ^ニ ダダ ^ニ カハミカメ	<i>Stenodema calcarata</i>					○															
133			ヲカミシ ^ニ カハミカメ	<i>Stenotus rubrovittatus</i>				○	○															
134		マダ ^ニ キヤ ^ニ カ ^ニ メ	コバ ^ニ ネキヤ ^ニ キヤ ^ニ メ	<i>Nabis apicalis</i>				○	○															
135		ヒダ ^ニ カメシ	トビ ^ニ イロサヒツカメシ	<i>Neuroctenus castaneus</i>				○	○															
136		ホバ ^ニ カメシ	ホバ ^ニ カメシ	<i>Riptortus pedestris</i>				○	○															
137		ヘリカメシ	ハリカメシ	<i>Cletus schmidt</i>					○	○														
138			ホシハラビ ^ニ ロ ^ニ カメシ	<i>Homocerus unipunctatus</i>	○			○																
139			オヤウヤホバ ^ニ カメシ	<i>Hygia lativentris</i>				○																
140		ヒメ ^ニ カメシ	ヲカヒメ ^ニ カメシ	<i>Rhopalus maculatus</i>				○	○															
—			ヒメ ^ニ カメシ科	<i>Rhopalidae</i> sp.				○		○														
141		ナダ ^ニ カメシ	ヒョウワナダ ^ニ カメシ	<i>Caridops albomarginatus</i>	○				○															
142			ニッホ ^ニ ソコバ ^ニ サダ ^ニ カメシ	<i>Dimorphopterus japonicus</i>					○	○														
143			コバ ^ニ サダ ^ニ カメシ	<i>Dimorphopterus pallipes</i>					○	○														
144			オヤナダ ^ニ カメシ	<i>Geocoris varius</i>	○				○	○														
145			キヤ ^ニ ヒョウワナダ ^ニ カメシ	<i>Horridipamera lateralis</i>	○				○	○														
146			ヒメナダ ^ニ カメシ	<i>Nysius plebeius</i>				○	○															
—			Nysius 属	<i>Nysius</i> sp.				○	○															
147			ヒダ ^ニ ナダ ^ニ カメシ	<i>Pachygrontha antennata</i>	○				○															
148			ソバ ^ニ バ ^ニ カメシ	<i>Panaorus japonicus</i>	○						1													
149			チヤモナダ ^ニ カメシ	<i>Paradielches dissimilis</i>	○				○															
150			コバ ^ニ シツコバ ^ニ サダ ^ニ カメシ	<i>Pirkimerus japonicus</i>	○				○	○														
151			ミツサダ ^ニ ナダ ^ニ カメシ	<i>Pyrgorus colon</i>				○	○															
152			コバ ^ニ ネキョウワナダ ^ニ カメシ	<i>Togo hemipterus</i>					○	○														
153		ダダ ^ニ ナダ ^ニ カメシ	ダダ ^ニ ナダ ^ニ カメシ	<i>Chauliops fallax</i>				○	○															
154		ツツカメシ	ヒメツツカメシ	<i>Elasmucha putoni</i>	○				○															
155			オキモナダ ^ニ カメシ	<i>Sastragala esakii</i>					○															
156		ツツカメシ	ミツホ ^ニ ツツカメシ	<i>Adomerus triguttulus</i>	○				○															
157		カメシ	ソバ ^ニ バ ^ニ カメシ	<i>Aenaria lewisi</i>	○					○														
158			トダ ^ニ カメシ	<i>Carbula abbreviata</i>					○	○														
159			トビ ^ニ イロカメシ	<i>Caystrus depressus</i>					○	○														
160			ア ^ニ チビ ^ニ カメシ	<i>Dolycoris baccarum</i>				○	○															
161			ナダ ^ニ メ	<i>Eurydema rugosa</i>	○				○															
162			オヤトダ ^ニ シツホ ^ニ カメシ	<i>Eysarcoris lewisi</i>	○			○	○															
163			エビ ^ニ イロカメシ	<i>Gonopsis affinis</i>					○	○														
164			ヨツホ ^ニ シカメシ	<i>Homalogenia obtusa</i>	○				○	○														
165			ヌツツカメシ	<i>Menida disjuncta</i>						○														
166			ツツ ^ニ ツツカメシ	<i>Menida violacea</i>	○				○	○														
167			ヲカサダ ^ニ カメシ	<i>Nezara antennata</i>					○	○														
168			エダ ^ニ ヲカメシ	<i>Palomena angulosa</i>					○	○														
169			ツツツツカメシ	<i>Pentatoma japonica</i>					○	○														
170			チヤバ ^ニ サダ ^ニ カメシ	<i>Plautia stali</i>	○				○															
171		マダ ^ニ カメシ	ヒメマダ ^ニ カメシ	<i>Coptosoma biguttulum</i>					○															
172			マダ ^ニ カメシ	<i>Megacopta punctatissima</i>	○				○	○														
173			オヤアムホ ^ニ	<i>Aquarius elongatus</i>					○	○														
174			アムホ ^ニ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	○				○															
175			ヒダアムホ ^ニ	<i>Gerris latiaabdominis</i>	○				○	○														
176			ハダナアムホ ^ニ	<i>Gerris nepalensis</i>					○	○														
177			コバアムホ ^ニ	<i>Gerris gracilicornis</i>						○														
178			ヤヌマアムホ ^ニ	<i>Gerris insularis</i>					○															
179			ソバアムホ ^ニ	<i>Metrocoris histrio</i>					○	○														
180		ミズ ^ニ カメシ	ハラダ ^ニ コバミシ ^ニ カメシ	<i>Sigara nigroventralis</i>					○	○														18
181		コオカメシ	コオカメシ	<i>Appasus japonicus</i>					○	○														
182			オオコオカメシ	<i>Appasus major</i>	○				○	○	1													
183		マダ ^ニ カメシ	マダ ^ニ カメシ	<i>Notonecta triguttata</i>					○	○														
184	ヘビ ^ニ トホ ^ニ	ヘビ ^ニ トホ ^ニ	タリヲカメシ ^ニ ヘビ ^ニ トホ ^ニ	<i>Parachauliodes continentalis</i>	○																			1
185			ヘビ ^ニ トホ ^ニ	<i>Protohermes grandis</i>					○															
186	アミダダ ^ニ ロウ	ヒロバ ^ニ カダ ^ニ ロウ	ヒロバ ^ニ カダ ^ニ ロウ	<i>Lysmus harmandinus</i>	○				○															1
187			キヤダ ^ニ ラビバ ^ニ カダ ^ニ ロウ	<i>Spilosmylus flavicornis</i>					○	○														
188		カダダ ^ニ ロウ	ヲカメシカダ ^ニ ロウ	<i>Dichochrysa formosanus</i>					○	○														
189		ヒダダ ^ニ ロウ	ヒダダ ^ニ ロウ	<i>Hemerobiidae</i> sp.	○																			1 2

※1：※1：初夏季は夜間ホタル調査のみを実施した。
※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成24年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2012年)」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(4) 確認種 (昆虫類：現地調査)(4/17)

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				注意	調査方法											
					春季	初夏季 ^{a)}	夏季	秋季		ベイトトラップ						ライトトラップ					
										B	B	B	B	B	B	B	B	L	L	L	L
					1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6					
190	アミミダグ ^ハ ウ	ウスバ ^ハ カグ ^ハ ウ		<i>Hagenomyia micans</i>						○											
191	シリアグ ^ハ ム	カガ ^ハ ナボ ^ハ モト ^ハ キ		<i>Bittacus takaensis</i>	○					○											
192		シリヤグ ^ハ ム		<i>Panorpa japonica</i>	○					○											
193				<i>Panorpa pryori</i>	○					○											
194	トビ ^ハ ナ	シヤトビ ^ハ ナ	Cheumatopsyche 属	<i>Cheumatopsyche</i> sp.	○									2							
195			Hydropsyche 属	<i>Hydropsyche</i> sp.	○							7	14		1						
196		ヒナ ^ハ ナガ ^ハ カワトビ ^ハ ナ		<i>Stenopsyche marmorata</i>	○									3							
197		ニンギ ^ハ ヨトビ ^ハ ナ		<i>Goera japonica</i>	○									1	1						
198		カガリヤトビ ^ハ ナ		<i>Lepidostomatidae</i> sp.	○					○											
199		エダ ^ハ リトビ ^ハ ナ		<i>Nemotaulius admorsus</i>						○						1					
200			Nothopsyche 属	<i>Nothopsyche</i> sp.						○											
-				<i>Limnephilidae</i> sp.	○						2										
201		トビ ^ハ ナ		<i>Eubasilissa regina</i>						○				1	2						
202	チヨウ	ヒナ ^ハ ナガ ^ハ キハ ^ハ ナ		<i>Odites lividula</i>						○											
203		アムハキハ ^ハ ナ		<i>Cryptolechia maIacobyrsa</i>						○				1							
204				<i>Plutella xylostella</i>												3					
205				リノコ ^ハ コ	<i>Iponomeuta malinellus</i>						○										
206				<i>Ipsolopha blandellus</i>											2						
207		ボ ^ハ ナ ^ハ ナ		<i>Cossus jezoensis</i>																	
208		ハヤナ ^ハ		<i>Adoxophyes orana fasciata</i>	○											1					
209			アトキハ ^ハ ナ	<i>Archips audax</i>						○				1							
210			オナ ^ハ ナガ ^ハ ナ ^ハ ナ	<i>Archips ingentana</i>						○				1							
211			ハナ ^ハ ナ ^ハ ナ ^ハ ナ	<i>Cryptaspasma marginifasciata</i>											1	2					
212			オナ ^ハ ナガ ^ハ ナ ^ハ ナ	<i>Epiblema foenella</i>						○					1						
213			シロシロ ^ハ ナ ^ハ ナ	<i>Hedya dimidiana</i>	○									4		1					
214			オナ ^ハ ナガ ^ハ ナ ^ハ ナ	<i>Hedya inornata</i>	○											1					
215				<i>Pandemis dumetana</i>							○				6						
216				<i>Rhopobota naevana</i>							○										
217				<i>Saliciphaga acharis</i>						○											
218	イナ ^ハ			<i>Austropoda dentata</i>						○					1	1					
219				<i>Microleon longipalpis</i>							○				1						
220				<i>Narosoideus flavidorsalis</i>						○				3	5	17					
221				<i>Parasa hilarula</i>							○			2	4	2					
222				<i>Neochalcosia remota</i>	○					○											
223	マダ ^ハ ナ ^ハ ウ			<i>Daimio tethys</i>	○					○											
224				<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>						○											
225				<i>Ochlodes ochraceus</i>						○											
226				<i>Parnara guttata guttata</i>						○											
227				<i>Polytremis pellucida pellucida</i>						○											
228				<i>Thoressa varia</i>	○					○											
229	シジ ^ハ ミチヨウ			<i>Parantica sita nipponica</i>						○											
230				<i>Celastrina argiolus ladonides</i>	○					○											
231				<i>Curetis acuta paracuta</i>						○											
232				<i>Evers argiades argiades</i>						○											
233				<i>Lampides boeticus</i>						○											
234				<i>Lycæna phlaeas chinensis</i>	○					○											
235				<i>Taraka hamada hamada</i>						○											
236				<i>Wagimo signatus</i>						○											
237				<i>Zizeeria maha argia</i>	○					○											
238	カチ ^ハ チヨウ			<i>Argynnis paphia tsushimana</i>						○											
239				<i>Argyronome ruslana</i>						○											
240				<i>Damora sagana liana</i>						○											
241				<i>Fabriciana adippe pallescens</i>						○											
242				<i>Limenitis camilla japonica</i>						○											
243				<i>Neptis sappho intermedia</i>	○					○											
244				<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>						○											
245				<i>Vanessa cardui</i>						○											
246				<i>Vanessa indica</i>						○											
247	アデ ^ハ ナ ^ハ チヨウ			<i>Papilio dehaanii dehaanii</i>						○											
248				<i>Papilio helenus nicconicolens</i>						○											
249				<i>Papilio machaon hippocrates</i>						○											
250				<i>Papilio protenor demetrius</i>	○					○											
251				<i>Papilio xuthus</i>	○					○											
252				<i>Parnassius citrinarius citrinarius</i>	○					○											

※1: *1:初夏季は夜間ホル調査のみを実施した。
 ※2: 種名や学名及びその記載頃は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト (河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。

※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(5) 確認種（昆虫類：現地調査）(5/17)

No	目名	科名	種名	学名	調査時期				調査方法															
					春季	初夏季 ^{※1}	夏季	秋季	任意	ペイトトランプ								ライトトランプ						
					B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	L 6								
253	チヨウ	シロチヨウ	ウスギチヨウ本土亜種	<i>Anthocharis scolymus scolymus</i>	○																			
254			モンギチヨウ	<i>Colias erate pollographus</i>	○			○	○	○														
255			ギチヨウ	<i>Eurema hecabe</i>	○																			
256			スズノギ [※] ウシチヨウ	<i>Pieris melete</i>	○				○	○														
257			モンシロチヨウ	<i>Pieris rapae crucivora</i>					○	○	○													
258		ジノギノギチヨウ	カヒキ [※] 本土亜種	<i>Lethe diana diana</i>	○			○	○	○														
259			ジノギノギチヨウ	<i>Minois dryas bipunctata</i>					○		○													
260			コジノギノギ	<i>Mycalopsis francisca perdiccas</i>	○						○													
261			ヒメノギノギノギ	<i>Mycalopsis gotama fulginia</i>																				
262			オシキヤダ [※] ラビキ [※]	<i>Neope goschkevitschii</i>	○				○	○	○													
263		ヤギヤダ [※] ラビキ [※] 本土亜種	<i>Neope niphonica niphonica</i>	○				○	○	○														
264			オシキヤダ [※]	<i>Ninguta schrenckii</i>					○		○													
265			ヒメノギノギノギノギノギ	<i>Ipthima argus</i>	○				○	○	○													
266			カウメノギノギノギノギノギ	<i>Agrotera posticalis</i>	○									3			2							
267			ハナナギ [※] ギヤダ [※] ラノギノギノギ	<i>Analthes maculalis</i>													1							
268		ツトノギノギノギ	シロヒメノギノギ	<i>Analthes semitritalis orbicularis</i>	○								3											
269			アサノギノギノギノギノギ	<i>Aurorobotys aurorina</i>	○									1										
270			シロツウノギノギノギノギノギ	<i>Bradina atopalis erectalis</i>					○					2	3		2							
271			モンノギノギノギノギノギ	<i>Bradina geminalis</i>					○							2	1							
272			オウメノギノギノギ	<i>Calamotrophia okanoi</i>												1								
273		ツトノギノギノギ	フタヒツトノギ	<i>Calamotrophia yamanakai yamanakai</i>										1										
274			ハナダ [※] ノギノギノギ	<i>Camptomastix hisbonalis</i>	○							1	1				1							
275			ウメノギノギノギノギノギノギ	<i>Chrysoteuchia diplogramma</i>					○								1							
276			カキ [※] ノギノギノギノギ	<i>Circobotys nycterina</i>	○										2		1							
277			ギヤヒメノギノギノギノギ	<i>Diasemia accalis</i>						○	○													
278		ツトノギノギノギ	シロツヒメノギノギノギ	<i>Diasemia reticularis</i>																				
279			カウメノギノギノギノギ	<i>Goniorhynchus butyrosus</i>					○								1							
280			オシモンシロノギノギノギノギ	<i>Hemopsis dissipatalis</i>					○					1										
281			マエギノギノギノギ	<i>Herpetogramma rude</i>							○				1									
282			カナダ [※] ツトノギノギノギノギ	<i>Herpetogramma stultale</i>	○									1										
283		ツトノギノギノギ	マノギノギノギ	<i>Maruca vitrata</i>											1									
284			シロツギノギノギノギノギ	<i>Nacoleia commixta</i>							○					1	1							
285			イノギノギノギノギ	<i>Nacoleia inouei</i>												1								
286			オシオヒ [※] オノギノギノギ	<i>Nomis albopedalis</i>	○										1									
287			シロツギノギノギノギノギ	<i>Oniodes tristrialis</i>	○									1	1									
288		ツトノギノギノギ	アス [※] ギノギノギ本土亜種	<i>Ostrinia scapularis subpacificra</i>				○					1											
289			マエバ [※] ニノギノギ	<i>Paliga mimelaha</i>	○										1									
290			マエノギノギノギノギノギノギ	<i>Palpita nigropunctalis</i>	○								1	2		1	2	1						
291			ウメノギノギノギ	<i>Pleuroptya ruralis</i>							○					3								
292			ギムズ [※] ノギノギ	<i>Prodasyenemis inornata</i>												3	1							
293		ツヒエリノギノギノギ	ツヒエリノギノギノギ	<i>Pronomis delicatalis</i>												1								
294			オノギノギノギノギ	<i>Pseudargyria interruptella</i>												4								
295			モンノギノギノギノギノギ	<i>Pseudebulea fentoni fentoni</i>					○							2		3						
296			ヒトスジ [※] オオノギノギ	<i>Scirpophaga lineata</i>					○								1							
297			ウメノギノギノギノギノギ	<i>Togabotys fuscolineatalis</i>	○				○					3			3							
298		ツトノギノギノギ	ウメノギノギノギノギ	<i>Tyspanodes striatus striatus</i>	○										1	2		1						
299			コサキノギノギノギ	<i>Udea montensis</i>							○				1			2						
300			ギノギノギノギノギノギ	<i>Acrobasis rubrizonella</i>					○								1	1						
301			ウメノギノギノギノギ	<i>Acrobasis squalidella</i>														1						
302			ウメノギノギノギノギノギノギノギノギ	<i>Addyme confusalis</i>	○										1			1						
303		ツトノギノギノギ	イナノギノギノギノギノギ	<i>Etielloides curvellus</i>	○								1											
304			ツトノギノギノギノギノギ	<i>Eulophopalpia pauperalis</i>							○						1	1						
305			ツトノギノギノギノギノギノギ	<i>Furcata dichromella</i>							○					1								
306			オノギノギノギノギ	<i>Orthaga onerata</i>										1				1						
307			オオマエノギノギノギノギノギ	<i>Paraemmalocera gensanalis</i>											1									
308		ツヒ [※] スジ [※] ノギノギノギ	<i>Patagoniodes nipponellus</i>					○								1								
309			オオノギノギノギノギ	<i>Salma amica</i>					○									2						
310			オノギノギノギノギノギ	<i>Salma elegans</i>					○									1						
311			ヒメノギノギノギノギノギノギノギ	<i>Spatulipalpia albistrialis</i>	○										1									
312			マノギノギ	<i>Thyris usitata</i>	○				○															
313		カキ [※] ノギノギ	マエノギノギノギ	<i>Agnidra scabiosa scabiosa</i>	○			○								7	17	6	3	4				
314			オノギノギノギノギノギノギ	<i>Betapsestis umbrosa</i>	○												1							
315			オシバ [※] ウメノギノギノギノギ	<i>Deroca inconclusa phasma</i>	○														1	1				
316			ヒメノギノギノギノギノギノギノギノギ	<i>Habrosyne aurorina</i>	○												1				3			

※1：*：初夏季は夜間ホタル調査のみを実施した。
※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(6) 確認種(昆虫類:現地調査)(6/17)

[illegible]

※1: *1:初夏季は夜間ホテル調査のみを実施した。
 ※2: 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト (河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。

※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(7) 確認種（昆虫類：現地調査）(7/17)

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				調査方法																	
					春季	初夏季 [※]	夏季	秋季	任意	ペイトトランプ								ライトトランプ								
										B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	L 6					
381	チヨリ	シヤクカ [*]		<i>Plagadis dolabraria</i>				○												1	2	1				
382				<i>Plagadis pulveraria japonica</i>	○		○													1	1	2	1	1		
383				<i>Praethera praefecta</i>	○															1						
384				<i>Protooarimia simplicitaria</i>	○																3			2		
385				<i>Ramobia basifuscaria</i>						○											3			1		
386				<i>Rhynchoapta cervinaria bilineata</i>	○			○		○										1	11	2	1	1		
387				<i>Rikiosatoa grisea</i>							○											4				
388				<i>Scopula modicaria</i>	○																		2			
389				<i>Selenia sordidaria</i>						○												1				
390				<i>Solitanea defricata</i>	○															1						
391				<i>Synegia hadassa hadassa</i>						○													1			
392				<i>Synegia ichinosawana</i>						○											1					
393				<i>Telenometa punctimarginaria punctimarginaria</i>	○																	1				
394				<i>Thinopteryx delectans</i>							○															
395				<i>Xerodes albonotaria albonotaria</i>	○															1			1	1		
396				<i>Xerodes rufescentaria</i>						○												2				
397				<i>Xyloscia subspersata</i>	○																1			1		
398		ツハ [*] ハダ [*]		<i>Dysaethria moza</i>	○					○												2		2		
399				<i>Epiplena styx</i>							○											1	1			
400		カ [*] コカ [*]		<i>Bombyx mandarina</i>						○												1				
401				<i>Oberthueria falcigera</i>	○			○															2	1		
402		カ [*] レカ [*]		<i>Dendrolimus spectabilis</i>				○															4			
403				<i>Dendrolimus superans</i>						○												1		2	1	
404				<i>Euthrix albomaculata directa</i>	○					○																
405				<i>Euthrix potatoria bergmani</i>						○													3		1	
406				<i>Odonestis pruni japonensis</i>						○												1	1			
407		ヤマコカ [*]		<i>Actias aliena aliena</i>	○			○		○										1	3	7	1	4		
408				<i>Antheraea yamamai yamamai</i>						○	○										3	1		1		
409				<i>Saturnia japonica japonica</i>							○											1	7			
410		スズ [*] ハダ [*]		<i>Ampelophaga rubiginosa rubiginosa</i>						○											1					
411				<i>Callambulyx tatarinovii gabyae</i>	○																1					
412				<i>Dolbina tancrei</i>	○																			2		
413				<i>Kentrochrysalis consimilis</i>	○			○													6	2	2	3		
414				<i>Marumba gaschkewitschii echepluron</i>	○			○													5	4	1	6	1	12
415				<i>Marumba sperchius sperchius</i>						○											2	2	1	1	6	
416				<i>Meganoton analis scribae</i>						○											1	1				
417				<i>Smerinthus tokyonis</i>	○																	1		1		
418		シヤクカ [*] コカ [*]		<i>Clostera anastomosis</i>						○														1		
419				<i>Chethodonta griseaens griseaens</i>	○			○												1	9		2	7		
420				<i>Cutuza straminea</i>	○																		1	1		
421				<i>Drymonia dodonides daisenensis</i>	○																			1		
422				<i>Drymonia japonica</i>	○			○												1		2		6		
423				<i>Ellida branickii</i>	○																15		2	8		
424				<i>Euhampsonia cristata</i>	○			○													2	2		2	2	
425				<i>Euhampsonia splendida</i>				○															7	10		
426				<i>Fentonia ocypte</i>	○			○												1				2		
427				<i>Gangaridopsis citrina</i>	○			○		○										1	9	4	2	8		
428				<i>Harpyia umbrosa ginkakuji</i>	○																			2		
429				<i>Hexafrenum leucodera</i>	○					○										2	3		4	1		
430				<i>Lophocosma sarantuja</i>	○															2			1			
431				<i>Micromela lophia troglodytra</i>						○														1		
432				<i>Microphalera grisea</i>	○																3	1	2	4		
433				<i>Neodymonia delia</i>						○													1	1		
434				<i>Nerice bipartita</i>	○			○												1	9	1	2	4		
435				<i>Peridea aliena</i>	○			○													1		1	1		
436				<i>Peridea gigantea</i>						○										2	3		1			
437				<i>Peridea oberthueri</i>	○			○												6	2					
438				<i>Phalera flavescens</i>						○														2		
439				<i>Pheosiopsis cinerea</i>	○															2	8		5	14		
440				<i>Prerostoma gigantium</i>	○			○															6	3	3	
441				<i>Prilodon okanoi</i>	○					○											2		1	2		
442				<i>Rosana ornata</i>						○										1						
443				<i>Semidonta biloba</i>	○					○														1	1	
444				<i>Shaka atrovittatus</i>						○													1	1	2	2

※1：*：初夏季は夜間ホタル調査のみを実施した。
※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(8) 確認種（昆虫類：現地調査）(8/17)

№	目名	科名	種名	学名	調査時期				調査方法														
					春季	初夏 ^a	夏季	秋季	任意	ペイトトラップ						ライトトラップ							
										B1	B2	B3	B4	B5	B6	L1	L2	L3	L4	L5	L6		
445	チョウ	シヤホコガ [*]	ウス(四ギ [*])モンシヤホコ	<i>Spatalia doerriesi</i>	○			○									7		2	1	4		
446			材アサシヤホコ	<i>Syntypistis cyanea cyanea</i>	○																2	1	
447			カサズ [*] シヤホコ	<i>Togapteryx velutina</i>	○																		1
448	ヒトリガ [*]	ヒトリガ [*]	ヒトリガ [*]	<i>Arctia caja phaeosoma</i>	○					○													
449			スズ [*] ニコウガ [*]	<i>Barsine striata striata</i>	○												7	15		1	3	4	
450			シロヒトリ	<i>Chionarctia nivea</i>	○							○											
451			アサズ [*] シロウガ [*]	<i>Cyana hamata hamata</i>					○								1	2			1	1	
452			ヒメホノハ [*]	<i>Dolgoma cribrata</i>	○													2				1	
453			スズ [*] ホノハ [*]	<i>Eilema deplana pavescens</i>	○																		1
454			ニヒキアホノハ [*]	<i>Eilema nankingica</i>							○									1			
455			キンホノハ [*]	<i>Eilema vetusta aegrota</i>								○						3					
456			カワアサシロヒトリ	<i>Eospilarctia lewisii</i>	○														1				2
457			キエカホノハ [*]	<i>Ghonia collitoides</i>	○																		1
458			カワゴ [*] マダ [*] アヒトリ	<i>Lemyra imparilis</i>	○															1			
459			カミヤホノハ [*]	<i>Pelosia ramosula jezoensis</i>						○									1	3	1		1
460			アサアサゴ [*] マダ [*] アヒトリ	<i>Spilosoma punctarium</i>	○																	1	1
461		ト [*] ウガ [*]	ト [*] ウガ [*]	ト [*] ウガ [*]	<i>Artaxa subflava</i>					○											1	1	
462				スズ [*] キト [*] ウガ [*]	<i>Calliteara conjuncta</i>	○																1	
463				アサヒト [*] ト [*] ウガ [*]	<i>Calliteara lunulata</i>	○																1	1
464				リョゴ [*] ト [*] ウガ [*]	<i>Calliteara pseudabietis</i>	○			○								2	2		1	1	1	1
465				マホト [*] ウガ [*]	<i>Cifuna locuples confusa</i>	○			○			○											
466				アト [*] ウダ [*] ウガ [*]	<i>Ilema eurydice</i>				○		○							1			1		
467				キト [*] ウガ [*]	<i>Kidokuga piperita</i>	○						○						1					1
468				スウ [*] アサト [*] ウガ [*]	<i>Laelia gigantea</i>								○								3		
469				マヤウガ [*]	<i>Lymantria dispar japonica</i>						○			○									
470				サウアウホシ	<i>Acronicta adaucta</i>	○																	1
471	ヤガ [*]	ヤガ [*]	アサウサ [*] マダアサヒトリ	<i>Amphipyra erebina</i>					○									1			1		
472			アサアサヒトリ	<i>Amphipyra livida corvina</i>						○								1			1	1	
473			アサアサアサヒトリ	<i>Amphipyra pyramidea yama</i>						○									2			1	
474			アサズ [*] マダアサアサヒトリ	<i>Amphipyra schrenckii</i>								○								1			
475			アサズ [*] アサアサヒトリ	<i>Amphipyra tripartita</i>									○					1					
476			ホノハ [*] ホノハ [*] アウガ [*]	<i>Anachrostitis minutissima</i>								○									1		
477			ウサ [*] リウホシ	<i>Anacronicta nitida</i>	○					○							1	6				1	
478			ホノハ [*] アサアサアサヒトリ	<i>Apamea hamponi</i>	○														1				
479			アサアサヒト [*] ヨトリ	<i>Athetis lineosa</i>	○														1		1		
480			ヒメササ [*] スズ [*] ヨトリ	<i>Athetis stellata</i>	○															1		3	
481			モウサウガ [*]	<i>Axylia putris</i>	○							○									1	2	
482			コウアサアサヒト [*]	<i>Blasticorhinus ussuriensis</i>							○							1					
483			ホノハ [*] アサアサアサヒト [*]	<i>Bomolocha nigrobasisalis</i>	○															1			
484			アサアサアサヒト [*]	<i>Bomolocha zilla</i>	○																		
485			ウサアサアサアサヒト [*]	<i>Bryophilina mollicula</i>	○																	4	
486			マダ [*] アサアサアサヒトリ	<i>Callopietria repleta</i>							○									1			
487			マサアサアサヒト [*]	<i>Catocala duplicata</i>								○										1	
488			ゾ [*] アサアサアサヒト [*]	<i>Catocala jonasi</i>								○							1	1			
489			アサアサヒト [*]	<i>Catocala nivea nivea</i>																1			
490			ヒトリアサヒトリ	<i>Chalconyx ypsilon</i>	○												1						
491			マサアサアサヒト [*]	<i>Chorsia japonica</i>	○												1				1		
492			アサ [*] アサヒト [*]	<i>Chorsia noloidea</i>							○										1		
493			カサアサアサヒト [*]	<i>Chrysorithrum amatum</i>	○							○										2	
494			ホノハ [*] アサ [*] アサヒトリ	<i>Chytonix subalbonotata</i>	○														1				
495			ホノ [*] アサアサヒトリ	<i>Colocasia jezoensis</i>						○										1			
496			アサアサアサアサヒト [*]	<i>Corgatha obsoleta</i>	○															1			
497			カサアサアサヒト [*]	<i>Craniophora jankowskii</i>	○																	1	
498			アサヒト [*] アサアサヒトリ	<i>Ctenostola sparganoides</i>													12	4					
499			アサズ [*] アサヒト [*]	<i>Deltote bankiana amurula</i>	○																	3	
500			アサアサアサヒト [*]	<i>Diarsia canescens</i>	○						○							1	2		1	2	
501			コウアサアサヒト [*]	<i>Diarsia deparca</i>	○															1		1	
502			ウサズ [*] アサヒト [*]	<i>Dinumma deponens</i>	○																	1	
503			アサアサアサアサアサヒト [*]	<i>Diomea discisigna</i>						○								1				1	
504			マサアサアサアサヒト [*]	<i>Diomea jankowskii</i>	○																	1	
505			ゴ [*] アサアサヒトリ	<i>Gortyna fortis</i>								○								1			
506			ウサアサアサアサヒト [*]	<i>Herminia arenosa</i>	○															2			
507			カサズ [*] アウガ [*]	<i>Herminia grisealis</i>								○										1	
508			ヒト [*] アサアサヒト [*]	<i>Herminia tarsicrinalis</i>	○							○						3	3		2	3	1

※1：※1：初夏季は夜間ホタル調査のみを実施した。
※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠したが，一部については図鑑等の文献を参考にした。
※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(10) 確認種(昆虫類：現地調査)(10/17)

[illegible]

※1: *1:初夏季は夜間ホテル調査のみを実施した。
 ※2: 種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト (河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。

※3:表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(12) 確認種（昆虫類：現地調査）(12/17)

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				調査方法															
					春季	初夏季 [※]	夏季	秋季	任意	ペイトトランプ								ライトトランプ						
										B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	L 6			
688	コリチュウ	オオムシ	カサガサ オオムシ	<i>Carabus procerulus procerulus</i>	○		○	○					1	1	2									
689			アホコ オオムシ	<i>Chlaenius abstersus</i>			○					1												
690			オサトホシ オオムシ	<i>Chlaenius micans</i>	○								1											
691			アホコ シオオコ ムシ	<i>Chlaenius naeviger</i>	○		○	○	○	○	2	6	27	4	14									
692			アホコ ムシ	<i>Chlaenius pallipes</i>				○				1												
693			キホシ オオコ ムシ	<i>Chlaenius posticalis</i>	○		○		○			3												
694			コホシ オオコ ムシ	<i>Chlaenius varicornis</i>			○			1														
695			アトアオコ ムシ	<i>Chlaenius virgulifer</i>	○											1								
696			カモリヒオオコ ムシ	<i>Colpodes atricomes</i>	○			○										3						
697			オアアオモリヒオオコ ムシ	<i>Colpodes buchanani</i>	○																1			
698			ヤセヒリヒオオコ ムシ	<i>Colpodes elainus elainus</i>	○						1													
699			Colpodes hakonus takachihoi	<i>Colpodes hakonus takachihoi</i>					○	○														
700			サトモリヒオオコ ムシ	<i>Colpodes limodromoides</i>	○																	1		
701			セアヒヒオオコ ムシ	<i>Dolichus halensis</i>					○	○														
702			ハ ーウホリアオオコ ムシ	<i>Dromius batesi</i>					○	○														
703			オアアトオコ ムシ	<i>Dromius prolixus</i>				○																
704			スジアオコ ムシ	<i>Haplochlaenius costiger</i>	○						1													
705			オオスヒコモリムシ	<i>Harpalus eous</i>					○			1												
706			ヒオオコモリムシ	<i>Harpalus jureceki</i>				○											1					
707			アサアサオホホヒコモリムシ	<i>Harpalus tinctulus</i>	○				○															
708			トウリコ ムシ	<i>Lachnocrepis prolixa</i>	○				○															
709			エジハホオアトオコ ムシ	<i>Lebia fusca</i>	○													1	1	1	1	6		
710			オサアアアアトオコ ムシ	<i>Parana perforata</i>					○															
711			オサヒヒコ ムシ	<i>Platynus magnus</i>	○															1				
712			ニセアトオコ ムシ	<i>Pterostichus fuliginus</i>	○		○			1			1											
713			コホシオオコ ムシ	<i>Pterostichus microcephalus</i>					○		1													
714			キオオコ ムシ	<i>Pterostichus planicollis</i>	○		○	○	○	○		6												
715			ニョウリヒオオコ ムシ	<i>Pterostichus polygenus</i>	○						1													
716			アジミジオオコ ムシ	<i>Pterostichus sulci tarsis</i>	○							1												
717			ヨトモオコ ムシ	<i>Pterostichus yoritomus</i>	○		○	○	○	○	1	3	2	8										
718			オホホアサヒヒオオコ ムシ	<i>Synuchus arcuaticollis</i>	○			○			20	3	1	1	14									
719			カウウヒヒオオコ ムシ	<i>Synuchus cycloderus</i>	○			○	○	○	4	3	2	7	25	1								
720			コホアサヒヒオオコ ムシ	<i>Synuchus melantho</i>								2	3											
721			オサアアアアヒヒオオコ ムシ	<i>Synuchus nitidus</i>			○	○	○		7	3	11	2	15	1								
722			ムササヒオオコ ムシ	<i>Trigonognatha coreana</i>			○						1											
723			アホコ オオムシ	<i>Trigonognatha cuprescens</i>			○						1	1										
724	ハシムシ		オホアサアハシムシ	<i>Cylindera ovipennis</i>	○					1														
725	ヒノコオウ		アサヒノコオウ	<i>Agabus japonicus</i>			○		○															
726			ホリヒノコヒノコオウ	<i>Copelatus weymanni</i>			○													5				
727			カウヒノコオウ	<i>Cybister brevis</i>					○	○														
728			オホホアサノコオウ	<i>Graphoderus adamsii</i>				○	○	○														
729			モササヒノコオウ	<i>Platambus pictipennis</i>				○	○	○	1													
730			ヒノコノコオウ	<i>Rhantus suturalis</i>				○	○	○														
731	ミズアサ		ミズアサ	<i>Gyrinus japonicus</i>				○	○	○														
732	コホシアミズムシ		コホシアミズムシ	<i>Pelodytes intermedius</i>			○												1					
733	コアアヒノコオウ		コアアヒノコオウ	<i>Noterus japonicus</i>			○	○	○	○														
734	カムシ		トホハノコアサオホムシ	<i>Berosus lewisii</i>			○													17				
735			キホリヒヒオオムシ	<i>Enochrus japonicus</i>				○	○															
736			コホムシ	<i>Hydrochara affinis</i>				○	○	○														
737			カムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i>				○		○														
738	カサアアムシ		カサヒアサヒアサアムシ	<i>Catopodes fuscifrons</i>	○					1														
739	シアムシ		オサヒアサアムシ	<i>Eusilpha japonica</i>			○					2			1									
740			カサアムシ	<i>Nicrophorus concolor</i>	○		○											1		1	1			
741			ヨウホシムシアムシ	<i>Nicrophorus quadripunctatus</i>	○		○	○	○	○	1	1	1	1	1	5	13		4	7	4			
742			オサアハハオオムシ	<i>Ageilus carinatus carinatus</i>	○										2									
743			カサアアムシ	<i>Cyparium mikado</i>				○																
744			アサアアオハオオムシ	<i>Indoquedius praeditus</i>	○				○															
745			サヒアサアハオオムシ	<i>Ocypus dorsalis</i>					○		1	2	1	2										
746			オサアヒアサアハオオムシ	<i>Ocypus scutiger</i>					○					1										
747			アサハオオムシ	<i>Platydacus brevicornis</i>															1					
748			カサアハオオムシ	<i>Platydacus sharpi</i>	○			○													4			
749			オサアアアアオオムシ	<i>Sepedophilus fimbriatus</i>	○				○															
750			アサアアアアオオムシ	<i>Stenus ciccideioides</i>	○				○															
751			ヤトアサアヒオオムシ	<i>Tachinus japonicus</i>	○				○															

※1：*：初夏季は夜間ホタル調査のみを実施した。
※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(13) 確認種（昆虫類：現地調査）(13/17)

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				調査方法															
					春季	初夏季 [※]	夏季	秋季	任意	ペイトトラップ								ライトトラップ						
					B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	L 6								
752	コリチユウ	ハチカシ	ナミシシバ ^ハ ハチカシ	<i>Velleius dilatatus</i>																				
753		マハナノミ	マハナ ^ハ マハナノミ	<i>Contacyphon granulosis</i>																				
—			Contacyphon 属	<i>Contacyphon</i> sp.																				
754			トビ ^イ イロハナノミ	<i>Scirtes japonicus</i>	○																			
755		セウコガ ^ネ	セウコガ ^ネ	<i>Phelotrupes laevistriatus</i>	○			○	○	○	1	7		5	2	6	1							
756		カウガ ^ハ ハムシ	カウガ ^ハ ハ	<i>Dorcus rectus rectus</i>	○			○		○								2						
757			ミヤマカウガ ^ハ ハ	<i>Lucanus maculifemoratus maculifemoratus</i>				○		○							1							
758			ノコギ ^リ カウガ ^ハ ハ	<i>Prosopocoilus inclinatius inclinatius</i>				○											1					
759		コガ ^ネ ハムシ	コイチヤコガ ^ネ ネ	<i>Adoretus tenuimaculatus</i>	○																			
760			オオスジ ^コ ガ ^ネ ネ	<i>Anomala costata</i>					○										16					
761			ト ^ウ ガ ^ネ ネダ ^イ ア ^イ	<i>Anomala cuprea</i>					○										1					
762			ヒコガ ^ネ ネ	<i>Anomala rufocuprea</i>					○															
763			スジ ^コ ガ ^ネ ネ	<i>Anomala testaceipes</i>				○		○					1		1	1						
764			アハハハムシ ^リ	<i>Cetonia roelofsi roelofsi</i>				○																
765			コアハハムシ ^リ	<i>Gametis jucunda</i>	○																			
766			ナガ ^チ ヤコガ ^ネ ネ	<i>Heptophylla picea</i>						○														
767			ヒ ^ロ ガ ^ネ コガ ^ネ ネ	<i>Maladera japonica japonica</i>	○				○			1					1		1	1				
768			ヒヒ ^ロ ガ ^ネ コガ ^ネ ネ	<i>Maladera orientalis</i>	○						○													
769			コアコガ ^ネ ネ	<i>Melolontha japonica</i>				○		○					1		2		1					
770			ヒメスジ ^コ ガ ^ネ ネ	<i>Mimela flavilabris</i>														1						
771			ハナガ ^ハ ヒ ^ロ ガ ^ネ コガ ^ネ ネ	<i>Nipponoserica pubiventris</i>	○																			1
772			ヒナハハムシ ^リ	<i>Nipponovalgus angusticollis angusticollis</i>	○						○													
773			コア ^ハ マハムシ ^ハ コガ ^ネ ネ	<i>Onthophagus atripennis</i>					○															
774			マコガ ^ネ ネ	<i>Popillia japonica</i>					○															
775			シロチンハムシ ^リ	<i>Protaetia orientalis submarmorea</i>					○															
776			ナガア ^ン	<i>Pseudotorynorrhina japonica</i>					○															
777			ナガアア ^ン	<i>Rhomborhina polita</i>				○		○														
778			アハハアア ^ン	<i>Rhomborhina unicolor unicolor</i>					○															
779			ナガア ^ン ハムシ	<i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i>					○		○													2
780		ナガ ^ハ ハノミ	ヒガ ^ハ ナガ ^ハ ハノミ	<i>Paralichas pectinatus</i>	○						○													
781		ナガハムシ	ヒガナガ ^ハ ナガ ^ハ ハムシ	<i>Agrilus hattorii</i>	○						○													
782			ナガ ^ハ イナガ ^ハ ナガハムシ	<i>Agrilus tempestivus</i>	○						○													
783			オアアアナガ ^ハ ナガハムシ	<i>Agrilus tibialis</i>	○						○													
784			ナガ ^ハ ナガ ^ハ ナガハムシ	<i>Trachys auricollis</i>					○															
785			ナガ ^ハ ナガ ^ハ ナガハムシ	<i>Trachys minuta salicis</i>	○						○													
786			ナガ ^ハ ナガ ^ハ ナガハムシ	<i>Trachys tsushimae</i>					○															
787			ナガ ^ハ ナガ ^ハ ナガハムシ	<i>Trachys yanoi</i>	○						○													
788		コナガハムシ	オアアオアア ^リ コナガハハハ	<i>Actenicerus kiasianus</i>	○																			
789			ナガ ^ハ ナガ ^ハ	<i>Agrypnus binodulus binodulus</i>	○				○			1												
790			ナガ ^ハ ナガ ^ハ ナガハハハ	<i>Denticollis nipponensis nipponensis</i>	○						○													
791			ナガ ^ハ ナガ ^ハ ナガハハハハハ	<i>Dolerosomus gracilis</i>	○						○													1
792			ナガ ^ハ ナガ ^ハ ナガハハハハハハハ	<i>Ectinus sericeus sericeus</i>	○																			1
793			ヒガナガ ^ハ ナガ ^ハ ナガハハハハハハハハハ	<i>Gaempenthes similis</i>					○															
794			ナガ ^ハ ナガ ^ハ ナガハハ																					

※1：*：初夏季は夜間ホタル調査のみを実施した。
※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(14) 確認種（昆虫類：現地調査）(14/17)

No.	目名	科名	種名	学名	調査時期				調査方法																
					春季	初夏季 [※]	夏季	秋季	任意	ペイトトランプ								ライトトランプ							
										B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	L 6				
815	コリチュウ	ホタル	ヘナホ [*] タル	<i>Luciola lateralis</i>			○	○																	
816			ヒホ [*] タル	<i>Luciola parvula</i>				○																	
817	ヘ [*] ニホ [*] タル		ヒナカムヘ [*] ニホ [*] タル	<i>Lyponia osawai</i>																					
818		ホタル	カムヘ [*] ニホ [*] タル	<i>Lyponia quadricollis</i>			○																		
819			カシカ [*] ヘ [*] ニホ [*] タル	<i>Macrolycus flabellatus</i>			○																		
820	カウコウシ		ダ [*] ンダ [*] カウコウシ	<i>Stigmatium pilosellum</i>			○																		1
821	ジ [*] ヨウカイト [*] キ	テントウシ	ウキアノジ [*] ヨウカイト [*] キ	<i>Malachus prolongatus</i>			○																		
822			ヒナホホシテントウ	<i>Chilocorus kumanae</i>				○																	
823			アホホシテントウ	<i>Chilocorus rubidus</i>					○																
824		ホタル	ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>			○		○	○	○														
825			ナミナントウ	<i>Harmonia axyridis</i>			○			○	○	○													
826			オニ [*] ジ [*] コウホシテントウ	<i>Henosepilachna vigintioctomaculata</i>			○			○	○	○													
827		ホタル	ジ [*] コウホシテントウ	<i>Hippodamia tredecimpunctata timberlakei</i>				○		○	○														
828			ヒナホシコテントウ	<i>Propylea japonica</i>			○			○	○	○													
829			カムラレミテントウ	<i>Scymnus kaguyahime</i>							○	○													
830		ホタル	カムラレミテントウ	<i>Scymnus kawamurai</i>						○	○														
831			コホミシテントウ	<i>Scymnus posticalis</i>						○	○	○													
—			Scymnus 属	<i>Scymnus</i> sp.							○	○													
832	オキタノコシ	ホタル	オウオホシノコシ	<i>Aulacochilus sibiricus</i>				○																	
833			アホヘ [*] ヒ [*] オウオホシノコシ	<i>Neotriplax lewisii</i>																					
834	オキタノシ		ヨウホ [*] シオホシノコシ	<i>Helota gemmata</i>				○		○															
835	コダホシモト [*] キ	ホタル	ウラ [*] ロヒコダホシモト [*] キ	<i>Anadastus praeustus</i>					○																
836	ケシノシ		カムラレミシオホシノコシ	<i>Eपुरaea bergeri</i>				○			○														
—			Eपुरaea 属	<i>Eपुरaea</i> sp.							1														
837		ホタル	コヨホ [*] シオホシノシ	<i>Librodor ipsoides</i>			○																	1	
838			ヨウホ [*] シオホシノシ	<i>Librodor japonicus</i>				○			○														
839	ヒメオホシ		Stilbus 属	<i>Stilbus</i> sp.					○	○	○														
840	ホノヒメオホシ	ホタル	Psammoeclus 属	<i>Psammoeclus</i> sp.						○	○														
841	ニセヒ [*] ホ [*] ノシ		アヌホ [*] ノニセヒ [*] ホ [*] ノシ	<i>Pseudolotelus distortus</i>						○															
842	ナホ [*] ケシノシ		カムラレミナホ [*] ケシ	<i>Phloeotrypa rugicollis</i>				○																3	
843	ウチノミヨウ	ホタル	マホヘ [*] ミヨウ	<i>Epicauta gorhami</i>					○																
844	ハナノミ		チキイロヒメハナノミ	<i>Glipostenoda rosseola</i>						○															
845			カムラレミハナノミ	<i>Mordellistena comes</i>				○			○														
846	コキノコシ	ホタル	マダ [*] アコキノコシ	<i>Mycetophagus irroratus</i>					○																
847	カムミナリモト [*] キ		モウ [*] ノカムミナリモト [*] キ	<i>Oedemera lucidicollis lucidicollis</i>				○																	
848	アホホシ		ムヒ [*] コホホシ	<i>Pseudopyrochroa laticollis</i>				○			○														
849	ハナノミダノシ	ホタル	カムラレミナホ [*] ハナノミ	<i>Anaspis marseuli</i>			○																		
—			ハナノミダノシ科	<i>Scaptiidae</i> sp.					○																
850	ゴ [*] ミムダノシ		アホホシダノシ	<i>Arthromacra viridissima</i>				○			○														
851		ホタル	ズコ [*] ミムダノシ	<i>Gonocephalum japonum</i>					○																
852			ズ [*] コ [*] シコ [*] ミムダノシ	<i>Heterotarsus carinula</i>			○		○		○														
853			ナホ [*] ムムダノシ	<i>Macrolagria rufobrunnea</i>			○			○														1	
854		ホタル	カムラレミノコ [*] ミムダノシ	<i>Platydema nigroaeneum</i>			○																		
855			チヒ [*] キノコ [*] ミムダノシ	<i>Platydema sylvestre</i>			○																		
856			キノコリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyanus nigrocyanus</i>					○		○														
857	キノコムシダノシ	ホタル	モキノナホ [*] ケシノシ	<i>Penthe japana</i>						○													1		
858	カムミナリシ		セノキホシナリ	<i>Acalolepta luxuriosa luxuriosa</i>					○	○	○														
859			ゴ [*] マダ [*] アホシナリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>					○		○														
860		ホタル	アホホシナリ	<i>Aredolpoma succedanea</i>					○																
861			ハヌヒ [*] ヒダ [*] ナホ [*] カムミナリ	<i>Cleptomotopus bimaculatus</i>					○		○														
862			ヒナホリハナホシナリ	<i>Dinoptera minuta</i>			○				○														
863		ホタル	ムホウカムホホシナリ	<i>Leptura dimorpha</i>			○			○															
864			エウジ [*] ハナホシナリ	<i>Leptura ochraceofasciata ochraceofasciata</i>					○		○														
865			ミヤマホシナリ	<i>Massicus raddei</i>						○													1		
866		ホタル	ウホ [*] カムミナリ	<i>Megopis sinica sinica</i>						○													1		
867			ゴ [*] マダ [*] ナリ	<i>Mesosa japonica</i>						○															
868			ヘリダ [*] コリノコ [*] カムミナリ	<i>Nupserha marginella</i>						○															
869		ホタル	ホホリノコ [*] カムミナリ	<i>Otherea infranigrescens</i>			○																		
870			キノス傍シナリ	<i>Phytoecia rufiventris</i>				○			○														
871			キナヒシ [*] ヒメハナホシナリ	<i>Pidonia amentata kurosawai</i>				○															1		
872		ホタル	ナホ [*] ヒメハナホシナリ	<i>Pidonia signifera</i>			○																		
873			ノコ [*] リホシナリ	<i>Prionus insularis insularis</i>					○		○													3	
874			トダ [*] リノホ [*] ナホ [*] カムミナリ	<i>Pterolophia caudata caudata</i>					○		○														
875		ホタル	ヘ [*] ニホシナリ	<i>Purpuricenus temnickii</i>			○																		

※1：*：初夏季は夜間ホタル調査のみを実施した。
※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(15) 確認種（昆虫類：現地調査）(15/17)

№	目名	科名	種名	学名	調査時期				調査方法															
					春季	初夏季 [※]	夏季	秋季	任意	ペイトトランプ								ライトトランプ						
					B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	L 6								
876	コウチャウ	ハムシ	アサカ [※] 新サハムシ	<i>Acrothinium gaschkewitchii gaschkewitchii</i>	○					○														
877			キレ [※] アサハムシ	<i>Agelasa nigriceps</i>	○					○														
878			アサハ [※] アサミハムシ	<i>Altica oleracea</i>	○					○														
—			Altica 属	<i>Altica</i> sp.							○													
879			アサ [※] ノミハムシ	<i>Aphthona perminuta</i>	○					○								1						
880			ミササ [※] アサハムシ	<i>Arthrotus niger</i>	○						○													
881			ウサハムシモ [※] キ	<i>Atrachya menetriesi</i>						○														
882			ウサハムシ	<i>Aulacophora indica</i>	○						○													
883			ウサウサハムシ	<i>Aulacophora nigripennis nigripennis</i>	○						○													
884			アサ [※] 新サハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i>						○														
885			セモンジ [※] アサハムシ	<i>Cassida versicolor</i>	○						○													
886			ミモキ [※] ハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>	○						○													
887		ハサハムシ	<i>Chrysolina exanthematica laevipunctata</i>	○						○														
888		ミミ [※] ミミ [※] リトビ [※] ハムシ	<i>Crepidodera sahalinensis</i>	○						○														
889		ハ [※] アサハムシ	<i>Cryptocephalus approximatus</i>	○						○														
890		ヤサハ [※] シウウハムシ	<i>Cryptocephalus japonus</i>	○						○														
891		ウサ [※] シウウハムシ	<i>Cryptocephalus signaticeps</i>	○						○														
892		カサ [※] コトサ [※] ハムシ	<i>Dactylispa subquadrata</i>							○														
893		ウサハムシ	<i>Flautiauxia armata</i>	○						○														
894		イサト [※] リハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>	○						○														
895		カサミハムシ	<i>Gastrolina depressa</i>	○						○														
896		コサ [※] アサハムシ	<i>Gastrophysa atrocyanea</i>	○						○														
897		キサ [※] リサ [※] ハ [※] リハムシ	<i>Lema adamsii</i>							○														
898		キサハ [※] アサ [※] ハムシ	<i>Lilioceris rugata</i>							○														
899		キサ [※] ノミハムシ	<i>Luperomorpha tenebrosa</i>	○						○														
900		ト [※] ウサ [※] 新サハムシ	<i>Oomorhoides cupreatus</i>	○						○														
901		アサハ [※] 新サハムシ	<i>Pagria ussuriensis</i>	○						○														
902		ミサハ [※] シハムシ	<i>Paridea quadriplagiata</i>							○														
903		チヤハ [※] アサハムシ	<i>Phygasia fulvipennis</i>	○						○														
904		ヤサキ [※] アサハムシ	<i>Plagiodera versicolora</i>	○						○														
905		エサ [※] オサミミ [※] アサハムシ	<i>Plateumaris constricticollis constricticollis</i>	○						○														
906		キサウサミミ [※] アサハムシ	<i>Plateumaris sericea</i>	○						○														
907		アサハ [※] ミサハ [※] ハムシ	<i>Psylliodes bretinghami</i>	○						○														
—		Psylliodes 属	<i>Psylliodes</i> sp.							○														
908		キサ [※] シウハムシ	<i>Smaragdina aurita</i>	○						○														
909		ミサハ [※] アサハムシ	<i>Smaragdina semiaurantiaca</i>	○						○														
910		キサハ [※] アサ [※] ミハムシ	<i>Sphaeroderma unicolor</i>							○														
911		イサモンジ [※] アサノミハムシ	<i>Thlaspidia cribrosa</i>	○						○														
912		アサハ [※] アサハムシ	<i>Zeugophora annulata</i>	○						○														
913	ヒサ [※] アサ [※] アサハムシ	キサコヒサ [※] アサ [※] アサハムシ	<i>Euparius oculatus oculatus</i>							○														
914		ウサモンジ [※] ヒサ [※] アサ [※] アサハムシ	<i>Ozotomerus japonicus japonicus</i>	○													1							
—		ヒサ [※] アサ [※] アサハムシ科	<i>Anthrribidae</i> sp.							○														
915	ホリサ [※] アサ [※] アサハムシ	ヒサ [※] アサ [※] ホリサ [※] アサ [※] アサハムシ	<i>Pseudopirapion placidum</i>	○						○														
916		ミサハ [※] アサ [※] アサハムシ	<i>Pseudopiezotrachelus collaris</i>	○						○														
—		ホリサ [※] アサ [※] アサハムシ科	<i>Apionidae</i> sp.							○														
917	オトシブ [※]	ウサモンオトシブ [※] ミ	<i>Apoderus balteatus</i>							○														
918		ヒサノオトシブ [※] ミ	<i>Apoderus erythrogaster</i>							○														
919		アサハ [※] ミサハ [※] アサハムシ	<i>Byctiscus fausti</i>	○						○														
920		ト [※] ミサハ [※] アサハムシ	<i>Byctiscus puberulus</i>	○						○														
921		コサ [※] アサ [※] アサハムシ	<i>Deporaus unicolor</i>	○						○														
922		アサハ [※] アサハムシ	<i>Euops splendidus</i>	○						○														
923		ミサハ [※] アサハムシ	<i>Henicolabus lewisii</i>	○						○														
924		アサ [※] アサハムシ	<i>Lasiorhynchites brevirostris</i>							○														
925		ヒサノオトシブ [※] ミ	<i>Phymatopoderus pavens</i>							○														
926		アサハ [※] アサハムシ	<i>Rhodocyrus assimilis</i>	○						○														
927	アサ [※] アサハムシ	エサ [※] ヒサ [※] アサハムシ	<i>Baris ezoana</i>	○						○														
928		ミサハ [※] アサハ [※] アサハムシ	<i>Cryptorhynchus electus</i>	○													1							
929		アサキ [※] アサ [※] アサハムシ	<i>Cryptorhynchus lapathi</i>	○						○														
930		アサハ [※] アサハムシ	<i>Demimaea mori</i>							○														
931		コサハ [※] アサハムシ	<i>Eugnathus distinctus</i>	○						○														
932		ミサ [※] アサ [※] アサハ [※] アサハムシ	<i>Limnobaris japonica</i>	○						○														
933		アサ [※] アサハ [※] アサハムシ	<i>Lixus acutipennis</i>							○														
934		アサハ [※] アサハムシ	<i>Lixus impressiventris</i>							○														
935		アサハ [※] アサハムシ	<i>Moreobaris deplanata</i>							○														

※1：*：初夏季は夜間ホタル調査のみを実施した。
※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015 年)」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(16) 確認種（昆虫類：現地調査）(16/17)

№	目名	科名	種名	学名	調査時期										調査方法													
					春季	初夏季 ^a	夏季	秋季	任意	バイトトラップ							ライトトラップ							L	L	L	L	L
										B1	B2	B	B	B	B	B	L	L	L	L	L	L	L					
936	コガチムシ	ジ ^ノ ムシ ^ノ	カサリガチ ^ノ ト ^ノ ジ ^ノ ムシ ^ノ	<i>Myliocerus griseus</i>			○	○	○																			
－			<i>Myliocerus</i> 属	<i>Myliocerus</i> sp.				○	○																			
937			ムネムシ ^ノ / ミ ^ノ ジ ^ノ ムシ ^ノ	<i>Orchestes amurensis</i>			○		○																			
938			ムネ ^ノ ミ ^ノ ジ ^ノ ムシ ^ノ	<i>Orchestes aterrimus</i>	○				○																			
939			カサ ^ノ カサ ^ノ カ ^ノ ジ ^ノ ムシ ^ノ	<i>Ornatacidetes trifidus</i>				○	○																			
940			ヒ ^ノ ズ ^ノ カサ ^ノ カ ^ノ ジ ^ノ ムシ ^ノ	<i>Phyllobius intrusus</i>	○				○																	1		
941			カサ ^ノ カサ ^ノ カ ^ノ ジ ^ノ ムシ ^ノ	<i>Rhinoncomimus niger</i>			○		○																			
942			Stereonychus 属	<i>Stereonychus</i> sp.				○	○																			
943		カサ ^ノ ムシ ^ノ	カサ ^ノ ムシ ^ノ	<i>Sipalinus gigas gigas</i>	○			○	○																			
944			ム ^ノ カサ ^ノ ムシ ^ノ	<i>Xylosandrus germanus</i>	○																			1				
945	ハチ	ミ ^ノ ジ ^ノ ハチ ^ノ	ミ ^ノ ジ ^ノ ハチ ^ノ	<i>Arge nipponensis</i>	○				○																			
－			Arge 属	<i>Arge</i> sp.	○				○																			
946			カサ ^ノ カサ ^ノ カ ^ノ ジ ^ノ ハチ ^ノ	<i>Athalia infumata</i>			○		○																			
947			カサ ^ノ ジ ^ノ ハチ ^ノ	<i>Athalia rosae ruficornis</i>				○	○																			
948		Cladius 属	Cladius 属	<i>Cladius</i> sp.			○		○																			
949			カサ ^ノ ジ ^ノ ハチ ^ノ	<i>Dolerus similis japonicus</i>	○				○																			
－			Dolerus 属	<i>Dolerus</i> sp.	○			○	○																			
950			Empronus 属	<i>Empronus</i> sp.	○				○																			
951		Pachyprotasis 属	カサ ^ノ ハチ ^ノ	<i>Lagidina irritans</i>	○				○																			
952			Pachyprotasis 属	<i>Pachyprotasis</i> sp.	○				○																			
953			Strongylogaster 属	<i>Strongylogaster</i> sp.	○				○																			
954			Tremex 属	<i>Tremex</i> sp.			○		○																			
955	ヒメハチ	コサ ^ノ ハチ ^ノ	Rogas 属	<i>Rogas</i> sp.	○																							
－			コサ ^ノ ハチ ^ノ 科	<i>Braconidae</i> sp.	○		○		○																			
956			Dicamptus 属	<i>Dicamptus</i> sp.	○																							
957			キ ^ノ カサ ^ノ ヒメ ^ノ ヒメ ^ノ ハチ ^ノ	<i>Ephialtes rufatus</i>				○	○																			1
958		Netelia 属	Netelia 属	<i>Netelia</i> sp.				○	○																			
959			Ophion 属	<i>Ophion</i> sp.				○	○																	1		
－			ヒメハチ科	<i>Ichneumonidae</i> sp.	○		○	○	○																			
960			ジ ^ノ ホ ^ノ ジ ^ノ ハチ ^ノ 科	<i>Proctotrupidae</i> sp.				○	○																			
961		ヒメコハチ	ヒメコハチ科	<i>Eulophidae</i> sp.				○	○																			
962			カサ ^ノ ヒメコハチ科	<i>Eurytomidae</i> sp.			○		○																			
963			コサ ^ノ カサ ^ノ ハチ科	<i>Pteromalidae</i> sp.	○				○																			
964			アリ ^ノ カサ ^ノ ハチ科	<i>Bethylidae</i> sp.			○		○																			
965	アリ	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Aphaenogaster famelica</i>	○		○		○			2																
966			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Aphaenogaster japonica</i>				○	○																			
967			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Camponotus japonicus</i>	○		○		○																			
968			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Camponotus kiusiuensis</i>				○	○																			
969		アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Camponotus obscuripes</i>	○		○	○	○	2	72	58	19	19	1													
970			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Cremaatogaster teranishii</i>			○	○	○																			
971			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Formica hayashi</i>				○	○																			
972			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Formica japonica</i>	○		○	○	○	3	14	34	11	4	31													
973		アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Lasius flavus</i>	○			○	○	1																		
974			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Lasius fuji</i>			○		○																			
975			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Lasius hayashi</i>	○																							
976			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Lasius japonicus</i>	○		○	○	○	16	12	44	2	1														
977	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Lasius spathopus</i>			○		○																			
978			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Myrmecina nipponica</i>	○			○	○	2																		
979			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Myrmica kotokui</i>				○	○	5																		
980			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Nylanderia flavipes</i>	○		○	○	○	49	235	20	1	84	3													
981		アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Phacole fervida</i>	○		○	○	○	203	625	1	6	466	690													
982			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Pristomyrmex punctatus</i>	○		○	○	○			6		1														
983			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Vollenhovia emeryi</i>			○		○			4																
984			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Eumenes micado</i>			○		○																			
985		アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Oreumenes decoratus</i>			○	○	○																			
986			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Stenodynerus chinensis similis</i>			○		○																			
987			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Parapolybia indica indica</i>			○		○																			
988			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Polistes chinensis antennalis</i>			○		○																			
989	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Polistes nipponensis</i>	○		○	○	○																			
990			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Polistes rothneyi iwatai</i>			○		○																			
991			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Polistes snelleni</i>			○		○																			
992			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Vespa analis</i>				○	○																			
993		アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Vespa ducalis</i>			○		○																			
994			アリ ^ノ カサ ^ノ アリ	<i>Vespa mandarina</i>	○			○	○																			

※1：*1:初夏季は夜間ホタル調査のみを実施した。
※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠したが、一部については区鑑等の文献を参考にした。
※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

表 8.8-33(17) 確認種（昆虫類：現地調査）(17/17)

№.	目名	科名	種名	学名	調査時期										調査方法									
					春季	初夏季 ^a	夏季	秋季	任意	ペイトトラップ					ライトトラップ									
										B 1	B 2	B 3	B 4	B 5	B 6	L1	L2	L 3	L4	L5	L6			
995	ハチ	スズメバチ	キロスズメバチ	<i>Vespa similina</i>			○	○	○															
996			クロスズメバチ	<i>Vespa flaviceps</i>					○															
997			ベッコバチ	オオモノクロメバチ	<i>Anoplius samariensis</i>				○															
—			Anoplius 属	Anoplius sp.	○					○														
998			Auplopus 属	Auplopus sp.					○															
999			Priocnemis 属	Priocnemis sp.	○					○														
1000		ウチバチ	オオハナナガウチバチ	<i>Megacampsomeris grossa matsumurai</i>						○	○													
1001		ギンダチバチ	ヤマト効ガウバチ	<i>Tachysphex nigricolor nigricolor</i>				○			○													
1002		アリヌキバチ	Pemphredon 属	Pemphredon sp.				○																
1003		ヒメバチバチ	Andrena 属	Andrena sp.	○					○														
1004		ミツバチ	Amegilla 属	Amegilla sp.				○			○													
1005			ニホンミツバチ	Apis cerana japonica	○			○		○														
1006			セイヨウミツバチ	Apis mellifera					○		○													
1007			コマルバチ	Bombus ardens ardens	○																			
1008			トウヤクバチバチ	Bombus diversus diversus	○					○														
1009			オオヤクバチバチ	Bombus hypocrita hypocrita					○															
1010			クママルバチバチ	Bombus ignitus				○																
1011			キタヒツヤクバチバチ	Ceratina flavipes					○															
1012			シロスズメバチナガバチ	Eucera spurcatipes	○				○															
1013			キムネメバチ	Xylocopa appendiculata circumvolans	○			○		○														
1014		ムシジロバチ	Colletes 属	Colletes sp.					○															
1015		コバチバチ	アカガネコバチバチ	Halictus aerarius				○		○														
1016			オヒメハナコバチバチ	Lasioglossum mutilum	○				○															
1017			アサモカコバチバチ	Lasioglossum scitulum				○		○														
—			Lasioglossum 属	Lasioglossum sp.				○		○														
1018		ハナバチバチ	Megachile sculpturalis					○		○														
—	17 目	209 科	1018 種	—	487 種	3 種	529 種	351 種	619 種	29 種	23 種	21 種	25 種	27 種	22 種	115 種	166 種	49 種	125 種	112 種	164 種			

※1：*1：初夏季は夜間ホテル調査のみを実施した。
※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成26年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠したが，一部については図鑑等の文献を参考にした。
※3：表中の数値は捕獲個体数を示す。

(ii) 注目すべき種

現地調査で確認された昆虫類のうち表 8.8-13に示す基準に該当する注目すべき種は、表 8.8-34に示すとおり 7 目 13 科 21 種が確認された。注目すべき種の確認位置及び個体数は図 8.8-15(1)～(4)に示すとおりである。

また、注目すべき種のうち予測対象種※の特性及び確認状況は表 8.8-35(1)～(10)に示すとおりである。

※：表 8.8-13の注目すべき種の選定基準のうち、仙台市における保全上重要な種の区分は「学術上重要種」、「減少種」、「環境指標種」、「ふれあい保全種」に区分されているが、「学術上重要種」と「減少種」の中でも以前に比べて減少傾向にあり現在ほとんど見ることが出来ず特に稀といわれている A ランクの種を予測対象種とした。B・C ランクの「減少種」及び「環境指標種・ふれあい保全種」には、調査範囲を含む仙台市周辺に普遍的に生育・生息している種が多く含まれていることから、予測対象種からは除外した。

表 8.8-34 注目すべき種（昆虫類：現地調査）

No.	目名	科名	種名	確認時期										注目すべき種選定基準													
														I								II	III	IV	V		
				春季		初夏季 ^{※1}		夏季		秋季		①	②					③	④								
				内	外	内	外	内	外	内	外		1	2	3	4	5										
1	トンボ [*]	オニヤンマ	オニヤンマ	○				○	○					*	B				○								
2		トンボ [*]	マユタテアカネ					○	○	○	○				C		C		○	○							
3			アキアカネ					○		○	○				C		C		○	○							
4			ノシメトンボ [*]					○	○	○	○				C		C		○	○							
5			マイコアカネ					○	○		○				C		C		○	○							
6			リスアカネ								○	○				B	A							VU			
7	カマキリ	カマキリ	オオカマキリ					○	○					*	C	C			○								
8	ハ [*] ッタ	ハ [*] ッタ	トノサマハ [*] ッタ						○					*	C	*			○								
9	カメムシ	セミ	エゾ [*] ゼ [*] ミ					○	○					*	B			○	○								
10		コオイムシ	コオイムシ					○	○	○	○	1		B	A	A				NT	NT						
11	チョウ	シ [*] ャノメチョウ	シ [*] ャノメチョウ					○	○					C	C	C		○									
12	コウチュウ	ゲンコ [*] ロウ	クロゲン [*] コ [*] ロウ							○				C	B	B				NT							
13			マルカ [*] タゲンコ [*] ロウ				○	○	○	○											VU						
14		ミス [*] スマシ	ミス [*] スマシ					○			○										VU						
15		カ [*] ムシ	コカ [*] ムシ					○	○	○	○										DD						
16			カ [*] ムシ				○	○													NT						
17		クワカ [*] タムシ	ミヤマクワカ [*] タ					○	○						C	B			○	○							
18				ノコキ [*] リクワカ [*] タ				○	○					C	C	C			○	○							
19		ホタル	ゲンシ [*] ホ [*] タル			○	○					1			C	B	C		○	○			NT				
20			ヒメホ [*] タル				○																NT				
21		ハチ	ミツハ [*] チ	クロマルハナハ [*] チ						○											NT						
－	7 目	13 科	21 種	1 種	0 種	1 種	2 種	15 種	15 種	7 種	10 種	2 種	1 種	15 種	11 種	10 種	0 種	9 種	11 種	7 種	4 種	0 種	0 種				
				1 種		2 種		17 種		10 種																	

※1：*1:初夏季は夜間ホタル調査のみを実施した。

※2：種名や学名及びその記載順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 26 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015 年)」に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。

※3：注目すべき種の選定基準の区分は、表 8.8-13を参照

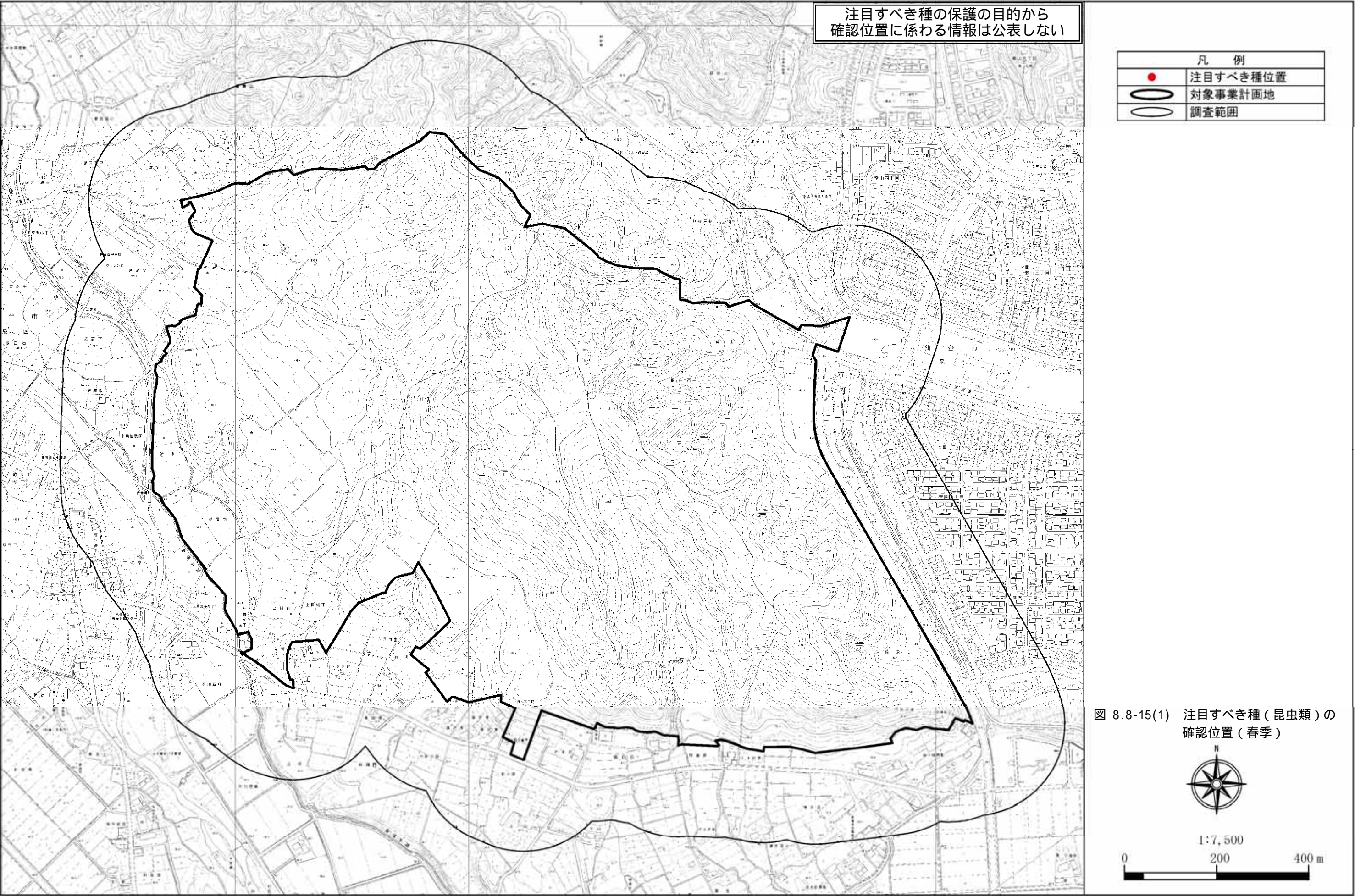
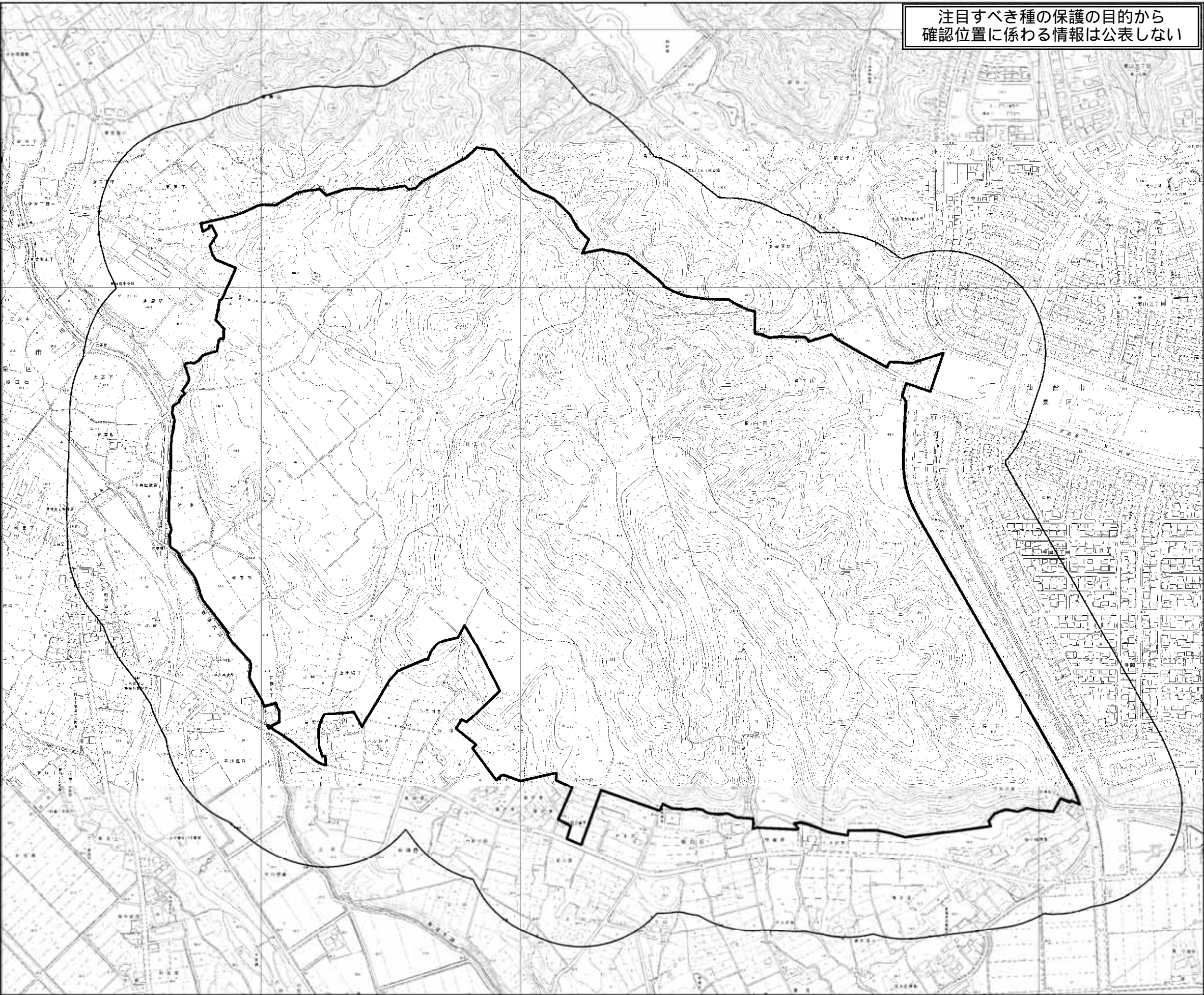


図 8.8-15(1) 注目すべき種（昆虫類）の
確認位置（春季）

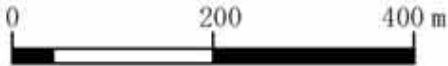


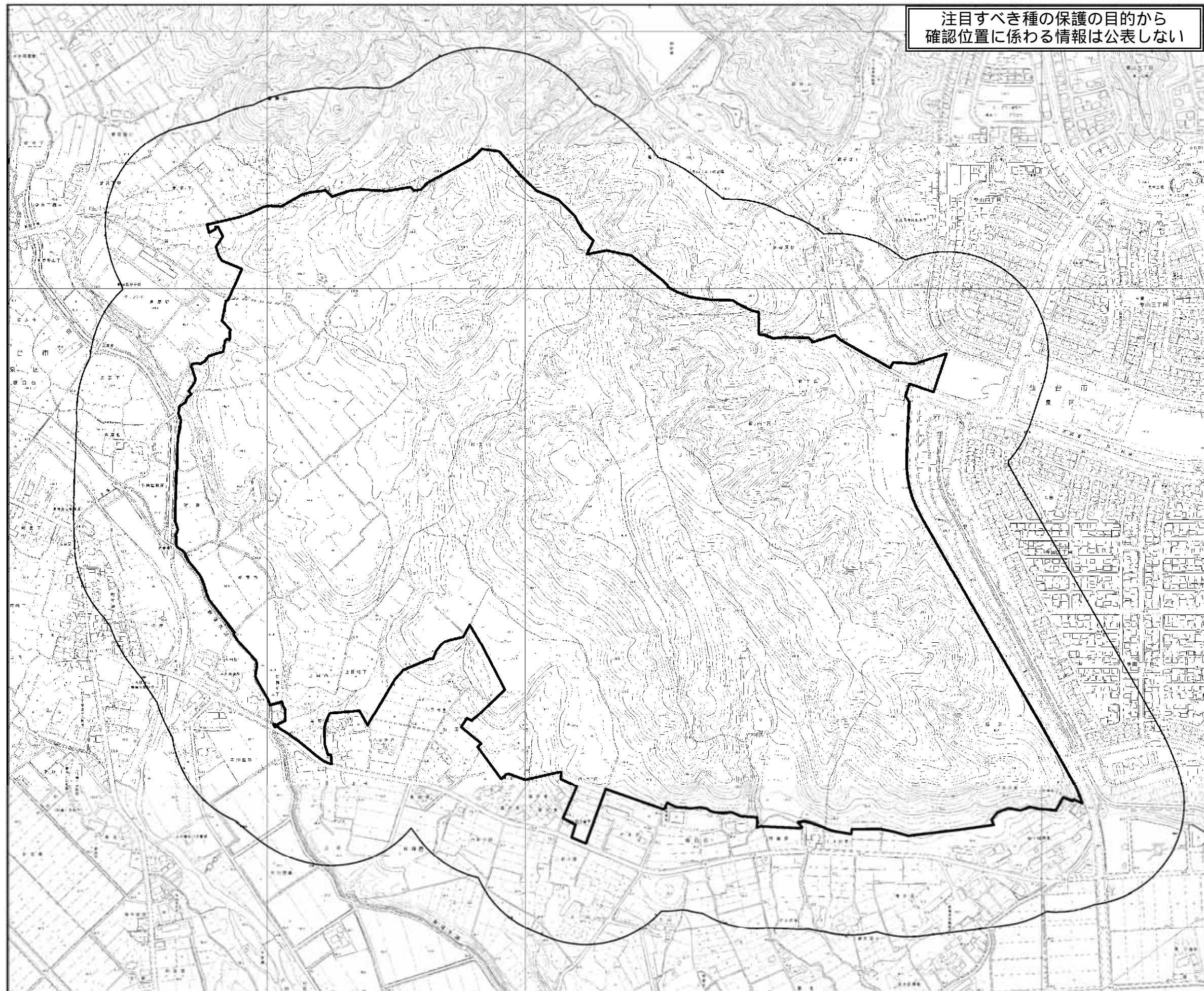
凡 例	
●	注目すべき種位置
○	対象事業計画地
○	調査範囲

図 8.8-15(2) 注目すべき種（昆虫類）の
確認位置（初夏季）



1:7,500





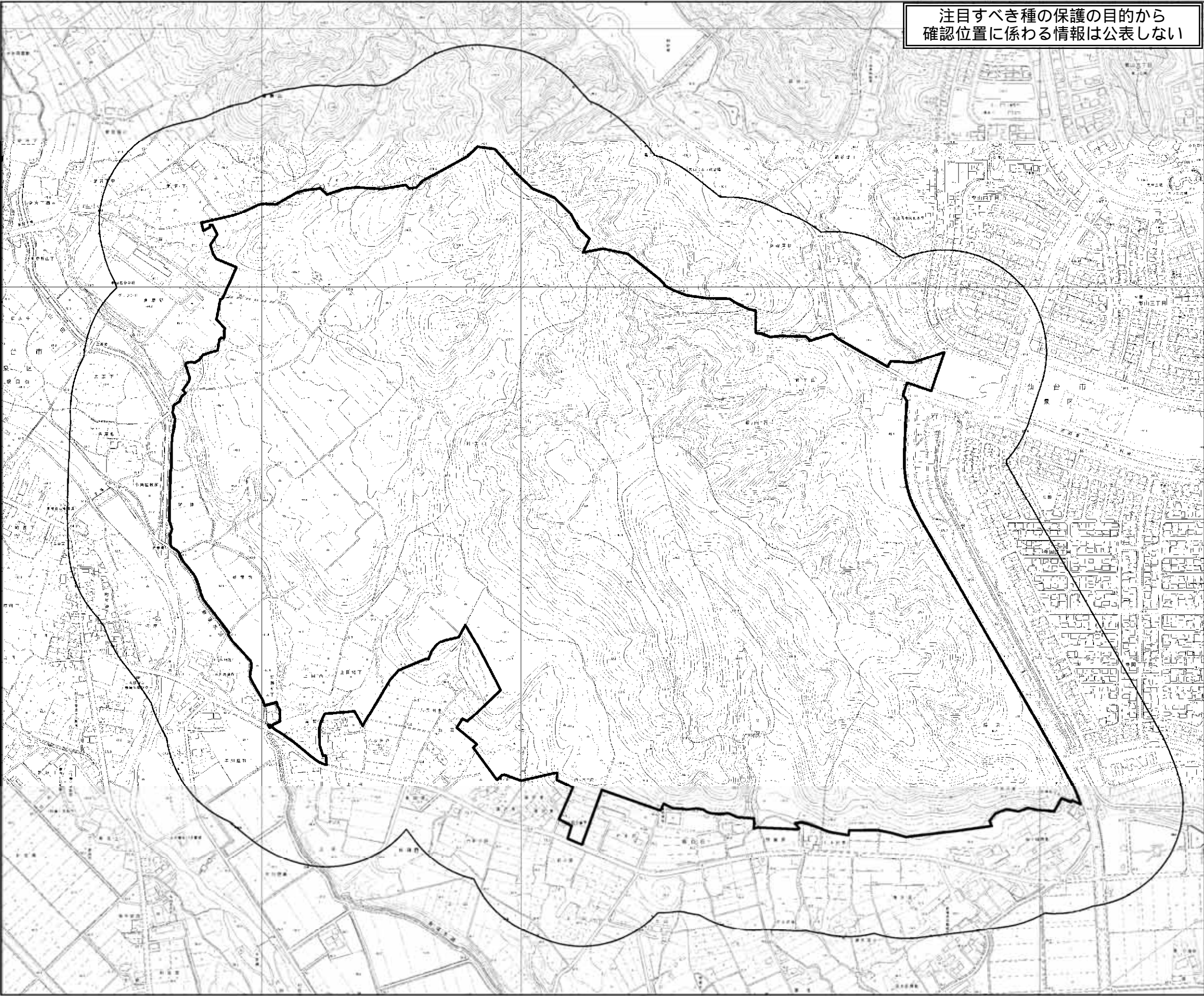
凡 例	
●	注目すべき種位置
	対象事業計画地
	調査範囲

図 8.8-15(3) 注目すべき種（昆虫類）の
確認位置（夏季）



1:7,500





凡 例	
	注目すべき種位置
	対象事業計画地
	調査範囲

図 8.8-16(4) 注目すべき種（昆虫類）の
確認位置（秋季）



1:7,500



表 8.8-35(1) 予測対象種の特性及び確認状況(リスアカネ)

種名		リスアカネ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種	ふれあい 保全種	
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園			海浜
			B	A				
	環境省 RDB				宮城県 RL		VU	
	文化財保護法				種の保存法			
種 の 特 性 （ ）	全国分布		本州， 四国， 九州に分布し， 飛島， 隠岐などの離島にも産する。					
	仙台市内の分布		青葉区上愛子。					
	形態		腹長 23～30mm。雌雄ほぼ同大。					
	生息場所		主に丘陵地や低山地の森林におおわれたやや鬱閉的な植物性沈積物の多い池沼に生息する。					
	繁殖		産卵は主に連結飛翔型。連結したまま浅い水ぎわの湿った土の上などで卵をばらまく。					
	食性		成虫幼虫ともに肉食。小昆虫などを捕らえる。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内			対象事業計画地外				
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	1		1		1		2	
	[redacted]で成虫が確認された。							

※:「原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑」(北海道大学図書刊行会, 1999 年)

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市, 2011 年)

表 8.8-35(2) 予測対象種の特性及び確認状況(コオイムシ)

種名		コオイムシ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1		B	A	A			
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL		NT	
	文化財保護法					種の保存法		
種 の 特 性 （ ）	全国分布		本州から九州に分布する。					
	仙台市内の分布		朴沢など。					
	形態		体長は 17～20mm。体は楕円形で淡褐色から黄褐色。					
	生息場所		水深の浅い開放的な止水域に生息する。					
	繁殖		雌は雄の背面(前翅上)に卵塊を産む。					
	食性		オタマジャクシ，小魚，ヤゴ，巻貝などを捕食する。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	2		2		2		2	
	[redacted]で成虫が確認されている。							

※:「レッドデータブック 2014 5 昆虫類」(環境省, 2014)

「日本産水生昆虫-科・属・種への検索-」(東海大学出版会, 2005 年)

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市, 2011 年)

表 8.8-35(3) 予測対象種の特性及び確認状況（クロゲンゴロウ）

種名		クロゲンゴロウ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
			C	B	B			
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL			
	文化財保護法				種の保存法			
種 の 特 性 （ ）	全国分布		本州， 四国， 九州に分布する。					
	仙台市内の分布		青葉区上愛子， 芋沢， 泉区朴沢。					
	形態		体長は 20～25mm。 体型は卵形。 背面は緑色あるいは褐色を帯びた黒色で， 光沢がある。					
	生息場所		水生植物の生えた池沼， 放棄水田， 水田の溝などに生息する。 産地はやや局地的だが個体数は比較的多い。					
	繁殖		水草の茎に産卵する。					
	食性		成虫， 幼虫ともに肉食。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	0		0		1		1	
	[redacted]で成虫が確認された。							

※：「レッドデータブック 2014 5 昆虫類」（環境省，2014）

「改訂版図説 日本のゲンゴロウ」（文一総合出版，2002 年）

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

表 8.8-35(4) 予測対象種の特性及び確認状況（マルガタゲンゴロウ）

種名		マルガタゲンゴロウ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	環境省 RDB		VU		宮城県 RL			
文化財保護法				種の保存法				
種 の 特 性 （ ）	全国分布		北海道，本州，四国，九州及び周辺の島々に分布する					
	仙台市内の分布		苦地，大倉など。					
	形態		体長は 12～15mm。体型は卵型で，強く盛り上がり光沢がある。前胸背と上翅は黄褐色。					
	生息場所		平地から丘陵部の周辺の里山環境が良好で水草の豊富な，水質の良い，池沼，ため池，湿地，水田，水田脇の水たまり，休耕田，放棄水田。					
	繁殖		水草の茎に産卵する。					
	食性		成虫，幼虫ともに肉食。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内			対象事業計画地外				
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	2		8		2		2	
	[redacted]で成虫が確認された。							

※：「レッドデータブック 2014 5 昆虫類」（環境省，2014）

「改訂版図説 日本のゲンゴロウ」（文一総合出版，2002 年）

「宮城県の甲虫」（日本鞘翅学会，1989 年）

表 8.8-35(5) 予測対象種の特性及び確認状況(ミズスマシ)

種名		ミズスマシ					
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市						
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園		
	環境省 RDB	VU		宮城県 RL			
文化財保護法			種の保存法				
種 の 特 性 (—)	全国分布	北海道，本州，四国，九州に分布する。					
	仙台市内の分布	定義，苦地など。					
	形態	体長は 6.0～7.5mm。体は流線型で，背面に光沢はあるがやや鈍い。					
	生息場所	池沼，水田，小川などの一般的に流れの緩やかな浅い場所に生息している。					
	繁殖	春に水草に卵を一直線に数粒ずつ並べて産みつける。					
	食性	成虫は主に水面に落ちてきた小さな昆虫などを前肢で捕えて食べる。幼虫も肉食性。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内			対象事業計画地外			
	地点数	個体(確認)数		地点数	個体(確認)数		
	1	3		1	3		
	[redacted]で成虫が確認された。						

※:「原色日本甲虫図鑑Ⅱ」(保育社, 1985 年)
「川の生物図鑑」(財団法人リバーフロント整備センター編, 1996 年)
「宮城県の甲虫」(日本鞘翅学会, 1989 年)

表 8.8-35(6) 予測対象種の特性及び確認状況(コガムシ)

種名		コガムシ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種	ふれあい 保全種	
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園			海浜
	環境省 RDB		DD		宮城県 RL			
	文化財保護法				種の保存法			
種 の 特 性 （ ）	全国分布		北海道，本州，四国，九州に分布。					
	仙台市内の分布		燕沢，苦地など。					
	形態		体長 16～18mm。体型は紡錘型。体は全体に黒色であるが，脚は赤褐色。脚は遊泳にはあまり適していない。					
	生息場所		平野部～丘陵部の有機物の豊富な浅い池沼，湿地，水田に生息する。					
	繁殖		6 月頃に水草の間に白いまゆ状のゆりかごをつくり，その中に産卵する。					
	食性		幼虫は肉食性で他の水生昆虫や巻貝などを捕食するが，成虫は主に草食性である。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内			対象事業計画地外				
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	3		9		3		5	
	[redacted]で成虫が確認された。							

※:「改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物 いしかわレッドデータブック(動物編)2009」(石川県野生動物保護対策調査会調査・執筆 石川県環境部自然保護課, 2009 年)
「宮城県の甲虫」(日本鞘翅学会, 1989 年)

表 8.8-35(7) 予測対象種の特性及び確認状況（ガムシ）

種名		ガムシ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	環境省 RDB	NT			宮城県 RL			
	文化財保護法				種の保存法			
種 の 特 性 （ ）	全国分布	北海道，本州，四国，九州，琉球列島に分布。						
	仙台市内の分布	二口峠，芋沢，さいかち沼など。						
	形態	体長 33～40mm。全身緑色を帯びた黒色で，触角・口枝は黄褐色。後胸突起は腹部第 2 節に達し，腹部は無毛。						
	生息場所	浅くて水生植物がよく繁茂した池沼・川・用水路・水田・湿地などに生息している。						
	繁殖	水面に白い泡状の分泌物からなる卵袋をつくる。						
	食性	成虫は水草をよく食べ，小動物の死骸を食べることもある。幼虫は肉食性で，巻貝を好んで食べる。						
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数	個体(確認)数			地点数	個体(確認)数		
	2	3			1	1		
	[redacted]で成虫が確認された。							

※：「日本産水生昆虫-科・属・種への検索-」（東海大学出版会，2005 年）
「川の生物図鑑」（財団法人リバーフロント整備センター編，1996 年）
「宮城県の甲虫」（日本鞘翅学会，1989 年）

表 8.8-35(8) 予測対象種の特性及び確認状況（ゲンジボタル）

種名		ゲンジボタル						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	1		C	B	C		○	○
	環境省 RDB					宮城県 RL		NT
	文化財保護法					種の保存法		
種 の 特 性 （ ）	全国分布		本州，四国，九州に分布し，日本特産種である。					
	仙台市内の分布		馬場，朴沢，茂庭，北赤石，富田，野中，泉ヶ岳，北長坂，高野原，佐保山（笹川），奥新川，定義，小松島など。					
	形態		体長約 16～18mm。体は黒色，前胸背は淡赤色で黒い十字形の紋がある。					
	生息場所		流水の岸辺に生息する。昼間は樹木や草などに潜んでいるが，日没後にゆっくりと飛びながら発光する。					
	繁殖		水際のコケなどに産卵する。					
	食性		幼虫はカワニナを餌とする。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	2		4		2		9	
	[redacted]で成虫が確認された。							

※：「川の生物図鑑」（財団法人リバーフロント整備センター編，1996 年）
「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市，2011 年）

表 8.8-35(9) 予測対象種の特性及び確認状況（ヒメボタル）

種名		ヒメボタル						
注目すべき種 選定基準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種				環境 指標種	ふれあい 保全種	
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園			海浜
	環境省 RDB				宮城県 RL		NT	
	文化財保護法				種の保存法			
種 の 特 性 （ ）	全国分布		本州， 四国， 九州， 屋久島に分布している。日本特産種。					
	仙台市内の分布		馬場。					
	形態		体長 5.5～9.6mm。♀は後翅が退化している。					
	生息場所		適度な水分を保ち， 水はけのよい林床の樹林。					
	繁殖		7～8 月に土の中に産卵する。					
	食性		幼虫はオカチョウジガイ， ベッコウマイマイなどを餌とする。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内			対象事業計画地外				
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	0		0		3		11	
	[redacted]で成虫が確認された。							

※：「原色日本甲虫図鑑（Ⅲ）」（保育社，1985 年）
「ヒメボタル観察ガイド」（折爪岳振興協議会，2004 年）
「宮城県の甲虫」（日本鞘翅学会，1989 年）

表 8.8-35(10) 予測対象種の特性及び確認状況（クロマルハナバチ）

種名		クロマルハナバチ						
注 目 す べ き 種 選 定 基 準	仙台市							
	学術上 重要種	減少種					環境 指標種	ふれあい 保全種
		山地	西部丘陵/田園	市街地	東部田園	海浜		
	環境省 RDB		NT		宮城県 RL			
	文化財保護法				種の保存法			
種 の 特 性 （ ）	全国分布		本州， 四国， 九州に分布する。					
	仙台市内の分布		分布状況は不明だが， 既往調査で記録がある。					
	形態		体長 9～23mm。雌は黒色で雄は鮮黄色。					
	生息場所		海岸線～標高 1,000m 付近まで生息する。					
	繁殖		土中において 4 月下旬から女王が単独営巢し， 6 月頃から共同営巢する。					
	食性		サクラ類やツツジ類などを訪花する。					
現 地 確 認 状 況	対象事業計画地内				対象事業計画地外			
	地点数		個体(確認)数		地点数		個体(確認)数	
	0		0		1		1	
	[redacted]で成虫が確認された。							

※：「日本の真社会性ハチ」（信濃毎日新聞社，2005 年）
「環境影響評価書 仙台市新墓園建設事業(第2期)」（仙台市，2011年）